Institute of
SCIENCE TOKYO
HOSPITAL

東京科学大学病院

東京科学大学病院
内科専門研修プログラム

2026年4月1日

東京科学大学病院内科専門研修プログラム

目次

1. 東京科学大学病院内科専門研修プログラムの理念・使命・特性……2
2. 研修プログラムの概要……4
3. 内科専門研修の到達目標……6
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得……7
5. 学問的姿勢……7
6. 医師に必要な倫理性，社会性……8
7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方……8
8. 研修コース……9
9. 内科専門研修の評価……11
10. 専門研修プログラム管理委員会……11
11. 専攻医の就業環境（労務管理）……11
12. 専門研修プログラムの改善法……12
13. 修了判定……12
14. 内科専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと……13
15. 研修プログラムの施設群……13
16. 専攻医の受入数……13
17. Subspecialty 領域……14
18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件……14
19. 内科専門研修指導医……15
20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等……16
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）……16
22. 専攻医の採用と修了……16

（資料１）東京科学大学病院内科専門研修プログラム研修コース……17
（資料２）内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について……18
（資料３）東京科学大学病院内科専門研修連携施設……19
（資料４）東京科学大学病院内科専門研修特別連携施設……21
（資料５）東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会・研修委員会……22

東京科学大学病院内科専門研修プログラム

1. 東京科学大学病院内科専門研修プログラムの理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 東京科学大学病院内科専門研修プログラム（以下，本研修プログラム）は，東京科学大学病院を基幹施設として，茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います．東京都にとどまらず，他県の各医療圏で研修を積むことにより，都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され，内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は，内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合と高度な総合内科の Generality を獲得する場合，もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して，複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します．

2) 初期臨床研修を修了した医師は，本研修プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1 年以上＋連携施設および特別連携施設 1 年以上）で，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します．

使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として，(1)高い倫理観を持ち，(2)最新の標準的医療を実践し，(3)安全な医療を心がけ，(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います．

2) 本研修プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います．

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います．

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います．大学院を併設しているため，大学院へ入学することにより高度な臨床研究が可能なことが特徴です．

特性

1) 本研修プログラムは，東京都の東京科学大学病院を基幹施設として，茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県，東京都内医療圏の 63 連携施設と研修病院群を形成し研修を行います．東京都および他県で内科専門研修を行いながら，それぞれの地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように育成します.

2) 本研修プログラムでは，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

3) 連携施設と基幹施設での 2 年間（専攻医 2 年次修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，日本内科学会病歴要約評価ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます．また、剖検症例を専攻医 2 年次修了時まで経験できるようにローテーションを組みます.

4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，2 年以内で立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．さらに地域の診療所からなる特別連携施設で，プライマリ・ケア領域における家庭医療，医療連携や健診などの予防医学を研修します.

5) 専攻医 3 年修了時で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，120 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できる体制とします．そして可能な限り，カリキュラムに定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします.

専門研修の目標および専門研修後の成果【整備基準 3】

１）病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践します. 内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践します.

２）地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します.

３）救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践します.

４）内科的視点を持った集中治療医：内科系領域における広い知識と診断能力を有する集中治療医として、重症疾患の診療と管理を実践します.

本研修プログラムでは東京科学大学病院を基幹病院として，多くの連携施設と病院群を形成しています．複数の施設での経験を積むことにより，様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています.

2. 研修プログラムの概要 【整備基準：13〜16，30】

1) 初期研修修了後，内科専門医取得を目指す医師（以下，内科専攻医）は，本研修プログラムで3年間（以上）の研修を行います
2) 専門研修の3年間は，それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム（項目表）」にもとづいて，内科専門医が取得すべき知識・技能の到達目標を設定し，基本科目修了の終わりに達成度を評価します.
3) 内科専攻医は，カリキュラムに示す 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類されている疾患群に提示されているいずれかの疾患を順次経験していきます．内科専攻医の経験は J-OSLER へ登録され，それを指導医が評価と承認を行うことにより内科専攻医の目標を達成させます．J-OSLER は，研修委員会で管理し，各専攻医の経験はリアルタイムに把握することができるので，定期的に専攻医の経験の漏れを無くすようなシステムで内科専攻医をサポートしていきます．各年次の到達目標は以下の基準を目安とします.

＜専門研修1年次＞

- 症例：専攻医はカリキュラムで定められた70疾患群のうち，20疾患群以上を経験し，J-OSLERにその研修内容を登録することを目標とします．各専攻医の症例指導医は，登録された症例の評価と承認を行います.
  専門研修修了に必要な病歴要約を 10 編以上、J-OSLER に登録し，担当指導医は登録された病歴要約の評価を行います.
- 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療に必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針の決定を指導医とともに行うことができるようにします.
- 態度：専攻医は自身の自己評価と，指導医およびメディカルスタッフによる 360 度評価と(専攻医評価と多職種評価)を複数回受け、態度の評価を行い，担当指導医がフィードバックを提供します.

＜専門研修2年次＞

- 症例：専攻医は，カリキュラムに定められた 70 疾患群のうち，通算で 45 疾患群以上の経験をし，J-OSLER に登録することを目標とします．各専攻医の症例指導医は，登録された症例の評価と承認を行います.
  内科専攻医は専門研修修了に必要な病歴要約（指定された 29 症例以上）をすべて J-OSLER に登録し，担当指導医は登録された病歴要約の評価を行います.
- 技能：専攻医は研修中の疾患群に対する診断と治療で必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします.
- 態度：専攻医は自身の自己評価と，指導医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数

回受け、態度の評価を行います．専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックを提供します．

＜専門研修 3 年次＞

- 症例：専攻医は主担当医として，カリキュラムに定める全 70 疾患群を経験し，200 症例の経験を目標とします．修了認定にはカリキュラムに定める 56 疾患群以上の経験と 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます． 症例の内訳は最終頁別表を参照）を経験し、J-OSLER へ登録しなければならない．症例指導医は，専攻医として適切な経験と知識の修得ができているかどうかを確認します．不十分と考えた場合には、フィードバックと再指導とを行います．また、既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，所属するプログラムにおける一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます．査読者の評価を受け、形成的によいものへ改訂を促します．ただし、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理を一切認めないこともあります．
- 技能：専攻医は内科領域全般にわたる診断と治療で必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針の決定を自立して行うことができるようにします．
- 態度：専攻医は自身の自己評価と，指導医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回受け、態度の評価を行います．専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力が修得されているか否かを指導医との面談を通じて評価し，さらなる改善を図ります．

［初期研修の症例取り扱いについて］

以下の条件を満たすものに限り，その取り扱いを認めます．

① 日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること．
② 主たる担当医としての症例であること．
③ 直接指導を行った日本内科指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること．
④ 内科領域の専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること
⑤ 内科領域の専門研修で必要とされる修了要件 120 症例のうち 1/2 に相当する 60 症例を上限とすること．病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とすること．

［専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験］

① 専攻医 1 年目は指導医管理の下，専攻医 2 年目以降も初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 か月以上行います．
② 当直を経験します．

4） 臨床現場を離れた学習

①大学領域別内科の症例カンファレンス，②最新のエビデンスや病態・治療法について初期研修医および内科専攻医対象のイブニングセミナーが開催されており，それを聴講し，学習します．受講歴は登録され，充足状況が把握されます．内科系学術集会，JMECC（内科救急

講習会）等においても学習します.

5) 自己学習

「研修カリキュラム項目表」にある疾患について，内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信を用いて自己学習します．個人の経験に応じて適宜DVDの視聴ができるよう図書館または e-learning（予定）の設備を準備します．また，日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします．週に1回，指導医や上級医の診療科との Weekly summary discussion や診療科でのカンファレンスを行い，その際，当該週の自己学習結果を指導医が評価し，J-OSLER に記載します.

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから，臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます．臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できる社会人大学院制度も用意されています．ただし研修修了要件は同一ですので，内科専攻医の研修到達度を勘案しながら大学院進学を内科講座責任者と相談していきます.

3. 内科専門研修の到達目標【整備基準：4，5，8～11】 (p.4 項目 2-3 参照)

1) 3年間の専攻医研修期間で，以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします.

① 70 に分類された各疾患群のうち，最低 56 の疾患群から1例を経験すること.

② J-OSLER へ症例(定められた 200 件のうち，最低 120 例)を登録し，それを指導医が確認・評価すること.

③ 登録された症例のうち，29 症例を病歴要約として日本内科学会病歴要約評価ボードへ提出し，査読委員から合格の判定をもらうこと.

④ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針を決定する能力，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得すること.

なお，習得すべき疾患，技能，態度については多岐にわたるため，「研修カリキュラム項目表」を参照してください.

2) 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急の 13 領域から構成されています．東京科学大学病院には 11 の内科系診療科があり，すべての診療科で複数領域を担当しています．また，救急疾患は各診療科や救命救急センター，集中治療科によって管理されています．東京科学大学病院においては，各内科領域の疾患を重点的に研修する体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，専門知識の習得を行ないます．連携施設は 63 施設を擁しており専門研修施設群を構築することで，内科全般的な研修や地域における医療体験が可能となります．患者背景の多様性に対応するため，都内地域または他県病院での研修を通じて

幅広い活動を推奨しています.

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得【整備基準：13】

東京科学大学病院での教育体制について記載します.

1) グループ回診
朝または夕方に，患者申し送りを行い，グループ回診を行って指導医や上級医からフィードバックを受け，指摘された課題について学習を進めます.

2) 入院患者カンファレンス：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます．受持以外の症例についても見識を深めます.

3) 診療グループカンファレンス：診療科の中でのサブグループによる回診．内科専攻医が担当している症例を報告し，指導医や上級医からのフィードバック，質疑などを行います.

4) CPC：死亡・剖検例，難病･稀少症例についての病理診断を検討します.

5) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で，患者の治療方針について検討し，様々な視点から症例を学びます.

6) 研究報告会（リサーチカンファレンス）：研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学びます.

7) Weekly summary discussion：週に 1 回，指導医や上級医と行い，その際，当該週の自己学習結果を指導医が評価し，J-OSLER に記載します.

8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で，医学科臨床実習学生や初期研修医を指導します．後輩を指導することは，“Teaching is learning”であり，自分の知識を整理・確認することにつながります．これまで本学では，初期研修医が学生を指導することが実践されてきているため，さらに発展させて，専攻医は初期研修医と学生を指導することを目標とします.

5. 学問的姿勢【整備基準：6,30】

内科専攻医は下記に示す学問的姿勢を持つことが望ましいです．本研修プログラムでは，各項目について，専門研修で経験した症例，学会報告，論文作成を通じて，内科専攻医が学問的姿勢を生涯にわたり保ち続けるようにします.

1) 患者から学ぶ姿勢を基本とする.
2) 科学的な根拠にもとづいた診断，治療を行う（EBM; Evidence based medicine）.
3) 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.

4)　診断や治療の Evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
5)　症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

6.　医師に必要な倫理性，社会性【整備基準：7】

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力，資質，態度を患者への診療を通して医療現場から学びます.

東京科学大学病院（基幹施設）と連携施設において症例経験や技術習得に関して履修し，特に連携施設において，地域住民に密着し，病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより，地域医療を実施します．また大学病院での研修中には，地域の診療所を特別連携施設として，より地域に密着した医療を経験します．本研修プログラムでは複数施設での研修を全てのコースにおいてその経験を積み，診療所，地域中核病院，大学病院という様々な医療レベルでの診療を研修することが可能です.

地域医療を経験するため，連携施設（63 施設の中から）や特別連携施設での研修期間を設けています．連携施設は，主に地域で中核となる医療機関が多いため，Common disease を始めとした内科領域全般の疾患を研修し，さらに内科 Subspecialty 領域も研修することが可能です．入院症例だけでなく外来症例も経験し，内科専門医の基本となる診療能力，知識，スキル，態度を身につけることが出来ます．なお，連携病院へのローテーションを行うことで，地域においては，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持に貢献します.

基幹施設，連携施設，特別連携施設を問わず，患者への診療を通して，医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます．インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し，接遇態度，患者への説明，予備知識の重要性などについて学習します．医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療，カルテ記載，病状説明など）を果たし，リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします.

医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため，年に 2 回以上の医療安全講習会，感染対策講習会に出席します．また,東京科学大学病院での研修期間中は病院職員研修として開催される医療倫理講習会への出席を必須とします．出席回数は常時登録されており，講習会当日に参加できない場合は，e-learning で受講が可能な体制があります．さらに院内にある総合教育研修センターで受講履歴が管理する体制がすでに確立しており，個人にフィードバックされ，受講を促されます.

7.　研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方【整備基準：25,26,28,29】

東京科学大学病院（基幹施設），連携施設および特別連携施設において症例経験や技術習得に関して履修し，地域医療を実施するため，複数施設での研修を行うことが望ましく，すべての専攻医においてその経験を求めます.

地域医療を経験するため，連携施設（63 施設の中から）と特別連携施設での研修期間を設けています．連携病院へのローテーションを行うことで，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持にも貢献できます．本学はこれまで 30 年以上も茨城県，埼玉県や長野県といった医師の少

ない地域へ医師を派遣しており，本研修プログラムでも連携施設として同地域の施設で研修を行います．連携施設では，内科の Common disease の経験が豊富であり，カリキュラムで定められた症例の経験を十分に研修することができます．入院症例だけでなく外来での経験を積み，施設内で開催されるセミナーへ参加します．

8. 研修コース【整備基準：16,25,31】

本研修プログラムでは内科専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の3つのコース，①内科領域別(11 領域)研修コースと②総合内科研修コース，③ICU・内科統合研修コースを準備しています．コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます．

Subspecialty が未決定，または高度な総合内科専門医を目指す場合は総合内科研修コースを選択します．将来の Subspecialty が決定している専攻医は内科領域別コースを選択します．内科系集中治療医を目指す場合は ICU・内科統合研修コースを選択します．いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており，専攻医は卒後 5〜6 年で内科専門医，その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます．

① 内科領域別コース

希望する Subspecialty 領域（11 領域：消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器・アレルギー，血液，神経，膠原病，感染症，腫瘍内科のうちから 1 領域）を重点的に研修するコースです．専攻医 1 年次は大学または連携施設で内科 Generality 研修を主としながら Subspecialty 領域の初期トレーニングを開始します．専攻医 2 年次は大学または連携施設で，Subspecialty 領域での研修を重点におきながら、専門研修修了に必要な内科 Generality 研修を行い 45 疾患群以上の経験を目指します．この期間，専攻医は将来希望する内科領域においてロールモデルとする指導医や上級医師から，内科医としての基本姿勢のみならず，目指す領域での知識，技術を学習することにより，内科専門医取得への目的意識を高めることができます．専攻医 3 年次には，大学または連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続して Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに，充足していない症例を経験します．研修する連携施設の選定は，希望する Subspecialty 領域の責任者，プログラム統括責任者が協議して決定します．なお，あくまでも内科専門医研修が主体であり内科専門研修に必要な症例経験(56 疾患群以上)を得られるよう Subspecialty 研修を行います（p.17 資料１参照）．また，専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は，本コースを選択の上，担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます．

＜内科研修プログラムの週間スケジュール：脳神経内科の例＞
黄色部分は特に教育的な行事です．

<table>
<tr><th>時間</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td>講師朝回診</td><td>クリニカル・カンファレンス</td><td>講師朝回診</td><td>講師朝回診</td><td>講師朝回診</td><td rowspan="8">週末日直(1回/月)</td></tr>
<tr><td>病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td>入院患者カンファレンス/Weekly Summary discussion/教授総回診</td><td>地域医療研修(診療所)</td><td>病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td>病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td></tr>
<tr><td rowspan="6">午後</td><td rowspan="2">病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td rowspan="2">准教授回診/神経学セミナー/医局会/学会予演/各種クルズス</td><td rowspan="3">病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td rowspan="2">病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td rowspan="4">地域医療研修(診療所)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導</td><td rowspan="3">臨床免疫・画像カンファランス</td></tr>
<tr><td>神経筋病理カンファランス</td><td>グループ回診</td></tr>
<tr><td>神経生理検査テクニカル・カンファレンス</td><td>神経生理カンファランス</td><td>グループ回診</td><td>stroke カンファレンス(月2回)</td><td>神経生理検査テクニカル・カンファレンス</td></tr>
<tr><td>グループ回診</td><td>リサーチカンファレンス</td><td>四科合同カンファレンス(月1回)</td><td>グループ回診</td><td>グループ回診</td></tr>
<tr><td>夜間</td><td colspan="5">当直(2回/月)</td><td>週末当直(1回/月)</td></tr>
</table>

月～金の朝または夕方に，上級医や指導医からのフィードバックを受けるグループ回診があります．なお，J-OSLER の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります．

② 総合内科コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと，将来，内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます．Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます．総合内科コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，専攻医 1 年目に大学または連携施設で 1 年間内科 Generality 研修を行います．専攻医 2 年目および 3 年目は大学または連携施設にて，引き続き内科 Generality 研修を行います．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，プログラム統括責任者，総合内科責任者（総合診療科責任者が兼務）が協議して決定します（p. 17 資料 1 参照）．

③ ICU・内科統合コース

内科専門医取得後に集中治療医を目指すコースで，希望する Subspecialty 領域もしくは Generality 研修を中心としながら，一定の期間重症管理を集中的に研修するコースです．専攻医 1 年次には大学または連携施設で 1 年間内科 Generality 研修及び Subspecialty 領域の初期トレーニングを行います．そのうち一定期間（3 ヶ月以上），ICU における超急性期・急性期の集中治療研修を行います．専攻医 2 年次は大学または連携施設にて，内科 Generality 研修や Subspecialty 領域の研修を継続します．専攻医 3 年次は大学または連携施設にて，内科研修を継続しながら ICU での集中治療研修を行います．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，プログラム統括責任者，集中治療部責任者，希望する Subspecialty もしくは総合内科責任者が協議して決定します．

9. 内科専門研修の評価【整備基準：17～22】

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と，専攻医が J-OSLER に登録した症例登録を経時的に評価し，症例要約の作成についても指導します．また，技術・技能についての評価も行います．年に1回以上，目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき，研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い，適切な助言を行います．

研修委員会は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し，必要に応じて指導医へ連絡を取り，評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います．

② 総括的評価

専攻医研修3年次の3月に J-OSLER を通して経験症例，技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います．29 症例の病歴要約の合格，所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります．

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます．

内科専門研修の修了後に実施される内科専門医試験に合格して，内科専門医の資格を取得します．

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく，メディカルスタッフ（病棟看護師長など）から指名し，年2回（6ヶ月毎）J-OSLER で多職種評価を行います．評価法については別途定めるものとします．

④ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき，Weekly summary discussion を行い，研修上の問題点や悩み，研修の進め方，キャリア形成などについて考える機会を持ちます．

10. 専門研修プログラム管理委員会【整備基準：34,35,37,39】

本研修プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を東京科学大学病院内に設置します．委員には，内科系診療科および総合教育研修センターから 1 名ずつが選任されています．プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します．さらに東京科学大学病院研修委員会委員長はプログラム管理委員会委員も兼任します（p.22 資料5参照）．

11. 専攻医の就業環境（労務管理）【整備基準：40】

研修施設責任者とプログラム統括責任者は，専攻医の適切な労働環境の整備に努め，また専攻医の心身の健康維持に配慮し，これに関する責務を負います．

「労働基準法」を順守し，東京科学大学病院においては「就業規則及び給与規則」に従い，連携施設においては，その施設の「就業規則及び給与規則」に従います．専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については，「労働基準法」や「労働安全衛生法」に準じます．給与（当直業務給与や時間外業務給与を含めて），福利厚生（健康保険，年金，住居補助，健康診断など），労働災害補償などについては，各研修施設の処遇規定，就業規則に従いますが，これらが適切なものであるか研修プログラム管理委員会がチェックを行います．育児休暇や介護休暇に関しては，「育児休業，介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」に準じます．当直あるいは時間外業務に対しては，各研修施設において専門医や指導医のバックアップ体制を整えます．専攻医の服務時間は．1 か月単位の変形労働時間を準用し，1 か月を平均して 1 週間あたり 40 時間の範囲内において定めるものとしますが，専門研修を行う施設の実態に応じて変更できるものとします．

12. 専門研修プログラムの改善方法【整備基準：49～51】

6 か月毎に研修プログラム管理委員会を東京科学大学病院にて開催し，プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し，問題点を明らかにします．また，各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます．また，研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に，プログラム管理委員会は毎年，次年度のプログラム全体を見直すこととします．

専門医機構によるサイトビジットに対しては研修管理委員会が真摯に対応し，専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け，プログラムの改善に繋げます．

13. 修了判定【整備基準：21，5】

1) J-OSLER を用いて，以下の修了要件を満たす必要があります．
   ① 主担当医としてカリキュラムに定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする．その研修内容を J-OSLER に登録する．修了認定には，主担当医として最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し，J-OSLER に登録しなければならない（各疾患領域は 50%以上の疾患群での経験が必要である.）．
   ② 29 病歴要約査読後、受理されていて,二次評価が完了していること．
   ③ J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し，医師としての適性判断を行うこと．
   ④ 技術・技能評価の到達度がプログラムの定める修了要件を満たしていること．
   ⑤ JMECC 受講歴が 1 回あること．
   ⑥ 医療安全・感染対策・医療倫理に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること,プログラムの修了要件を満たしていること．
   ⑦ 地域医療の経験について,プログラムの定める修了要件を満たしていること．
   ⑧ 教育活動・学術活動についてプログラムの定める修了要件を満たし、所定回数の内科系

学術集会に参加し,学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あること
⑨ 研修歴についてプログラムの定める指定期間を満たしていること.

2) 上記修了要件を充足していると東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会が確認し，専門研修 3 年目の 3 月に東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議の上，統括責任者が修了認定を行います．また、専攻医の事情等で研修を延長する場合は、上記修了要件を充足した時点で修了認定を行います.

14. 内科専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと【整備基準：21, 22】

プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行います．その後，専攻医は日本内科学会の行う専門医認定試験受験の申請を行ってください.

15. 研修プログラムの施設群 【整備基準：23～27】

東京科学大学病院が基幹施設となり，東京都・茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県の 63 連携施設（p19 資料 3 参照）を加えた専門研修施設群を構築することで，より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります．さらに，東京科学大学病院での研修時には，大学や連携施設では経験しにくいプライマリ・ケア領域の研修や内視鏡・エコーなどの技術研修を強化する目的で，診療所を特別連携施設としました（p. 21 資料４参照）．連携施設および特別連携施設は，いずれもこれまで東京科学大学病院内科と繋がりが深く，専攻医を受け入れている実績があり，教育の質が担保されています.

16. 専攻医の受入数

1) 東京科学大学病院に卒後 3 年目で内科系講座に入局した専攻医は 2026 年度 58 名の実績があり,2026 年度開始プログラムの採用専攻医は 40 名でした.
2) 東京科学大学病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて調整します.
3) 剖検数は，本学施設では 2025 年度 10 件で，連携施設では合計で 2022 年度 480 件あり，大学でも連携施設でも剖検経験が可能です.
4) 経験すべき症例数の充足について

表．東京科学大学病院内科診療科別診療実績

2025 年度	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
血液内科	11,070	10,955
膠原病・リウマチ内科	9,744	24,511
糖尿病・内分泌・代謝内科	2,817	19,436
腎臓内科	5,765	13,606
総合診療科	2,848	3,078

消化器内科	8,222	37,044
循環器内科	14,681	24,619
呼吸器内科	11,827	26,066
脳神経内科	11,489	14,900
感染症内科	−	817
緩和ケア科・がんゲノム診療科・臨床腫瘍科	3,308	5,081
合計	81,771	180,113

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ，全 70 疾患群のうち，70 において充足可能でした．しかし，大学病院では主に Subspecialty 研修を行うことが主であるため，内科全般を経験できる連携施設での経験も加えて大学での経験とで 56 疾患群の修了条件を満たすことができます．

5) 大学研修では，地域医療研修を平日午前や午後のうち 1 コマから 2 コマを特別連携施設にて行います．一般内科外来，健康診断業務を担当し，プライマリ・ケア領域の研修を強化させる施設や，消化器内視鏡や腹部エコーといった手技的な研修も修練できるよう施設も特別連携施設として加えました．大学だけでなく，連携施設，特別連携施設を経験して，専攻医のさまざまな希望・将来像をイメージできるよう研修施設群を用意しました．

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば，内科領域別コースを選択することになります．ある内科領域コースを選択していても，条件を満たせば内科の他領域コースに移行することも可能です（例えば消化器から呼吸器へ）．内科専門医研修修了後，各領域の専門医（例えば消化器病専門医）を目指します．

18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準：33】

1) 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 か月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします．6 か月を越えた休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします．また，疾病やその他の事情等による場合も同じ扱いとします．

2) 研修の中断の検討を行う際には，研修管理委員会は当該専攻医及び研修指導関係者と十分話し合い，当該専攻医の専門研修に関する正確な情報を十分に把握します．また，専門研修を再開する場所（同一の病院で研修を再開予定か，病院を変更して研修を再開予定か.）についても併せて検討します．

研修管理委員会は，当該専攻医がそれまでに受けた研修に係る当該専攻医の評価を行い，当該専攻医が本研修プログラムでの研修を継続することが困難であると認める場合には，統括責任者に対し，当該専攻医の専門研修を中断することを勧告します．

3) 専攻医が以下の一に該当する場合には，本研修プログラム管理委員会は専攻医に対し，プロ

グラムの中断を命ずることがあります.

ⅰ）勤務実績がよくない場合

ⅱ）心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合

ⅲ）公序を乱す行為があった場合

ⅳ）死亡又は行方不明となったとき

ⅴ）その他職務に必要な適格性を欠く場合

4）研修中に居住地の移動，その他の事情により，本研修プログラムでの研修続行が困難になった場合は，移動先の研修プログラムの研修施設において研修を続行することを原則とします．その際，移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを適用します．この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります.

19. 内科専門研修指導医【整備基準：36】

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です．専攻医を指導し，評価を行います.

【必須要件】

	必要な条件	2027年度までの暫定措置
認定資格	総合内科専門医	認定内科医
臨床経験年数	7年以上（初期研修からカウント）	
業績発表	過去5年間で3篇以上あること （共著者・共同研究者でも可。商業誌は不可）	
その他	研修プログラムに参加している施設で常勤（週4日以上、週32時間以上の勤務）していること（勤務時間が十分であれば、雇用契約上は非常勤でも可）。	

引用：https://www.naika.or.jp/nintei/j-osler/issue/

（一般社団法人日本内科学会 HP より）

20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等【整備基準：41～48】

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルに基づいて行われます．専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し，指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます.

総括的評価は内科専門研修「研修カリキュラム項目表」に則り，少なくとも年１回行います.

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）【整備基準：51】

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります．サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます．その評価はプログラム管理委員会に伝えられ，必要な場合は研修プログラムの改良を行います.

22. 専攻医の採用と修了【整備基準：52，53】

1） 採用方法

東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会にて専攻医の応募を受付けます．プログラムへの応募者は，次の方法で問い合わせを行ってください.

- 東京科学大学病院総合教育研修センターの website に記載の担当者に問い合わせる
  https://www.tmd.ac.jp/med/cpe/professional-training/field.html
- 希望する内科系診療科へ問合わせ

担当者より、必要書類を説明し，送付しますので指示に従い提出してください．原則として書類選考および面接(予定)を行い，採否を決定して本人に通知します.

2）研修の修了

全研修プログラム終了後，プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し，研修修了の可否を判定します.

審査は書類の点検と面接試験からなります.

点検の対象となる書類は以下の通りです.

(1)　専門研修実績記録
(2)　「経験目標」で定める項目についての記録
(3)　「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
(4)　指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます.

以上の審査により，内科専門医として適格と判定された場合は，研修修了となり，J-OSLER より修了証が発行されます.

（資料 1）

東京科学大学病院内科専門研修プログラム研修コース

①内科領域別コース

内科領域別コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を主としながらSubspecialty研修の初期トレーニングを行う。PGY3でJMECCを受講											
	20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修											
	45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修　必要な疾患群を経験し、Subspecialty研修を重点的に行う											
	70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は内科一般研修を主として行い内科領域研修を開始する。PGY4で内科一般研修と内科領域研修を並行し45疾患群以上の経験を目指す。PGY5は内科領域研修を重点的に行う。											
その他	研修する施設については、大学の領域別内科と内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

②総合内科コース

総合内科コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。PGY3でJMECCを受講											
	20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。											
	45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。											
	70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は連携施設で内科一般研修(1-2ヶ月ローテなど)を行う。PGY4とPGY5は大学では総合診療科または連携施設で内科一般研修を続ける。											
その他	研修する施設については、総合内科責任者(総合診療科責任者が兼務)と内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

③ICU・内科統合コース

ICU・内科統合コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を主とし、ICUでの研修も行う。PGY3でJMECCを受講											
	20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。											
	45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修, ICUでの研修を行う.											
	70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は大学で内科一般研修を行い、3か月以上のICU研修を行う。PGY4、5は大学の総合診療科または連携施設で内科一般研修を続けながら、数ヶ月単位のICU研修を行う。											
その他	研修する施設については、ICU責任者、各内科責任者、内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

（資料２）

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件

   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

（資料３）

東京科学大学病院内科専門研修連携施設

No.	所在地	病院名
1	茨城県	総合病院土浦協同病院
2	茨城県	JA とりで総合医療センター
3	茨城県	ひたちなか総合病院
4	茨城県	常陸大宮済生会病院
5	埼玉県	秀和総合病院
6	埼玉県	埼玉県総合リハビリテーションセンター
7	埼玉県	草加市立病院
8	埼玉県	秩父市立病院
9	埼玉県	さいたま赤十字病院
10	埼玉県	さいたま市立病院
11	千葉県	総合病院国保旭中央病院
12	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
13	千葉県	柏市立柏病院
14	千葉県	安房地域医療センター
15	千葉県	亀田総合病院
16	東京都	三楽病院
17	東京都	九段坂病院
18	東京都	虎の門病院
19	東京都	心臓血管研究所付属病院
20	東京都	JCHO 東京山手メディカルセンター
21	東京都	東京都保健医療公社大久保病院
22	東京都	東京都立駒込病院
23	東京都	永寿総合病院
24	東京都	同愛記念病院
25	東京都	東京都立墨東病院
26	東京都	東京共済病院
27	東京都	日産厚生会玉川病院
28	東京都	関東中央病院
29	東京都	東京都立広尾病院
30	東京都	新渡戸記念中野総合病院
31	東京都	河北総合病院
32	東京都	浴風会病院
33	東京都	東京都立大塚病院
34	東京都	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
35	東京都	東京都立豊島病院
36	東京都	練馬光が丘病院
37	東京都	多摩北部医療センター
38	東京都	市立青梅総合医療センター
39	東京都	武蔵野赤十字病院
40	東京都	東京都立多摩総合医療センター
41	東京都	榊原記念病院
42	東京都	公立昭和病院
43	東京都	国立病院機構災害医療センター
44	東京都	東京逓信病院

45	神奈川県	横浜南共済病院
46	神奈川県	横須賀共済病院
47	神奈川県	平塚共済病院
48	神奈川県	AOI 国際病院
49	神奈川県	虎の門病院分院
50	神奈川県	新百合ヶ丘総合病院
51	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
52	神奈川県	川崎市立井田病院
53	神奈川県	関東労災病院
54	山梨県	山梨県立中央病院
55	長野県	北信総合病院
56	長野県	諏訪中央病院
57	長野県	佐久総合病院
58	長野県	佐久医療センター
59	静岡県	静岡県立総合病院
60	静岡県	静岡市立清水病院
61	静岡県	国際医療福祉大学熱海病院
62	島根県	公立邑智病院
63	福岡県	飯塚病院

連携施設に関する情報は別添１を参照して下さい.

（資料４）

東京科学大学病院内科専門研修特別連携施設

No.	都道府県	二次医療圏	施設名
1	埼玉県	南西部	田中医院
2	千葉県	東葛北部	新松戸診療所
3	千葉県	東葛北部	あおぞら診療所
4	東京都	区中央部	メモリークリニック
5	東京都	区中央部	文京根津クリニック
6	東京都	区中央部	ゆしまクリニック
7	東京都	区東部	賛育会病院
8	東京都	区東北部	セツルメント診療所
9	東京都	区中央部	リバーサイド読売ビル診療所
10	東京都	区中央部	管工業健康保険組合健康管理センター
11	東京都	区南部	本多病院
12	神奈川県	鎌倉保健福祉圏域	信愛クリニック
13	神奈川県	県西圏域	間中記念御幸の浜リハビリテーション病院

特別連携施設に関する情報は別添２を参照してください.

（資料５）

東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会

東京科学大学病院

保田　晋助　（プログラム統括責任者，膠原病・リウマチ内科）
三澤　園子　（プログラム統括副責任者,脳神経内科）
森　毅彦　（プログラム統括副責任者,血液内科）
山田　哲也　（糖尿病・内分泌・代謝内科）
蘇原　映誠　（腎臓内科）
橋本　正良　（総合診療科（含：総合内科領域））
岡本　隆一　（消化器内科）
笹野　哲郎　（循環器内科）
宮﨑　泰成　（呼吸器内科）
浜本　康夫　（臨床腫瘍内科）
具　芳明　（感染症内科）
若林　健二　（集中治療部）
服部　高明　（東京科学大学病院研修委員会委員長,脳神経内科）
佐々木広和　（東京科学大学病院研修委員会副委員長,膠原病・リウマチ内科）
西村　卓郎　（東京科学大学病院研修委員会副委員長,循環器内科）
岡田英理子　（総合教育研修センター，消化器内科）
連携施設：各連携施設の担当医師 63 名

東京科学大学病院内科専門研修プログラム研修委員会

東京科学大学病院

服部　高明　（委員長,脳神経内科）
佐々木広和　（副委員長,膠原病・リウマチ内科）
西村　卓郎　（副委員長，循環器内科）
梅澤　佳央　（血液内科）
村上　正憲　（糖尿病・内分泌・代謝内科）
森　崇寧　（腎臓内科）
竹中　健人　（消化器内科）
松田　祐治　（循環器内科）
石塚　聖洋　（呼吸器内科）
馬渕　卓　（総合診療科）
田頭　保彰　（感染症内科）
加納　嘉人　（がんゲノム診療科（含：腫瘍内科領域））
小野　大介　（脳神経内科）
野坂　宜之　（集中治療部）

専攻医研修マニュアル

目次

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
2. 専門研修の期間・・・2
3. 研修施設群の各施設名・・2
4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
5. 各施設での研修内容と期間・・・3
6. 主要な疾患の年間診療件数・・・3
7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
8. 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期・・・・・・・・・・5
9. プログラム修了の基準・・・6
10. プログラムにおける待遇・・6
11. プログラムの特色・・6
12. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
13. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
14. 研修施設群内で何らかの問題が発生したとき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
（資料１）東京科学大学病院内科専門研修連携施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
（資料２）東京科学大学病院内科専門研修特別連携施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（別添１）東京科学大学病院内科専門研修連携施設情報
（別添２）東京科学大学病院内科専門研修特別連携施設情報

文中に記載されている『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会から示されている基準に準拠しました.

東京科学大学病院内科専門研修プログラム
専攻医研修マニュアル

1.　研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

１）病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え実践する．内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行うことに加え、内科系サブスペシャリストとして診療する際にも、臓器横断的な視点を持ち全人的医療を実践します.

２）地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します.

３）救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践します.

2.　専門研修の期間

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた東京科学大学病院内科専門研修プログラム（以下，本研修プログラム）で 3 年間（以上）の研修で育成されます．研修プログラムには，研修修了時に求められる症例経験，知識，技能，態度それぞれにおいて到達目標が設定されています．内科専攻医は，それらを達成した後に専門研修プログラム管理委員会からの承認を経て，内科専門研修プログラムを修了することができます.

3.　研修施設群の各施設名

基幹施設：東京科学大学病院
連携施設：63 施設（p.8 － p.9 資料 1 参照）
特別連携施設：13 施設（p.10 資料 2 参照）

4.　プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

1)　研修プログラム管理運営体制

本研修プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を東京科学大学病院に設置し，その委員長，各内科，総合教育研修センターおよび連携施設から 1 名ずつ管理委員を選任します.

プログラム管理委員会の下部組織として，基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き，委員長が統括します.

2)　指導医一覧

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて確認することができます.

5. 各施設での研修内容と期間

本研修プログラムでは専攻医が抱く将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース，①内科領域別コース，②総合内科コース，③ICU・内科統合コース，があります.

将来の Subspecialty が決定している専攻医は内科領域別コースを選択します. Subspecialty が未決定，または総合内科医（Generalist）を目指す場合は総合内科コースを選択します. 内科系集中治療医を目指す場合は ICU・内科統合コースを選択します.具体的な研修コースは項目 7（p.4）を参照してください.

基幹施設である東京科学大学病院での研修と連携施設での研修をともに行うことを必須としており，基幹施設では 1 年以上，連携施設では 1 年以上で研修します. 連携施設では内科全般の Common disease を経験することができ，さらに内科 Subspecialty 研修も高いレベルで経験することが可能であり，地域医療の実際について学ぶことができます. 基幹病院では連携施設では経験しにくいより高度な研修や先進医療の実際について学ぶことができます. 大学では，より深い学習が得られる各種講習会や研究会が開催されており，研修修了に必要な JMECC，CPC，安全管理講習会や感染対策講習会が受講できます. 特別連携施設は地域の診療所で研修を行います. 本研修プログラムの基幹施設・連携施設はいずれも中～大規模病院であるため，内科一般の一次医療，健康診断などの予防医学，病診連携などを特別連携施設である診療所で経験します. 専門研修 3 年間で大学病院，地域中核病院および診療所で研修することにより，一次から三次医療まで経験することができ，将来のキャリア形成を考える上でも有用であることが本研修プログラムの特徴です.

6. 主要な疾患の年間診療件数

日本内科学会「研修カリキュラム（項目表）」に掲載されている主要な疾患については，東京科学大学病院（基幹病院）の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています. ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来（当直を含む）経験することで必要な症例経験を積むことができます. 東京科学大学病院の内科診療科別診療実績を以下の表に示します.

2025 年度	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
血液内科	11,070	10,955
膠原病・リウマチ内科	9,744	24,511
糖尿病・内分泌・代謝内科	2,817	19,436
腎臓内科	5,765	13,606
総合診療科	2,848	3,078
消化器内科	8,222	37,044
循環器内科	14,681	24,619
呼吸器内科	11,827	26,066
脳神経内科	11,489	14,900
感染症内科	－	817

緩和ケア科・がんゲノム診療科・臨床腫瘍科	3,308	5,081
合計	81,771	180,113

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

東京科学大学病院内科専門研修プログラムでは，内科専攻医は大学病院と連携施設をともに経験して，内科専門研修で求められる疾患経験・技能・態度・資質を取得します．本研修プログラムでは研修コースを①内科領域別コースと②総合内科コース，③ICU・内科統合研修コースの3 つのコースを用意しました．また内科領域別コースは，11 領域に分かれていて，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器・アレルギー，血液，神経，膠原病，感染症，腫瘍内科の領域となっていて，内科専攻医は1つの領域を選択します．

① 内科領域別コース

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです．専攻医1年目(PGY3)は基幹または連携施設で内科一般（Gnerality）研修を主としながら自らが希望する Subspecialty 領域の初期トレーニングを開始します．専攻医 2 年目(PGY4)は基幹または連携施設にて内科一般（Gnerality）研修を行うことを原則としますが，症例経験が 45 疾患群以上を満たせば，自らが希望するSubspecialty領域の研修をします．専攻医3年目(PGY5)も基幹または連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続し，Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに，充足していない症例を経験します．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，希望する Subspecialty 領域の担当者およびプログラム統括責任者が協議して決定します．また，専門医資格の取得と臨床系大学院への進学をともに希望する場合は，本コースを選択の上，担当教授と協議して大学院入学時期を決定します．

内科領域別コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を主としながらSubspecialty研修の初期トレーニングを行う。PGY3でJMECCを受講											
	20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修											
	45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修　必要な疾患群を経験し、Subspecialty研修を重点的に行う											
	70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は内科一般研修を主として行い内科領域研修を開始する。PGY4で内科一般研修と内科領域研修を並行し45疾患群以上の経験を目指す。PGY5は内科領域研修を重点的に行う。											
その他	研修する施設については、大学の領域別内科と内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

② 総合内科コース

高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や，将来の Subspecialty が未定な場合に選択します．内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり，専門研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします．専攻医 1 年目(PGY3)は連携施設で内科一般（Generality）研修を行います．専攻医 2 年目，3 年目(PGY4,PGY5)は総合内科責任者（総合診療科責任者が兼務）と専攻医が相談の上，基幹施設1年以上＋連携施設2年以内で研修することにします．

総合内科コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は連携施設で内科一般研修(1-2ヶ月ローテなど)を行う。PGY4とPGY5は大学では総合診療科または連携施設で内科一般研修を続ける。											
その他	研修する施設については、総合内科責任者(総合診療科責任者が兼務)と内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

③　ICU・内科統合コース

内科専門医取得後に集中治療医を目指すコースで,希望する Subspecialty 領域もしくは Generality 研修を中心としながら,一定の期間重症管理を集中的に研修するコースです．専攻医 1 年次には大学または連携施設で 1 年間内科 Generality 研修及び，Subspecialty 領域の初期トレーニングを行います．そのうち一定期間（3 ヶ月以上），ICU における超急性期・急性期の集中治療研修を行います．専攻医 2 年次は大学または連携施設にて，内科 Generality 研修や Subspecialty 領域の研修を継続します．内科系急性期・救急疾患への適切な対応も学ぶ他，フォローアップ外来などで慢性期についても学びます．専攻医 3 年次は大学または連携施設にて，内科研修を継続しながら ICU での集中治療研修を行います．研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上，プログラム統括責任者，集中治療部責任者，希望する Subspecialty もしくは総合内科責任者が協議して決定します．

ICU・内科統合コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を主とし、ICUでの研修も行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録　病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録　必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京科学大学病院/連携施設で研修。内科一般研修，ICUでの研修を行う． 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、120症例以上を経験し登録　2年次までに登録された病歴要約の改											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加　2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は大学で内科一般研修を行い、3か月以上のICU研修を行う。PGY4、5は大学の総合診療科または連携施設で内科一般研修を続けながら、数ヶ月単位のICU研修を行う。											
その他	研修する施設については、ICU責任者、各内科責任者、内科運営会議での協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

8.　自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1)　専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき，Weekly summary discussion を行い，研修上の問題点や悩み，研修の進め方，キャリア形成などについて考える機会を持ちます．

2)　指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と，専攻医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し，症例要約の作成についても指導します．また，技術・技能についての評価も行います．年に 1 回以上，目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき，研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い，適切な助言を行います．毎年，指導医とメディカ

ルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い，態度の評価が行われます.

9.プログラム修了の基準

1) J-OSLER を用いて，以下の修了要件を満たす必要があります.

① 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする. その研修内容を J-OSLER に登録する．修了認定には，主担当医として通算で 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し， J-OSLER に登録済みであること.

② 病歴要約 29 症例分が日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読・形成的評価後に受理されていて,二次評価が完了していること.

③ J-OSLER を用いて多職種による 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し，医師としての資質が備わっていると承認されること.

④ 技術・技能評価の到達度がプログラムの定める修了要件を満たしていること.

⑤ JMECC 受講歴が 1 回あること.

⑥ 医療安全・感染対策・医療倫理に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること,プログラムの修了要件を満たしていること.

⑦ 地域医療の経験について,プログラムの定める修了要件を満たしていること.

⑧ 教育活動・学術活動についてプログラムの定める修了要件を満たし、所定回数の内科系学術集会に参加し,学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あること

⑨ 研修歴についてプログラムの定める指定期間を満たしていること.

2) 上記修了要件を充足していると東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会が確認し，専門研修 3 年目の 3 月に東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議の上，統括責任者が修了認定を行います．また、専攻医の事情等で研修を延長する場合は、上記修了要件を充足した時点で修了認定を行います.

10. プログラムにおける待遇

東京科学大学病院においては「就業規則及び給与規則」に従い，連携施設および特別連携施設においては，その施設の「就業規則及び給与規則」に従います.

11. プログラムの特色

本研修プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース，①内科領域別コース，②総合内科コース，③ICU・内科統合コース，を準備していることが最大の特徴です．内科領域別コースは 8 領域に分かれていますが，選択後も条件を満たせば他領域のコースへの移行も認められます．総合内科コースは，専門研修 3 年間で内科全般 Generality 研修を内科領域別コースより幅広くかつ深く研修していき，内科専門研修修了後には内科臓器

領域 Subspecialty 研修へ移行することも可能です.

12. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します. 基本領域の到達基準を満たすことができる場合には，専攻医の希望や研修の環境に応じて，各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことが可能です（内科領域別コース参照）. 本研修プログラム修了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います.

13. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行う. 逆評価は毎年 3 月に行います. その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，東京科学大学病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

14. 研修施設群内で何らかの問題が発生したとき

研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合は,日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します.

（資料１）

東京科学大学病院内科専門研修連携施設

No.	所在地	病院名
1	茨城県	総合病院土浦協同病院
2	茨城県	JA とりで総合医療センター
3	茨城県	ひたちなか総合病院
4	茨城県	常陸大宮済生会病院
5	埼玉県	秀和総合病院
6	埼玉県	埼玉県総合リハビリテーションセンター
7	埼玉県	草加市立病院
8	埼玉県	秩父市立病院
9	埼玉県	さいたま赤十字病院
10	埼玉県	さいたま市立病院
11	千葉県	総合病院国保旭中央病院
12	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
13	千葉県	柏市立柏病院
14	千葉県	安房地域医療センター
15	千葉県	亀田総合病院
16	東京都	三楽病院
17	東京都	九段坂病院
18	東京都	虎の門病院
19	東京都	心臓血管研究所付属病院
20	東京都	JCHO 東京山手メディカルセンター
21	東京都	東京都保健医療公社大久保病院
22	東京都	東京都立駒込病院
23	東京都	永寿総合病院
24	東京都	同愛記念病院
25	東京都	東京都立墨東病院
26	東京都	東京共済病院
27	東京都	日産厚生会玉川病院
28	東京都	関東中央病院
29	東京都	東京都立広尾病院
30	東京都	新渡戸記念中野総合病院
31	東京都	河北総合病院
32	東京都	浴風会病院
33	東京都	東京都立大塚病院
34	東京都	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
35	東京都	東京都立豊島病院
36	東京都	練馬光が丘病院
37	東京都	多摩北部医療センター
38	東京都	市立青梅総合医療センター
39	東京都	武蔵野赤十字病院
40	東京都	東京都立多摩総合医療センター
41	東京都	榊原記念病院
42	東京都	公立昭和病院
43	東京都	国立病院機構災害医療センター
44	東京都	東京逓信病院
45	神奈川県	横浜南共済病院
46	神奈川県	横須賀共済病院

47	神奈川県	平塚共済病院
48	神奈川県	AOI 国際病院
49	神奈川県	虎の門病院分院
50	神奈川県	新百合ヶ丘総合病院
51	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
52	神奈川県	川崎市立井田病院
53	神奈川県	関東労災病院
54	山梨県	山梨県立中央病院
55	長野県	北信総合病院
56	長野県	諏訪中央病院
57	長野県	佐久総合病院
58	長野県	佐久医療センター
59	静岡県	静岡県立総合病院
60	静岡県	静岡市立清水病院
61	静岡県	国際医療福祉大学熱海病院
62	島根県	公立邑智病院
63	福岡県	飯塚病院

連携施設に関する情報は別添１を参照して下さい.

（資料２）

東京科学大学病院内科専門研修特別連携施設

No.	都道府県	二次医療圏	施設名
1	埼玉県	南西部	田中医院
2	千葉県	東葛北部	新松戸診療所
3	千葉県	東葛北部	あおぞら診療所
4	東京都	区中央部	メモリークリニックお茶ノ水
5	東京都	区中央部	文京根津クリニック
6	東京都	区中央部	ゆしまクリニック
7	東京都	区東部	賛育会病院
8	東京都	区東北部	セツルメント診療所
9	東京都	区中央部	リバーサイド読売ビル診療所
10	東京都	区中央部	管工業健康保険組合健康管理センター
11	東京都	区南部	本多病院
12	神奈川県	横須賀・三浦	信愛クリニック
13	神奈川県	小田原市	間中記念御幸の浜リハビリテーション病院

特別連携施設に関する情報は別添２を参照してください.

別添１

東京科学大学病院内科専門研修プログラム連携施設情報

目次

1	総合病院土浦協同病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2	JA とりで総合医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3	ひたちなか総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
4	常陸大宮済生会病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
5	秀和総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
6	埼玉県総合リハビリテーションセンター・・・・・・・・・・・・・・・	18
7	草加市立病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
8	秩父市立病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
9	さいたま赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
10	さいたま市立病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
11	総合病院国保旭中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
12	東京ベイ・浦安市川医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
13	柏市立柏病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	39
14	安房地域医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
15	亀田総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
16	三楽病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
17	九段坂病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51
18	虎の門病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	54
19	心臓血管研究所付属病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	57
20	JCHO 東京山手メディカルセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・	60
21	東京都保健医療公社大久保病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
22	東京都立駒込病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
23	永寿総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
24	同愛記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
25	東京都立墨東病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	75
26	東京共済病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	78
27	日産厚生会玉川病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
28	関東中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	84
29	東京都立広尾病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
30	新渡戸記念中野総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	90
31	河北総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	93

32　浴風会病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
33　東京都立大塚病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
34　東京都健康長寿医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
35　東京豊島病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105
36　練馬光が丘病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
37　多摩北部医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
38　市立青梅総合医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
39　武蔵野赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
40　東京都立多摩総合医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
41　榊原記念病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123
42　公立昭和病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
43　国立病院機構災害医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129
44　東京逓信病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
45　横浜南共済病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
46　横須賀共済病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
47　平塚共済病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
48　AOI 国際病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 144
49　虎の門病院分院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
50　新百合ヶ丘総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
51　横浜市立みなと赤十字病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
52　川崎市立井田病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
53　関東労災病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
54　山梨県立中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
55　北信総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
56　組合立諏訪中央病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
57　佐久総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
58　佐久医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174
59　静岡県立総合病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 177
60　静岡市立清水病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
61　国際医療福祉大学熱海病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
62　公立邑智病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 186
63　飯塚病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 189

1．総合病院 土浦協同病院

責任者名　　草野　史彦

責任者診療科名　消化器内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2025.4現在）
病床数（床）	800	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	286	（2025.4現在）
外来患者数（人）	371,743	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	169,467	（2025年度実績）
入院患者数（人）	205,245	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	96,319	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	19	（2025.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	19	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	16	（2025.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	8	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・附属の保育園（ひまわり保育園）が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が19名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績10回）
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表を行っている。
・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　草野　史彦

当院では十分な指導体制を整備し、先生方に満足していただける後期研修を受けていただくことにより、優秀な内科専門医への途を歩んでいただきたいと考えています。
（1）地域基幹病院として、日本有数の症例数を誇り、内科領域のみでなく、1～3次までの豊富な救急症例を経験可能です。地上型ヘリポートを運用しています。
（2）多くの指導医研修終了者を含め、各専攻科の複数の専門医が直接専攻医を指導するシステムをとることで、専攻医の経験症例の情報が共有でき、内科領域全体の研修がチームとして経験可能です。
（3）学術面でもトップレベルの業績を上げている専門医が多く在籍し、症例検討から学会活動まで、幅広く指導しバランスのとれた研修をめざします。
（4）一人一人の専攻医に専属のメンターが付き、研修についてのみでなく、医師としての進路、悩みを含めた面倒見のよい研修を目指します。
（5）大学病院とも密接に連携し、臨床、教育、研究の各領域に精通した指導医を有し、専門医取得後も大学院への進路あるいはサブスペシャリティー選択、海外留学へのアドバイスまで幅広く指導します。
（6）地域枠、修学生に配慮したプログラムについても配慮可能で、県北の主要病院とも連携して、専攻医に適した研修が可能です。
（7）女性医師が働きやすい環境に配慮しており、各専攻医の希望に配慮した研修が可能です。
（8）新築移転から10年が経過し、ハード面では素晴らしい環境が整い運用されています。先生方の力で新たな土浦協同病院の歴史を刻んでください。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	3	4	5	2	2	2	4	3	1	0	1	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本臨床細胞学会施設認定、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本呼吸器学会認定施設、日本病理学会病理専門医制度認定病院、日本産科婦人科学会卒後研修指導施設指定、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔学会認定麻酔科認定病院、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本脳神経外科学会指定訓練場所、日本内科学会認定医制度教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本肝臓学会認定施設、日本手の外科学会認定手の外科研修施設、呼吸器外科専門医認定機構基幹施設認定、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設、日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設群認定、日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関、日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼動施設、日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼動施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本乳癌学会関連施設認定証、日本不整脈学会･日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本小児神経学会小児神経専門医制度研修施設、日本放射線腫瘍学会認定協力施設、日本小児外科学会専門医制度認定教育関連施設、日本食道学会認定食道外科専門医認定施設、日本小児科学会小児科専門医研修支援施設、日本医療機能評価機構認定病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度　周産期新生児専門医暫定研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度　周産期母体･胎児専門医基幹研修施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則　実地修練認定教育施設

2．JAとりで総合医療センター

責任者名　　山本　貴信

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2024.3.31現在）
病床数（床）	414	（2024.3.31現在）
内科系病床数（床）	179	（2024.3.31現在）
外来患者数（人）	290,945	（2023年度実績）
内科系外来患者数（人）	145,893	（2023年度実績）
入院患者数（人）	112,039	（2023年度実績）
内科系入院患者数（人）	58,752	（2023年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	15	（2024.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	15	（2024.3現在）
総合内科専門医数（人）	15	（2024.3現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	9	（2023年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

臨床研修指定病院である、研修医用の居室がある。医師室では個人で持ち込んだパソコンでも通信できるような体制をとっており、電子媒体での文献検索が出来るように病院で契約している。また紙媒体の文献検索もできるように図書室もある。安全衛生委員会が設置され、過剰時間外勤務者などへのメンタルヘルス管理、指導を行っている。女性医師に対しては女性用当直室（シャワー完備）や保育所を設置して、安心して勤務できるように配慮している。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、脳神経内科、内分泌代謝内科、膠原病内科の常勤医がおり、全科にサブスペシャリティー専門医と総合内科専門医が在籍している。その他に非常勤として心療内科、総合内科医が勤務し、筑波大学の感染症専門医も週1回勤務して院内症例のコンサルテーションを引き受け、夕方に勉強会も開催している。年間の剖検数は10件前後で、年6回前後のCPCを開催している。これまで医療安全、感染の職員勉強会は年2回ずつ開催しており、専攻生も参加を義務付ける。今後は複数のプログラムに参加している専攻生が当院で研修を行うことになり、それぞれのプログラムの基幹施設との連携や合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス等も積極的に開催して、多角的な眼をもった内科専門医を養成する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

内科8分野（内分泌と代謝を分けると9分野）で総合内科専門医、指導医が常勤して指導体制は整っているが、その他の分野の症例も多く、定められた症例数を当院だけで経験することは可能であるが、補完する形での関連施設における研修を予定しており、日本内科学会が要求する基準は十分にクリアできる。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

倫理委員会が設置されており、これまでも内科サブスペシャリティー科は、認可された臨床研究を精力的に行ってきており、今後も変わることはない。医師は年1回以上の学会発表が義務付けられており、日本内科学会関東地方会も毎回演題登録を行って発表している。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　山本　貴信

ＪＡとりで総合医療センターは、茨城県取手・龍ヶ崎医療圏の基幹病院としての役割を果たすべく、東京科学大学病院と連携をとりながら診療を行っている。内科系においては、すべてのサブスペシャリティー科で専門医を配置し、各診療科とも指導体制は整っている。また救急だけでなく、回復期、生活維持期の医療体制も充実しており、1施設で全病期を理解することが出来る稀有な病院であると考えている。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	0	3	1	4	1	5	1	2	3	3	0	2	0	0	0

7） 経験できる疾患群

専門医がいない科においても症例は豊富にあり、非常勤医師等から専門的な教育を受けることができ、当院で日本内科学会が要求する症例は経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

症例の主治医、担当医となりながら、症例を受け持ち、検査、診断、治療を行いながら診療技術、技能を獲得することができると考えている。

9） 経験できる地域医療・診療連携

病病連携、病診連携とも体制は整っており、さらに訪問看護ステーションも併設しているため、訪問診療も可能となっている。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会・認定医教育病院、日本循環器学会・認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会・認定研修関連施設、日本消化器病学会・専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会・認定指導施設、日本呼吸器学会・認定施設、日本腎臓学会・研修施設、日本高血圧学会・専門医認定施設、日本透析医学会・教育関連施設、日本神経学会・教育施設、日本認知症学会・教育施設、日本血液学会・認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構・認定研修施設、日本脳卒中学会・認定研修教育病院、日本アレルギー学会・準教育施設、日本輸血・細胞治療学会I&A認定施設

3．ひたちなか総合病院

責任者名　　山内　孝義

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	302	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	150	（2026.4現在）
外来患者数（人）	145,637	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	63,486	（2025年実績）
入院患者数（人）	7,291	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	3,934	（2025年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	8	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	8	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	12	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	4	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
・研修に必要な図書室（契約電子図書）とインターネット環境があります.
・日立製作所の契約社員としての労務環境が保障されています.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当）があります.
・ハラスメント相談部門が院内に整備されています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は8名在籍しています.
・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置しています.
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・研修施設群や地域の合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・CPC を定期的に開催（2025年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・その他、キャンサーボード（週１回）,内科カンファレンス（週１回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度開催実績1回：受講者6名・JMECCディレクター在籍）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・日本専門医機構による施設実地調査に教育・研修係と内科専門研修管理委員会が対応します.
・特別連携施設の専門研修では，ZOOM等を用いたWeb面談やカンファレンスへの参加などにより指導医がその施設での研修指導を行います.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13領域のうち9領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しており，定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます.
・専門研修に必要な剖検（2025年実績4体，2023年15体）を行っています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室（契約電子図書）などを整備しています.
・(株)日立製作所病院統括本部合同で倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績6回）しています
・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績12回）しています.
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2025年度実績14演題）をしています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名

山内孝義
【内科専攻医へのメッセージ】
日立製作所ひたちなか総合病院は，茨城県常陸太田・ひたちなか医療圏，唯一の総合病院であり、地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として地域医療を支えながら多様な症例を経験できます．また、様々な手技も数多く学べます。初期研修医も多く在籍し活気があります。常陸太田・ひたちなか医療圏，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と協力して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医をめざします．また、症例を掘り下げて検討し、臨床研究、CPCなどを通じてリサーチマインドを要請します．
主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	12	4	2	3	0	3	1	1	0	2	0	1	0	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会内科研修プログラム基幹施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会施設群連携施設
日本消化器病学会関連施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本リウマチ学会教育施設
日本神経学会準教育施設
日本認知症学会教育施設
日本透析医学会教育関連施設
など

4．常陸大宮済生会病院

責任者名　　市毛　博之

責任者診療科名　内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2025.4現在）
病床数（床）	160	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	55	（2025.4現在）
外来患者数（人）	61,718	（2024年実績）
内科系外来患者数（人）	25,708	（2024年実績）
入院患者数（人）	2,833	（2024年実績）
内科系入院患者数（人）	1,697	（2024年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む		
内科指導医数（人）※常勤医のみ	3	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	3	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2023年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

• 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
• 済生会医師としての労務環境が保障されています。
• メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。
• ハラスメントに適切に対処する相談窓口があります。
• 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室などが整備されています。
• 近隣に保育所があり利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

• 指導医は3名在籍しております。基幹施設のプログラム管理委員会と研修委員会と密接に連携し、管理と指導を仰ぎ、専攻医の研修に努めます。
• 医療安全と感染対策講習会を定期的に開催（年2回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理においては研修施設群で開催される際に専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
• 研修施設群合同カンファレンスやCPC開催に際しては専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
• 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（常陸大宮済生会病院症例検討会：年3回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、その場での発表の機会も提供します。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科、消化器分野で専門研修が可能です。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会地方会などに年1題以上の学会発表を目標とします。
・専攻医が積極的に国内・国外の学会に参加・発表できるよう、学会参加費と交通費の補助が受けられる病院規定を定めております。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　市毛　博之

当院は茨城県北西部で唯一の公的二次救急病院です。若年者から高齢者まで、急性期医療から慢性期医療まで幅広く対応しています。地域の医療資源が少ないからこそ、地域に根差し、地域住民に信頼される病院づくりを目指しています。また規模が小さいからこそ、地域医療の実際に触れ、地域包括ケアシステムや多職種協働（IPW）を肌で感じる機会がたくさんあります。
茨城県や常陸大宮市および近隣市町村との協力関係が厚く、施設・設備も充実しています。地域医療、プライマリ・ケアの現場で多種多様な疾患を主体的にマネジメントする機会が豊富にあるため、どのような将来像にも役に立つ経験がたくさんできます。また診療科間や多職種間の垣根がとても低く、アットホームな環境で研修が行えます。ぜひ「地域」という魅力的な場所で、ともに学び、ともに成長しませんか。その歩みが地域や地域住民への貢献につながる喜びをダイナミックに感じられると思います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

一般的な内科疾患は豊富に経験できます。特に高齢者に多い、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症、悪性腫瘍、脳血管疾患、認知症、終末期医療は豊富に経験できます。マルチモビディティ（多疾患併存状態）をマネジメントする機会が多く、老年病医学的にも学びが多いと思います。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に即して幅広く経験することができます。特に超音波検査や消化管内視鏡検査（上下部消化管・ERCP）は希望に応じて豊富に経験できます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療、高齢者医療、超高齢医療、病診・病病連携、地域包括ケア、ACP：アドバンス・ケア・プランニング

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定教育関連施設
日本消化器病学会関連施設
日本消化器内視鏡学会指導連携施設
日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設
日本栄養治療学会認定NST稼働施設
日本肝臓学会特別連携施設

5．秀和総合病院

責任者名　　泉山　肇

責任者診療科名　内分泌・糖尿病内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.4現在）
病床数（床）	350	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	150	（2026.4現在）
外来患者数（人）	109,194	（2025実績）
内科系外来患者数（人）	61,285	（2025実績）
入院患者数（人）	95,496	（2025実績）
内科系入院患者数（人）	64,256	（2025実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	29	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	12	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）※常勤医のみ	9	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	2	（2025実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	年1回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・給与、福利厚生（健康保険、厚生年金、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の規則による。
・労働衛生および災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
・専攻医が安心して勤務できるよう更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
・ハラスメント委員会が整備されている。
・院内保育室（キッズルームSHUUWA）が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理している。
・定期的（毎週１回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深めることができる。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
・専攻医にJMECC受講の機会を与え、そのための時間を配慮している。
・救急の内科外来と当直医としての内科領域救急診療、更に当直医としての病棟急変等の経験を積むことができる。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに定める内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、各年次の到達目標に応じた疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設においても補完を行う。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・倫理委員会が設置されている。
・経験症例について文献を検索して症例報告を行っている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を行っている。
・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　泉山　肇

埼玉県東部の地域医療を担う基幹病院の一つとして、きわめて活動的に医療に取り組んでいます。今までに築きあげた実績から地域住民の方々から信頼され、急性期医療、がん医療、緩和医療健診センター業務まで幅広く展開し、より専門性が高く質の高い医療を提供できる急性期対応型病院として機能しています。最新医療機器や最新電子カルテシステムも備えています。病院は全職員が快適に仕事に取り組むことができる環境にあり、医師、看護師、コメディカルスタッフが一丸となって、実りあるチーム医療を習得し、展開しています。救急医療や地域医療にも貢献し、救急患者は原則断らず、指導医の下で研修医の救急患者対応教育も積極的に行っています。

6） 学会別専門医数内訳（常勤医のみ）

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	5	4	3	1	4	1	2	0	0	1	0	0	0	1

7） 経験できる疾患群

70疾患群の症例の中で、総合内科、腎臓、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、消化器などの症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な臨床技術・治療を学ぶことができる。特にプライマリ・ケアの場面で頻会に遭遇する主訴にどのように対応し、検査・治療を進めるか実際の症例に基づき幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

老人保健施設、福祉介護施設、診療所を含む地域医療システムを理解し、地域医療を実践することができる。メディカルソーシャルワーカー、地域の福祉施設など日常の診療活動で連携している内容も研修することができる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本大腸肛門病学会関連施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定実地修練認定教育施設、日本栄養療法推進協議会・NST（栄養サポートチーム）稼動施設、日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼動施設、「栄養管理・ＮＳＴ実施施設」栄養管理・ＮＳＴ実施施設、病態栄養専門医研修認定施設、日本リウマチ学会教育施設認定など

6．埼玉県総合リハビリテーションセンター

責任者名　　市川　忠

責任者診療科名　脳神経内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	2	（2026.4現在）
病床数（床）	120	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	50	（2026.4現在）
外来患者数（人）	17,452	（2025実績）
内科系外来患者数（人）	5,098	（2025実績）
入院患者数（人）	36,779	（2025実績）
内科系入院患者数（人）	16,205	（2025実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	6	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	6	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	5	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	0 （2015実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価									◎				

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法、地方公務員災害補償法に準じる。給与（宿日直手当や時間外勤務手当、住居手当等を含む）、福利厚生（健康保険、年金、健康診断など）などについては、埼玉県の定める職員の給与に関する条例等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部門として産業医が配置されている。
・暴力・ハラスメント防止・対応対策部会が設置されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。職員用の休憩室も整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・日本神経学会専門医6名、日本認知症学会専門医が5名いる。
・研修委員会を設置予定であり、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスの参画を予定しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスの定期的参画を予定しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域のうち神経領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
・当センターで剖検の実績はないため、連携施設において補完もする。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・当センター内単独で、あるいは東京科学大学関連教室と連携しての臨床研究が可能である。
・臨床倫理委員会が設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表を計画している。
・国際学会を含む内科系学会で年間５題の学会発表を行っている。（2025年度実績）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　市川　忠

当センターでは、パーキンソン病を中心とする神経変性疾患の診断・治療・リハビリテーションと在宅療養の支援について学習することができます。東京科学大学などの急性期病院では経験できない回復期リハビリテーションも行っており、神経疾患の診断、治療および療養や地域支援などを系統だって学ぶことができます。また地域（上尾市）の認知症診療の機関病院として、認知症の診断、治療や地域との連携を体験できます。最近ではアルツハイマー病の抗Aβ抗体薬治療を行っています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	5									6					

7） 経験できる疾患群

神経領域の９領域すべての経験ができる。病院の性質上、急性期の診療担当は困難であるが、回復期や慢性期での治療やリハビリの経験ができる。

8） 経験できる技術・技能

神経疾患の診断に必要な電気生理検査（神経伝導検査、筋電図検査）、神経生検及び筋生検を経験できる。また、脳血流検査を主体となって検査、分析ができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

認知症地域連携ネットワークの主体となっており、地域包括支援センター、開業医、他病院との連携が可能で、認知症患者の地域ケアについて経験可能である。

10）学会認定施設（内科系）

日本神経学会認定教育施設、日本認知症学会認定教育施設、日本リハビリテーション医学会認定教育施設

7．草加市立病院

責任者名　　石丸　剛

責任者診療科名　総合内科

1. 連携施設の概要



1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.4現在）
病床数（床）	380	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	混合病床	（2026.4現在）
外来患者数（人）	187,003	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	86,121	（2025年度実績）
入院患者数（人）	105,656	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	55,835	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	16	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	16	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	16	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	3	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部署が経営管理課にある。
・ハラスメント委員会が院内に設置されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう､女性医師用の更衣室､シャワー室、当直室が整備されている。
・院内保育室が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が16名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績2回）
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設において補完もする。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会地方会で年間3題の学会発表を行っている。（2022年度実績）
・内科系各専門領域で年間15題の学会発表を行っている。（2022年度実績）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　石丸　剛

当院は埼玉東部医療圏の中心的な急性期病院です。同医療圏は総人口115万人（2020年）の大都市型二次医療圏でありながら人口10万人に対する医師数が全国平均の2/3と医療過疎地域であるため、一人の医師が急性期から慢性期まで幅広い疾患群を数多く経験できます。多様な症例を熟練した指導医のもとで順次経験することによって、疾患や病態に関する標準的な知識や技能を修得し、リサーチマインドの素養をも身に着けることが可能です。また、知識や技能に偏らず、患者の抱える多様な背景に応じ柔軟で全人的な医療を実践できる能力を持つ内科専門医を育成します。

6） 学会別専門医数内訳（2026年度）

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	8	4	9	2	3	5	3	1	0	0	1	0	0	1

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育関連病院、日本血液学会認定血液研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本不整脈学会、日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設

8．秩父市立病院

責任者名　　中原　守康

責任者診療科名　消化器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	3	（2026.5月現在）
病床数（床）	165	（2026.5月現在）
内科系病床数（床）	50	（2026.5月現在）
外来患者数（人）	66,386	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	27,179	（2025年度実績）
入院患者数（人）	35,365	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	21,795	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	2	（2026.5月現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	2	（2026.5月現在）
総合内科専門医数（人）	1	（2026.5月現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0	（20xx年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし	
医療倫理講習会	開催	院内職員向けのみ
医療安全講習会	開催	院内職員向けのみ
感染対策講習会	開催	院内職員向けのみ
CPC	予定なし	
CPCの開催回数	10回	平成26年度から令和4年度までの期間
研修施設群合同カンファレンス	予定なし	不明
地域参加型カンファレンス	開催	不明
倫理委員会	予定なし	不明
臨床研究センター	予定なし	
治験センター	予定なし	
内科学会活動	年間1-2題	不明

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・図書室とインターネット環境(Wifi)があります。
・公務員としての労務環境が保障されています。
・メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。
・ハラスメントに適切に対処する相談窓口があります。
・院内に保育室があり利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

• 常勤の指導医は２名在籍しております（消化器内科、総合診療科）。基幹施設のプログラム管理委員会と研修委員会と密接に連携し、管理と指導を仰ぎ、専攻医の研修に努めます。
• 医療安全と感染対策講習会を定期的に開催（年2回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療安全、感染対策講習会においては研修施設群で開催される際に専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
• 月1回、地域の医療・介護・福祉関係者で構成する「ちちぶ圏域ケア連携会議」を運営しており、専攻医でも地域の顔の見える関係作り、多職種連携の現場を提供しています。
• 年1回医師会と合同で症例検討会を開催し、専攻医に症例発表の指導をすることで担当症例の病態や診断過程の理解を深めます。
• 研修施設群合同カンファレンスやCPCを開催する場合には専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例を診療している。特に、総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、感染症分野の症例は多く診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会地方会などに年1題以上の学会発表を目標とします。
・学会に参加、発表する際は学会参加費と交通費の補助（上限あり）があります。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　中原 守康

秩父市立病院の内科研修には、「地域を丸ごと診る」経験があります。
救急、入院、外来、在宅、看取りまで。一人の患者さんを、その人の生活ごと支える研修です。

高齢化や医療資源不足など、地域医療のリアルがあるからこそ、臓器別では終わらない“本物の臨床力”が身につきます。
総合診療・救急・内科・在宅医療を横断しながら、多職種とともに地域を支える医師へ。

「地域を診て、地域を動かす。」

そんな医師を、秩父で一緒に目指しましょう。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
基本的に全ての病態に初期対応するので、稀な疾患を経験することもできます。

8） 経験できる技術・技能

内科救急対応、病棟管理、外来診療に加え、エコー全般、胸腹水穿刺/胸腔ドレーン留置、CV・PICC挿入、上下部内視鏡検査、胃瘻管理を経験できます。
また、総合診療医による、患者中心の医療、ACP、多職種連携、在宅医療、緩和ケアまで、地域中核病院だからこそ経験できる幅広い実践的な研修が可能です。

9） 経験できる地域医療・診療連携

外来診療や在宅医療の現場では、院内のMSWに加え、ケアマネジャーや訪問看護師など、多職種との診療連携を実践的に経験できます。
また、月1回開催される、自治体を超えた広域多職種連携会「ちちぶ圏域ケア連携会」の研修会・事例検討会に参加することで、診療現場を越えた“顔の見える関係づくり”を体験できます。
さらに、地域住民や小中学校への啓発活動にも参加でき（希望があれば発表担当も可能）、地域住民との交流を通じて、地域医療の役割を学ぶことができます。
年1回開催される医師会との合同症例検討会では、地域開業医との連携や地域全体で患者を支える視点を学ぶことができます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定教育関連施設

9.　さいたま赤十字病院



責任者名　　甲嶋　洋平

責任者診療科名　肝胆膵内科

1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（令和８年４月現在）
病床数（床）	638	（令和８年４月現在）
内科系病床数（床）	224	（令和８年４月現在、混合病棟含む）
外来患者数（人）	361,935	（令和７年度実績）
内科系外来患者数（人）	170,071	（令和７年度実績）
入院患者数（人）	212,350	（令和７年度実績）
内科系入院患者数（人）	91,020	（令和７年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	34	（令和８年４月現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	34	（令和８年４月現在）
総合内科専門医数（人）	33	（令和８年４月現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	7	（令和７年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・さいたま赤十字病院常勤嘱託医として労務環境が補償されている。
・安全衛生委員会にてメンタルストレス、ハラスメントに適切に対している。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は34名在籍している。
・内科専門研修プログラム管理委員会にて連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
・内科専門研修委員会にて専攻医の研修を管理する。
・医療倫理、医療安全、感染症対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催し、専攻医に参加を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型カンファランスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
・全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
・日本専門医機構による施設実地調査にはさいたま赤十字病院臨床研修センターが対応する。
・指導医の在籍していない施設の指導体制・・・テレビ電話等

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる。
・専門研修に必要な剖検（令和７年度７体、令和６年度５体）を行っている。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要なコンピューターソフト等を図書室に準備している。
・臨床倫理委員会（年６回程度）を設置し定期的に開催している。
・治験事務局を設置し定期的に治験審査委員会（年10回程度）を開催している。
・日本内科学会講演会あるいは地方会に年3演題以上を発表している。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　甲嶋　洋平

さいたま赤十字病院は埼玉県さいたま市地区医療圏にある中心的な急性期病院です。背景人口が大きいため症例は豊富であり､あらゆる種類の急・慢性疾患、あらゆる背景を有する患者さんを経験することが可能です。初期臨床研修での経験をさらに深め、主治医として主体的に医療に参加しながら医師としての資質をさらに深めていただきたく思います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	34	5	4	11	0	2	2	7	3	2	2	2	1	0	0

7） 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて､研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。特に近接医療圏、他県医療圏の連携施設にて郊外、過疎地域での地域医療を経験できることも本プログラムの特徴です。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会基幹研修施設、日本循環器病学会研修施設、日本呼吸器病学会認定施設、日本血液学会研修施設、日本腎臓学会基幹研修施設、日本神経学会教育施設、日本リウマチ学会研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本大腸肛門病学会基幹研修施設、日本透析医学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

１０ さいたま市立病院

責任者名　　金子　文彦

責任者診療科名　消化器内科

1. 連携施設の概要



1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	10	（2026.4現在）
病床数（床）	637	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	268	（2026.4現在）
外来患者数（人）	263,395	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	77,435	（2025年度実績）
入院患者数（人）	17,582	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	6,355	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	32	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	30	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	26	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	11	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催(令和8年度)

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	0回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である.
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある.
・さいたま市非常勤医師として労働環境が保障されている.
・ハラスメント委員会がさいたま市役所に整備されている.
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている.
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は20名在籍している.
・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・消化器内科部長）、プログラム管理者（循環器内科部長）（ともに指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る.
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置する.
・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催し（2025年度実績5回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・CPCを定期的に開催し（2025年度実績5回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・地域参加型のカンファレンス（さいたま市立病院・JCHO埼玉メディカルセンター合同カンファレンス（年３回）、浦和循環器勉強会（年１回）、臓器保護研究会（年１回）、消化器病診連携勉強会（年１回）、肺癌症例検討会（年１回）、さいたま市神経カンファレンス（年３回）、Neurology Frontier in Saitama（年１回）、さいたま神経生理てんかん研究会（年１回）、浦和医師会合同糖尿病勉強会（年２回）、糖尿病プライマリーケア研究会（年２回）、さいたま血液勉強会（年２回））を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度実績2回：受講者12名）を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応する.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.
・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる.
・専門研修に必要な剖検（2023年度10体、2024年度14体、2025年度11体）を行っている.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室、コンピュータ室などを準備している.
・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025年度実績12回)している.
・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2025年度実績12回)している.
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表をしている.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名

金子　文彦

【内科専攻医へのメッセージ】

さいたま市立病院は、埼玉県さいたま医療圏の中心的な急性期病院であり、同じくさいたま医療圏の中心的な病院であるさいたま赤十字病院、JCHO埼玉メディカルセンター、さいたま市民医療センター、あるいは同じ県内で隣接医療圏の中心的な病院である独立行政法人国立病院機構埼玉病院、北里大学メディカルセンターと病院群を組むことにより連携し、相互補完しながら、質の高いきめ細かな指導を行ってゆきます．これら病院は、距離的にも適度な位置関係にあり、合同カンファレンスを行う上での利便性はもちろんのこと、専攻医は研修期間の3年間を通して転居することなく、これらいずれの病院でも研修が可能です． 加えて、都内でも東京都済生会中央病院、国家公務員共済組合連合会立川病院、永寿総合病院（2027年度以降）、都立駒込病院（2027年度以降）と連携しており、異なる医療圏内での研修も可能です．栃木県の基幹病院である足利赤十字病院や佐野厚生総合病院、神奈川県の平塚市民病院（2027年度以降）での研修も可能で、地域の医療を一手にささえる総合病院の医療を経験し、研修することもできます．さらに、慶応義塾大学病院、東京女子医大病院、杏林大学病院、埼玉医科大学総合医療センターと連携し、希望者はsubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできます.地域医療から先進的な医療まで幅広く学べる当院の内科専攻研修で総合力とサブスペシャリティー両面で成長し、充実した3年間を過ごしていただけるよう準備しています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	26	8	5	6	1	1	3	3	4	2	0	1	2	0	1

7） 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群に基づきながら幅広く経験することができます.

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら、幅広く経験することができます.

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本神経学会教育施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本臨床神経生理学会認定教育施設
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本血液学会研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本感染症学会研修施設

11. 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院

責任者名　　塩尻　俊明

責任者診療科名　内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	12	（2025.4現在）
病床数（床）	989	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	310	（2025.4現在）
外来患者数（人）	579,318	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	170,526	（2024年度実績）
入院患者数（人）	269,982	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	132,238	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む		
内科指導医数（人）※常勤医のみ	28	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	24	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	61	（2024年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	16回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
•法人職員として労務環境が保障されています。
•メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。
•ハラスメント委員会が院内に設置されています。
•女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
•敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が28名在籍しています。
•内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績　医療倫理7回、医療安全9回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•CPC を定期的に開催（2024年度実績16回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
•70疾患群のうち全疾患群（少なくても60以上の疾患群）について研修できます。
•専門研修に必要な剖検（2024年度実績61体、2023年度実績51体、2022年度実績57体）を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
•倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績6回）しています。
•治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024年度実績10回）しています。
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年度実績13演題）をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　塩尻　俊明

•旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。
•高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約42,000人の患者が来院し、24時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数310床で年間約9,000人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2024年度は61体に及び、毎月CPCが開催されています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	24	7	2	5	2	3	3	3	1	5	2	3	0	0	7

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院　日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設　日本消化管学会胃腸科指導施設
日本胆道学会認定指導医制度指導施設　日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設　日本透析医学会専門医制度認定施設
日本腎臓学会研修施設　日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本呼吸器学会認定施設　日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設　日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本神経学会認定准教育施設　日本糖尿病学会教育関連施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
など

１２.東京ベイ・浦安市川医療センター

責任者名　　江原　淳

責任者診療科名　総合内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	344	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	154	（2026.4現在）
外来患者数（人）	148,506	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	70,900	（2025年度実績）
入院患者数（人）	101,659	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	4,290	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	16	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	16	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	7	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	4	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（委員会および診療支援課）があります.
•ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は16名在籍しています.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修管理委員会と医師・研修管理室を設置しています.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します.

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます.

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室などを整備しています.
•倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績12回、審査115件）しています.
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　江原　淳

東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です．年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり，豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコモンディジーズを幅広く経験できます．患者層も若年から超高齢者まで幅広く様々です．当院では総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し，症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる2人指導医体制により，幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます．
またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。
設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	7	1	0	8	1	5	1	1	0	0	0	1	1	0	8
					内科以外						内科以外		内科以外		内科以外

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設　日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設　日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会研修施設　日本リウマチ学会教育施設　日本感染症学会研修施設　日本緩和医療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設など

13. 柏市立柏病院

責任者名　　小林　和郎

責任者診療科名　循環器内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	7	（2026.4現在）
病床数（床）	200	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	120	（2026.4現在）
外来患者数（人）	127,840	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	61,638	（2025年実績）
入院患者数（人）	50,471	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	29,340	（2025年実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	7	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	7	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	7	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、
労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処するため、相談窓口及び心の健康づくり計画推進体制を整備している。
・衛生委員会においてハラスメント防止対策に取り組み、苦情等の相談窓口を設置している。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、個別の当直室が整備されている。
・院内の保育施設（ひまわり保育室）が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が9名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
開催が困難な場合には、期間施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　小林　和郎

柏市立柏病院は、東京科学大学を基幹とする初期研修プログラムと連携し、これまで多くの研修医を受け入れてきました。医療の最先端を担う内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医の育成に努めています。
新制度のもとでは、関連病院と連携しさらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験とすぐれた専門性を有する内科医を育成するプログラムに寄与して参ります。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	7	4	4	3	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

10）学会認定施設（内科系）

日本糖尿病学会認定教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本肝臓学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、

１４. 安房地域医療センター

責任者名　　曾木　美佐

責任者診療科名　総合診療科

1. 連携施設の概要



1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（2026.4現在）
病床数（床）	149	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	100	（2026.4現在）
外来患者数（人）	14,802	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	3,768	（2025年度実績）
入院患者数（人）	2,853	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	1,244	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	9	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	5	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	2	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2025年実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	△	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・協力型臨床研修病院である。
・研修に必要な図書を整え、インターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、東京科学大学の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
・ハラスメント防止対策委員会が設置されている。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が5名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
・70疾患群のうち、68疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については連携施設において補完する。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床倫理委員会が設置されている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　曾木　美佐

救急医療も担う地域中規模病院です。専門科が少ないため、総合診療科が幅広い疾患や複雑かつ重症な患者の診療を行っています。入院、一般外来、救急外来、そして在宅診療といった、すべてのセッティングにおいて総合診療科の医師が診療を行い、当院の重要な役割を果たしています。また、多職種との連携により、退院支援にも力を入れています。そして、地域医療を支えるため、亀田総合病院をはじめ他の地域の医療機関と連携しています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	2	1	1	3	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	3

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、68疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技能・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連施設、循環器専門医研修関連施設、病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学専門医制度教育関連施設、日本神経学会専門医制度における准教育施設と認定

15. 亀田総合病院

責任者名　　中路　聡

責任者診療科名　消化器内科　主任部長

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（2026.4現在）
病床数（床）	907	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	494	（2026.4現在）
外来患者数（人）	69,640	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	30,456	（2025年度実績）
入院患者数（人）	22,530	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	11,707	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	41	（2023.1現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	34	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	34	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	22

4) 講習会等の開催

（2025年度実績）

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回/年
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要な図書室とインターネット環境
・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター
・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤
・ハラスメント委員会の整備
・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備
・敷地に隣接した保育所および病児保育施設
・病院併設の体育館・トレーニングジム
・その他、クラブ活動、サーフィン大会など

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。
・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。
これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

①内科系学術集会や企画に年2回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会CPCおよび内科系subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨する。
②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
③クリニカルクエスチョンを見出し臨床研究を行う。
④内科学会に通じる基礎研究を行う。
以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として2件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　中路　聡

亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を修得するための研修プログラムを準備しています。
これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！

6） 学会別専門医数内訳　2024年度時点

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	34	6	2	11	3	4	4	7	3	6		2	8		5

7） 経験できる疾患群

全70疾患群、200症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します

9） 経験できる地域医療・診療連携

技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度における教育病院
日本リウマチ学会教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本神経学会専門医制度における教育施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本透析医学会認定施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本腎臓学会研修施設
[illegible]

16. 三楽病院

責任者名　　中野　美代子

責任者診療科名　呼吸器内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2026.4.現在）
病床数（床）	179	（2026.4.現在）
内科系病床数（床）	80	（2026.4.現在）
外来患者数（人）	151,455	（2023年実績）
内科系外来患者数（人）	60,966	（2025年実績）
入院患者数（人）	47,203	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	22,981	（2025年実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	5	（2026現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	5	（2026現在）
総合内科専門医数（人）	5	（2026現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	1	（2025年実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	△	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・図書室とインターネット環境があります。
・三楽病院レジデントとして労務環境が保障されています。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。
・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。
・民間の保育所が病院近傍にあります。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が9名在籍しています。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携をはかります。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績　医療倫理　0回　医療安全　2回　感染対策2回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
・CPCを定期的に開催（2015年度実績2回）し専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器科・総合内科・呼吸器科・で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、他分野でも、専門研修が可能な症例数のうちの多くの割合の症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床倫理委員会が設置されています。
・臨床試験管理委員会が設置されています。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会で、定期的な学会発表を目標としています。
・内科系学会で講演会等で年間4題の学会発表を行っています。（2015年度実績）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　中野　美代子

三楽病院は神田駿河台の地で設立83年の伝統を有する病院です。千代田区の一般病院として診療を行う一方、近隣の大学病院や地域医療機関とも密な連携を常に保ちながら、地域医療の担い手として診療の充実をはかっています。研修では主に日常遭遇することが多い一般的な内科疾患を経験しますが、消化器、循環器、糖尿病・代謝科の各科では専門的な研修を受けることも可能です。病院内各科との連携もスムーズであり、効率の良い診療が行えます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	5	4	1	3		1	3	1							

7） 経験できる疾患群

研修手帳にある13領域70疾患群のうち、主に一般病院で遭遇することが多い疾患を幅広く経験できます

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期、慢性期を問わず、地域に根ざした医療・病診連携、また終末期医療等についても経験ができます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定医制度施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本血液学会認定医に関わる研修施設、日本病態栄養学会、栄養管理・NST実施施設

17．九段坂病院

責任者名　　石渡　庸夫

責任者診療科名　内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2026.4現在）
病床数（床）	257	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	44	（2026.4現在）
外来患者数（人）	81,301	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	27,407	（2025年実績）
入院患者数（人）	56,679	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	5,942	（2025年実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	6	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	5	（2025.6現在）
総合内科専門医数（人）	7	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	1　（2025年実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	○	○	◎	△	◎	△	◎	○	△	○	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が6名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績1回）
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、全ての疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・東京科学大学病院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能である。
・臨床倫理委員会が設置されている。
・臨床試験管理センターが設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表を行っている。
・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　石渡　庸夫

当院は、都心にありながら皇居のお堀に面しているため緑が多く、患者の療養環境にも非常に良い立地となっています。医師としての人格を涵養し、医学・医療の果たすべき社会的役割を意識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけるものとする。また、中規模病院ながら、都心の地域医療をあわせて担っていることが特徴である。内科の常勤医は9名（指導医6名）で、消化器・呼吸器・代謝内分泌・脳神経のほか内科全般にわたり研修を行える環境にあります。中規模病院なので診療科間のコミュニケーションは良く、他科コンサルなどのやり取りは、非常にスムーズに行えます。医師のみならず、パラメディカルとの連携も密に図っており、非常に働きやすい環境となっていると思います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	7	2	1	1	0	0	1	1	0	3	1	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本認知症学会認定研修施設

18. 虎の門病院

責任者名　　森　保道

責任者診療科名　内分泌代謝科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（令和8年度）
病床数（床）	819	（令和8年度）
内科系病床数（床）	479	（令和8年度）
外来患者数（人）	2,570	（令和6年度・1日平均）
内科系外来患者数（人）	1,351	（令和5年度・1日平均）
入院患者数（人）	640	（令和6年度・1日平均）
内科系入院患者数（人）	376	（令和5年度・1日平均）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	55	（令和8年度）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	55	（令和8年度）
総合内科専門医数（人）	47	（令和8年度）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	15	（令和5年度）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	12回/年
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・虎の門病院常勤医師として労務環境が保障されています。
・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。
・院内に保育施設があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・CPCを定期的に開催します。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・内科系学会において内科専攻医が筆頭演者の発表を年間で20件ほど行っています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　森　保道

呼吸器センター内科の特徴は、全体入院数に対して間質性肺疾患などの非悪性腫瘍の割合が他の施設よりも高いことです。当科に在籍する呼吸器学会指導医はそのsubspecialityが肺がん、間質性肺疾患/HRCT、慢性閉塞性肺疾患/喘息/呼吸生理、肺感染症と多岐に渡っていることも特徴です。EBUSやクライオ生検といった専門性の高い内視鏡技術も実施可能であり、年間総計280件程度の実績があります。診療・診断・治療において各専門領域バランスよく、かつ日本・世界トップレベルを目指して臨床を展開しており、チームの一員として前期研修医、内科専攻医の先生方には積極的に関わっていただいています。また、症例報告を各学会で発表していただき、志のある方には英文で論文を作成していただいています。年１～２人の方が英文paperを発表されています。また、日本呼吸器学会などで統計解析を用いたoriginal studyを発表する方もいらっしゃいますし、志がある方には欧米の国際学会で発表するチャンスもあります。研修は内科専門医研修とともに呼吸器内科専門医の連動研修が可能です。研修制度上の制約がいくつかありますが、呼吸器内科関連領域であるリウマチ膠原病科、感染症科、循環器内科などにローテーションしていただくこともできますし、国立がん研究センターなどで研修することもできます。虎の門病院呼吸器センター内科のHPをご覧いただけますと、参考になるかもしれません。皆様と一緒に働くことができることを楽しみにしています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	47	22	9	9	5	5	4	9	9	5	1	3	5	3	4

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、定められた70疾患群を幅広く経験できます。

8） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

虎の門病院分院（神奈川県）のみならず、関東近辺・東北・九州の病院と連携しており、各地域における地域医療や診療連携を経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

虎の門病院内科専門研修プログラム基幹施設、日本血液学会研修認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本循環器学会専門医制度研修施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本老年医学会老年科専門研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本腫瘍学会認定研修施設、　ほか

１９. 心臓血管研究所付属病院

責任者名　　及川　裕二

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	1	（2026.4現在）
病床数（床）	74	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	74	（2026.4現在）
外来患者数（人）	55,225	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	55,225	（2025年度実績）
入院患者数（人）	17,407	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	17,407	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	4	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	4	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	8	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	1	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催予定
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本内科学会認定医教育関
・連徳所施設、日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設など
・施設内インターネット環境あり
・コンプライアンス委員会・スピークアップ窓口等設置
・女性専用の更衣室、シャワー室、仮眠室あり

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医4名在籍
・専門医研修管理委員会を毎月1回開催
・コンプライアンス、医療安全、感染対策に関する研修を定期的に開催
・カンファレンス、CPCの受講推奨

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち「循環器」の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本循環器学会総会に計30題採択（JCS2024）
・臨床試験管理室を設置するとともに、倫理委員会、治験審査委員会、
利益相反管理委員会を毎月開催

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　及川 裕二（所長）

当院は、循環器専門施設です。循環器全般、また希望分野についてはより専門的な研修を受けることが可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数				11											

7) 経験できる疾患群

・研修手帳（疾患群項目）の「循環器」に記載のある疾患群

8) 経験できる技術・技能

・技術・技能評価手帳の「循環器」に記載のある各項目

9) 経験できる地域医療・診療連携

・急性期医療だけでなく、心不全など精査加療を目的とした病診・病院連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

・日本循環器学会循環器専門医研修施設
・日本内科学会認定医教育関連特殊施設
・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
・日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

20. JCHO東京山手メディカルセンター

責任者名　　笠井　昭吾

責任者診療科名　総合診療科

1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	7	（2021.3現在）
病床数（床）	418	（2017.1現在）
内科系病床数（床）	154	（2021.3現在）
外来患者数（人）	271,770	（2019年実績）
内科系外来患者数（人）	133,103	（2019年実績）
入院患者数（人）	9,202	（2019年実績）
内科系入院患者数（人）	3,629	（2019年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	17	（2021.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	17	（2021.3現在）
総合内科専門医数（人）	16	（2021.3現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	10	（2019年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	△	○	△	○	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•当院任期付職員（レジデント）として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります.
•ハラスメント委員会が整備されています.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•敷地内に院内保育所はないが，専攻医が利用を希望した場合は，保育施設との提携も含め，専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が17名在籍しています.
•内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019年度実績　医療倫理1回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群合同カンファレンス（2021年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2019年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会（2019年度実績1回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，血液，および救急の9分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績　5演題）をしています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　笠井　昭吾

当院内科は総勢約30名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数3000名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として1つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で60年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	6	1	7	0	2	1	3	2	0	2	0	2	0	2

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある11領域，59疾患群（神経・膠原病以外）の症例を経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．都市部ならではの「地域密着型の研修」を行ないます．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本ﾌﾟﾗｲﾏﾘｹｱ連合学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、エイズ治療拠点病院、東京都災害拠点病院　　など

21. 東京都立大久保病院

責任者名　　山縣　克之

責任者診療科名　麻酔科



1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	6	（2025.4現在）
病床数（床）	304	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	140	（2025.4現在）
外来患者数（人）	11,734	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	46,872	（2025年度実績）
入院患者数（人）	5,813	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	3,197	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	16	（2025.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	15	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	13	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	△	△	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・東京都立病院機構非常勤職員として労務環境が保障されている。
・メンタルヘルスに適切に対処する研修がある。
・ハラスメント研修を実施している。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、 当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が14名在籍している。
・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績　医療倫理2回、医療安全14回、感染対策5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催(2015年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催(2015年度実績　内科、整形外科、外科、婦人科、コメディカル、看護部等)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定している。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　山縣　克之

大久保病院は東京都区西部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京科学大学病院内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14	3	0	5	4	9	3	2	0	2	1	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、腎移植や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院／日本循環器学会認定循環器専門医研修施設／日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設／日本消化器病学会専門医制度認定施設／日本肝臓病学会認定施設／日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設／日本糖尿病学会認定教育施設／日本呼吸器学会認定関連施設／日本透析医学会専門医制度認定施設／日本腎臓学会研修施設／日本神経学会准教育施設／日本臨床腫瘍学会認定研修施設／日本がん治療認定医機構認定研修施設ほか

22. 東京都立駒込病院

責任者名　　三浦　義治

責任者診療科名　脳神経内科



1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（2026.4現在）
病床数（床）	815	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	302	（2026.4現在）
外来患者数（人）	17,097	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	5,787	（2025年実績）
入院患者数（人）	16,053	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	7,727	（2020年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	34	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ		
総合内科専門医数（人）	30	（2022.1現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	7	（2025年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	予定なし
感染対策講習会	予定なし
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。
・ハラスメント相談窓口が庶務課に整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が34名在籍している。・内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催(2026年度実績：5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の9分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表(2025年度実績：関東地方会8演題)を予定している。院内に臨床研究支援室も設置されていて臨床研究が可能である。臨床倫理委員会および倫理員会が設置されている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　瀬戸口　京吾

東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の２次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	30	13	3	3	1	3	2	6	9	3	2	3	5	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育病院
日本リウマチ学会教育施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設
日本呼吸器学会認定医制度認定施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本透析医学会認定施設
日本神経学会認定医制度教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本感染症学会認定研修施設
日本プライマリケア関連学会認定医研修施設
日本腎臓学会専門医制度研修施設
日本胆道学会指導施設
日本臨床腫瘍学会専門医認定研修施設

23. 永寿総合病院

責任者名　　吉田　英雄

責任者診療科名　消化器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.4月現在）
病床数（床）	400	（2026.4月現在）
内科系病床数（床）	217	（2026.4月現在）
外来患者数（人）	179,172	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	81,178	（2025年度実績）
入院患者数（人）	111,732	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	60,928	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	-	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	26	（2026.4月現在）
総合内科専門医数（人）	8	（2026.4月現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	6	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。臨床研修医が14－16名在籍している。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処するために、産業医、精神科医を中心に、安全衛生委員会、研修委員会の支援、協力のもとに十分な産業衛生活動、研修管理の徹底を行っている。
・ハラスメント防止対策委員会が設置され、苦情相談員が置かれている。院外委員もおいている。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・病院の至近距離にある協力保育施設が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・病院の総医師数は約114名であり、内科を含めた病院内指導医は約70名在籍している。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に各複数回開催している。専攻医には受講を義務付けており、そのための時間的余裕も与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し（年5回以上）、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
・特別連携施設として、総合診療に特化した台東区立台東病院と、北海道知床半島の僻地医療を担う斜里町国民健康保険病院における専門研修の場を提供している。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については当院での実施で十分経験ができるが、他の連携施設において補完可能である。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究が可能である。
・臨床倫理委員会が設置されている。
・臨床研究センターが設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計5演題以上の学会発表を行っており、他に内科系学会において毎年40～50題の学会発表を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　吉田　英雄

永寿総合病院は、交通の要衝である上野駅から徒歩 5-6 分圏内の好立地にあり、慶應大学医学部中核関連病院として優秀なスタッフを有し、多くの研修医や専修医(専攻医)を受け入れてきました。このたび、東京科学大学医学部との連携も行い、より質の高い専門研修の場を提供できるように努力していく所存です。救急医療においては、コロナ禍の時期を除くと、年間約 4000台の救急車を受け入れ、台東区の基幹病院として地域医療に貢献しております。日本内科学会認定医制度教育病院としての実績があり、内科専門研修の基幹施設としての役割を果たしています。屋根瓦方式の研修を基本とし、上級医に気軽に相談できる環境を整え、医療安全にも配慮しながら専攻医の立場に立った臨床研修を目指しております。コモンディジーズから専門性の高い疾患に至るまで、経験することができ、医学生の教育にも関与できる場を提供しています。学会発表の場を経験して、臨床医としてのスキルを磨くことができます。主担当医として主体的に現場における医療を実践していくことが可能です。内科専門医をめざして、効果的に研修を行うことができることはもちろんですが、「働き方改革」を念頭に、病院勤務で疲弊することのない理想的な勤務環境の実現に配慮しています。全人的医療を実践できる幅広い臨床能力を培う場を提供したいと考えております。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	4	2	5	0	2	3	4	4	2	0	0	0	0	2

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本認知症学会教育施設、日本頭痛学会准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本救急医学会専門医指定施設、日本病理学会研修登録施設

24. 同愛記念病院

責任者名　　手島　一陽

責任者診療科名　消化器内科

1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	7	（2019.1現在）
病床数（床）	403	（2019.1現在）
内科系病床数（床）	139	（2010.1現在）
外来患者数（人）	282,269	（2015年度実績）
内科系外来患者数（人）	89,115	（2015年度実績）
入院患者数（人）	94,812	（2015年度実績）
内科系入院患者数（人）	36,598	（2015年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	12	（2019.1現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	12	（2019.1現在）
総合内科専門医数（人）	10	（2019.1現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	9	（2017年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・同愛記念病院として適切な労務環境が保障されています。
・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署が設置されています。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・院内保育施設があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科学会指導医は12名在籍しています。
・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・CPC を定期的に開催します。
・地域参加型のカンファレンス(墨田連携症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、内分泌・神経・膠原病を除く10分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会関東支部例会などでの積極的な学会発表をしています。
・臨床研究にあたり、倫理委員会が設置され定期的に開催しています。
・治験委員会が設置され、定期的に開催しています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　手島　一陽

同愛記念病院の歴史は、1923年(大正12年)に発生した関東大震災に際し、米国赤十字社が中心となり募集を行った義援金の一部をもとに、被災民や貧困者を救援する目的で、母体となる旧財団が設立されたことに遡ります。東京都区東部医療圏の急性期病院であり、現在も、その設立の趣旨を全うし、常に地域の要請に応えられる病院を目指しています。内科専門研修は、各科とも熱心な指導医・上級医の指導のもとで行われ、中規模病院ならではの、外科系各科、放射線科、病理科などとの緊密で機動的な連携が可能な点も魅力的です。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	6	3	0	2	2	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域のうち少なくとも11領域、56疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

臨床研修指定病院、日本内科学会認定医制度教育施設、日本循環器学会指定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本血液学研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本感染症学会認定教育施設、日本医学放射線学会専門医修練機関、日本病理学会病理専門医研修施設

25. 東京都立墨東病院

責任者名　　水谷　真之

責任者診療科名　内科



1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	729	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	218	（2026.4現在）
外来患者数（人）	296,296	（2026.4現在）
内科系外来患者数（人）	128,165	（2026.4現在）
入院患者数（人）	200,732	（2026.4現在）
内科系入院患者数（人）	76,466	（2026.4現在）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	23	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	23	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	34	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。専攻医は大医局に机、椅子、ロッカー等完備している。
・東京都医員（非常勤）として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。
・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は40名在籍している。
・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(基本：年8回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催(基本：年6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会：年8回開催予定)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(基本：年1回)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談･Web会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくても7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35以上の疾患群)について研修できる(上記)。
・専門研修に必要な剖検(2024年度実績9体)を行っている。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室などを整備している。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024年度実績12回)している。
・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024年度実績12回)している。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている(2024年度実績9演題)

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　水谷　真之

東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都区東部医療圏・近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	32	8	6	8	1	3	1	4	4	3	2	1	5	0	3

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広<経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病達携、島嶼医療なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライ・マリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設　など

26. 東京共済病院

責任者名　　松尾　祐介

責任者診療科名　リウマチ膠原病科

1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	7	（2017.1現在）
病床数（床）	355	（2017.1現在）
内科系病床数（床）	165	（2017.1現在）
外来患者数（人）	162,288	（2015年度実績）
内科系外来患者数（人）	57,935	（2015年度実績）
入院患者数（人）	5,096	（2015年度実績）
内科系入院患者数（人）	2,361	（2015年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	15	（2017.1現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	14	（2017.1現在）
総合内科専門医数（人）	9	（2017.1現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2015年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	1回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与、福利厚生、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。
・ハラスメントに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が15名在籍している。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹病院に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している(2015年度実績　医療倫理　1回、医療安全　4回　感染対策　9回)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催(2015年度実績1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンス(2015年度実績　呼吸器科・腎臓内科・循環器科・内分泌代謝科で計5回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、ほとんどすべての疾患群について研修できる。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床倫理委員会が設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2015年度実績1演題)をしている。
・その他内科系各学会において演題発表(2015年度実績8演題)を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　松尾　祐介

東京共済病院は目黒区にあり、急性期一般病床 276床、地域包括ケア病棟 40床、療養病棟 39床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。東京科学大学病院を基幹とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	3	1	3	1	4	2	3	1	1	0	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

当院は院内に包括ケア病棟、療養病棟があり、急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などを経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設

27. 日産厚生会玉川病院

責任者名　　竹内　崇人

責任者診療科名　内分泌・糖尿病内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.3現在）
病床数（床）	381	（2026.3現在）
内科系病床数（床）	135	（2026.3現在）
外来患者数（人）	167,579	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	65,296	（2025年度実績）
入院患者数（人）	109,676	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	47,504	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	12	（2026.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	12	（2026.3現在）
総合内科専門医数（人）	11	（2026.3現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	2	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	◎	×	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・紹介受診重点医療機関、臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・当直明けの午後勤務は免除。医師の働き方改革に真摯に取り組んでいる。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
・給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）などについては就業規則等に従う。
・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
・ハラスメント委員会が設置され、相談員が窓口となり対応している。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室が整備されている。
・院内の保育園（玉川病院保育室）が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が8名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績1回）
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、67疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日産厚生会医学研究所が設置されており、臨床研究促進が行われている。
・医学研究倫理委員会が設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っている。（2023年度　4演題）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　竹内　崇人

玉川病院は、東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、区西南部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	4	1	3	2	3	2	2	0	3	0	1	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会教育施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本認知症学会教育施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本心血管インターベーション治療学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本大腸肛門病学会認定施設

28. 関東中央病院

責任者名　　稲葉　彰

責任者診療科名　脳神経内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	383	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	130	（2026.4現在）
外来患者数（人）	199,364	（2026.3現在）
内科系外来患者数（人）	74,413	（2026.3現在）
入院患者数（人）	7,693	（2026.3現在）
内科系入院患者数（人）	2,468	（2026.3現在）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	13	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	13	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	11	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	6	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
•研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。
•関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。
•メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスセンター）があります。
•ハラスメント委員会が整備されています。
•女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
•敷地内に院内保育所があります。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が13名在籍しています。
•内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
•医療倫理・医療安全講習会を（2025年度15回）、感染対策講習会を（2025年度2回）開催しています。専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•CPC を定期的に開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、全分野で専門研修が可能な症例を診療しています。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
・専門研修に必要な剖検（2025年度実績6件）を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2025年度実績2演題）をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　中込　良

関東中央病院は、全国に8施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで、東京都内の大学病院、関連病院と連携し、人材の育成や地域医療に貢献してまいりました。本研修プログラムは、全人的、臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず、高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。また同時にリサーチマインドを育み、医学の進歩に貢献し、将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	2	1	6	1	2	1	2	0	3	2	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

きわめて希な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
血液、 膠原病分野の入院症例はやや少ないものの、外来症例を含め十分な症例の経験が可能です。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本呼吸器学会認定医制度認定施設（内科系）
日本呼吸器内視鏡学会関連施設、日本アレルギー学会認定教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本糖尿病学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設
日本神経学会認定医制度教育施設、日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設
日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定指定施設
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設
日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設
日本心血管インターベンション学会認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼働施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設
など

29. 東京都立広尾病院

責任者名　　田島　真人

責任者診療科名　腎臓内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2023年度現在）
病床数（床）	408	（2025年度現在）
内科系病床数（床）	125	（2025年度現在）
外来患者数（人）	51,068	（2025年度現在）
内科系外来患者数（人）	43,311	（2023年度現在）
入院患者数（人）	33,101	（2025年度現在）
内科系入院患者数（人）	25,175	（2023年度現在）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	17	（2025年度現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	17	（2025年度現在）
総合内科専門医数（人）	15	（2025年度現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。
・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（総務課担当職員）
・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が １７名在籍している。
・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理（1回）・医療安全（４回）・感染対策（2回）講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催(4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。２０２６年度より悉皆受講となる。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度：3回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
また、剖検例についても定常的に専門研修可能である。（2025年度：5症例）

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は52演題。卒後３～６年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は13演題。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　田島　真人

田島　真人
【内科専攻医へのメッセージ】　広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また2023年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数		1	0	9	3	3	3	2	0	2	0	1		1	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院
日本内分泌学会認定教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経学会准教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本救急医学会指導医専門医指定施設設　ほか

30. 新渡戸記念中野総合病院

責任者名　　野田　裕美

責任者診療科名　内科・腎臓内科



1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2026.3現在）
病床数（床）	296	（2026.3現在）
内科系病床数（床）	140	（2026.3現在）
外来患者数（人）	120,410	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	43,973	（2025年度実績）
入院患者数（人）	75,255	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	42,298	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	16	（2026.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	16	（2026.3現在）
総合内科専門医数（人）	8	（2026.3現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	14	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	9回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・新渡戸記念中野総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。
・専攻医の安全および衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じています。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従います。
・メンタルストレスについては、精神科にて適切に対処することができます。
・ハラスメント委員会が労働安全衛生委員会に付置されています。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・近隣（歩3分）の中野クリニック内に保育所（きっずはうすMOMO）があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が16名在籍しています。
・内科専門研修プログラム管理委員会：統括責任者（腎臓内科部長）が基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。
・医療安全・感染対策・医療倫理の講習会を定期的に開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。
・内科ICD 1名と専従のICN 1名がおり、感染症専門医（感染対策委員会外部委員）を交えた多職種ICTによる週1回の院内ラウンド（AST）を実施し院内感染対策に力を入れています。
・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
2021年度実績11回、2022年度実績11回（Web開催含むHybrid）、2023年度7回、2024年度4回、2025年度9回。
・地域参加型カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・日本専門医機構による施設実地調査に新渡戸記念臨床研修管理室が対応します。
・特別連携施設（中野クリニック、上落合おばたクリニック）は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能で、週1回の新渡戸記念中野総合病院での面談・内科カンファレンス、抄読会などにより指導医が研修指導を行います。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
・70疾患群のうち少なくとも50以上の疾患群について研修できます。
・専門研修に必要な剖検（2025年度実績14体）を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・脳神経病理も含めて開催されるCPCでは、臨床と基礎研究をつなぐリサーチマインドが涵養されます。（2021年度開催実績11回、2022年度11回、2023年度7回、2024年度4回、2025年度9回）
・臨床研究に必要な図書室、病理写真室などを整備しています。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
・日本内科学会地方会に年間で3題の学会発表を行っています。（2025年度実績）
・内科系学会で年間19題の学会発表を行っています。（2025年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　野田　裕美

新渡戸記念中野総合病院は90年以上にわたり、地域に根ざした急性期医療を実践してきた東京都指定2次救急病院であり多彩な症例を経験することができます。当院は新内科専門医制度の「新渡戸記念内科専門研修プログラム」の基幹施設（認定番号 117130033）として内科専門研修を行っています。腎臓内科・脳神経内科・循環器内科・消化器内科・血液内科など各領域の専門医・指導医のレベルが高く各分野の最新のエビデンスに基づいた治療について指導を受けることができます。また各分野の垣根がなく、各分野の医師の間の連携がとても良く、各領域の専門治療をスムーズに共有できるということも当院の特徴です。さらに当院の内科は一つの医局として全員が総合内科的視点を持ち内科診療を行っています。各科毎に細分化したローテーションを行うのではなく総合診療科の体制となっています。高度の専門治療を要する疾患以外については、救急搬送時の対応、診断、入院治療、退院、外来通院まで各領域の専門医と話し合いながら切れ目なく主治医として担当するため実践的な能力を高めることができます。

新渡戸記念内科専門研修プログラムではCPC参加を必須とし、研修修了の要件として重要な研修項目に位置付けています。当院は地域医療の中核を担っているため病理解剖の承諾率も高く、CPCも学術的に高いレベルで行われています。東京科学大学などの第一線の研究者や専門医、また近隣の診療所の医師も参加され活発な討議が行われており、基礎研究と臨床をつなぐリサーチマインドが涵養されます。司会を担当する専攻医と研修医は、担当症例の臨床・病理の予習を行ってdiscussionに参加し、知見を深めるのみならず病態解析力と臨床的な洞察力を養うことができます。さらに連携施設である大学病院ではより専門的診療や稀少疾患を中心とする診療を研修することで、臨床研究や基礎研究等の学術活動の素養を修得します。一方、特別連携施設の診療所では透析などの慢性期医療や地域包括ケア、在宅医療など社会的背景を考慮した地域に根ざした診療の研修ができます。専攻医の将来の選択肢が広がるような、地域医療にもgeneralistとして貢献できる能力を獲得できます。主治医として救急搬送時から入退院、外来通院まで診断・治療の流れを研修することにより、一人一人の患者の全身状態のみならず社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践できる能力を獲得することができます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	3	4	4	0	5	0	0	1	3	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

J-OSLER（疾患群項目表）に記載されている領域・疾患群の症例を幅広く経験することが可能です。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療、地域に根ざした病診連携を経験できます。また各分野の専門医・指導医のレベルが高く、各分野の最新のエビデンスに基づいた治療について指導を受けることができます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、内科専門医制度基幹施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本神経学会認定教育施設、日本認知症学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本循環器学会循環器研修関連施設

31. 河北総合病院

責任者名　　林　松彦

責任者診療科名　腎臓、総合診療科



1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	13	（2023.4現在）
病床数（床）	407	（2023.4現在）
内科系病床数（床）	192	（2023.4現在）
外来患者数（人）	196,622	（2022年度実績）
内科系外来患者数（人）	85,974	（2022年度実績）
入院患者数（人）	99,235	（2022年度実績）
内科系入院患者数（人）	49,186	（2022年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	20	（2023.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	20	（2023.4現在）
総合内科専門医数（人）	13	（2023.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	7	（2022年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・河北総合病院契約職員として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
・ハラスメントに適切に対処する部署がある。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・子育てしながら仕事を続けられるように子育て支援が充実している。
院内保育所があります。また病後児保育もあるので安心して働くことができる。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医20名が在籍している。
・河北総合病院内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会と連携を図っている。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研修部を設置している。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
・院内内科合同カンファレンス、研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
・CPC を定期的に開催（2022年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年3回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えている。
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修部が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できる。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

1) 内科専攻医に求められる姿勢とは、単に症例を経験し既存の治療法を行うにとどまらず、さらに診断技術を深め、疑問に対して解答を求めていく積極的な姿勢である。この能力は生涯にわたって自己研鑽を続けていくために必須であり、特に医師として初期に経験する研修はその能力を取得するにあたり重要である。
2) 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する（必須）。
3) 推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会。
4) 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。可能な限り、筆頭演者または筆頭著者として、学会あるいは論文発表を2件以上する
5) クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う。
6) 内科学に通じる基礎研究を行う。
7) 地域における学術活動や学術集会に積極的に参加する。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　林　松彦

河北総合病院は地域の中核病院として、診療所からの紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていますので、さまざまな疾患を経験する機会が非常に多くあります。私達は総合的な内科診断、治療のみならず、患者の生活背景を踏まえた全人的医療ができる医師の育成を行っていきます。それを達成した上で、各サブスペシャリティーにおいて卓越した能力を持つ総合内科医の育成を目指していきます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14	4	3	5	2	4	1	1	1	2	1	3	0	1	1

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

地域の中核病院との病病連携や診療所と中核病院との間をつなぐ病診・病病連携の役割を経験できる。超高齢社会に対応した地域に根ざした医療が経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

・日本がん治療認定医機構認定研修施設　・日本内科学会認定医制度教育病院
・日本脳卒中学会研修教育病院　・日本神経学会専門医制度准教育施設
・日本呼吸器学会認定施設　・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
・日本心血管インターベンション治療学会研修施設　・日本消化器病学会専門医制度認定施設
・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設　・日本大腸肛門病学会関連施設
・日本肝臓学会認定施設　・日本腎臓学会研修施設
・日本糖尿病学会認定教育施設　・日本透析医学会認定施設
・日本リウマチ学会認定教育施設　・日本アレルギー学会教育施設
・日本在宅医学会認定研修施設　・日本緩和医療学会認定研修施設
・日本病理学会認定病院

32. 浴風会病院

責任者名　　雨宮　志門　（院長）

責任者診療科名　内科・神経内科

1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2024.4現在）
病床数（床）	199	（2024.4現在）
内科系病床数（床）	199	（2024.4現在）
外来患者数（人）	69,728	（2023年実績）
内科系外来患者数（人）	40,960	（2023年実績）
入院患者数（人）	67,344	（2023年実績）
内科系入院患者数（人）	67,344	（2023年実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	11	（2024.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	11	（2024.4現在）
総合内科専門医数（人）	2	（2024.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	4	（2024年実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
・給与、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償等については、当院の就業規則等に従う。
・研修に必要なインターネットの環境が整備されている。
・メンタルストレスに対処する部署がある。
・ハラスメント委員会がある。
・身体機能、家庭環境、ほか個人的条件に配慮した就労が可能。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・各病棟に複数の指導医が在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・CPC を定期的に開催している。興味により病理解剖の実習も可能。
・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を開催またはe-learningで実施している。
・病棟毎の複数職種合同のカンファレンスを開催している。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科（一般・高齢者）、呼吸器内科、神経内科、感染症に関しては、ほぼ定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・以前から行っている死後病理解剖に加え、限定的だがオートプシーイメージングを行うことが可能。
・訪問診療、および介護施設での診療を経験することができる。特に、当法人は1500名以上の高齢者が入所する施設複合体であることから、高齢者の多様な健康管理や診療を経験できる。
・内科学会および関連学会への参加、発表を推奨。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・研究倫理・医療倫理委員会が設置されている。
・専攻医が積極的に学会・論文発表を行える環境を整備する。
・認知症を始めとする神経疾患、慢性循環不全、呼吸不全、感染症、栄養・代謝疾患、骨粗しょう症、フレイル・サルコペニアを得意とし、臨床研究や治験も行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　阿部　庸子

浴風会は、大正12年の関東大震災のため自活困難となった高齢者の救護を行う目的で、皇室の御下賜金などにより大正14年に設立され、以来100年にわたり老年医療・福祉の分野で多大な貢献をしてまいりました。現在、浴風会病院をはじめ特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウスなどに多数の高齢者を擁し、高齢者の総合医療・福祉センターとしての役割を担っています。多様な、複数の病態を有する高齢者に対し、幅広い視野で包括的・全人的な診療を実践できる医師の育成をめざします。また、サブスペシャリティを増やしたい人も歓迎いたします。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	2	1	0	3	0	0	0	1	0	10	0	0	2	6	0

7） 経験できる疾患群

高齢者に関しては、ほぼ全領域の疾患を経験可能である。慢性疾患、悪性疾患、高齢者のリハビリテーション、終末期医療など一つの疾患を見るのではなく、複合的な疾患管理を一人で行えるようになることが目標となる。

8） 経験できる技術・技能

高齢者に関しては、内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験でき、特に中心静脈栄養、経腸栄養の管理、摂食嚥下機能の評価検査（嚥下内視鏡、嚥下造影）の経験が可能。これらを通して、併存疾患の多い高齢者の管理を倫理的配慮のもとに行うことを目指す。さらに、近隣の医療機関や介護サービス事業所との連携をとることで社会的配慮が可能な視野を育てる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

在宅療養後方支援病院として、地域のクリニック等と連携し、入院が必要な在宅患者を受け入れる体制を構築している。当院から訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションも派遣しており、それらを経験・同行することも可能。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会 認定医制度教育特殊施設、日本老年医学会 教育施設
日本神経学会 教育施設、日本リハビリテーション医学会 研修施設
日本老年精神医学会　指導施設

33. 東京都立大塚病院

責任者名　　倉田　仁

責任者診療科名　内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2025年度現在）
病床数（床）	413	（2025年度現在）
内科系病床数（床）	135	（2025年度現在）
外来患者数（人）	184,137	（2024年実績）
内科系外来患者数（人）	55,359	（2024年実績）
入院患者数（人）	8,476	（2024年実績）
内科系入院患者数（人）	2,517	（2024年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	17	（2025年度現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ		
総合内科専門医数（人）	21	（2025年度現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	2	（2024年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務グループ）があります.
•病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能です.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は17名在籍しています（下記）.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長），プログラム管理者（消化器内科部長、腎臓内科部長）,ともに総合内科専門医かつ指導医）；基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2024年度実績1回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス（2019年度実績：医療連携医科講演会6回, 救急合同症例検討会1回。2020年度は開催なし）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2024年1回開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（実施時期は未定）が対応します.
•特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では，電話やメールでの面談・Webカンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）.
•専門研修に必要な剖検（2025年度見込6体）を行っています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています.
•倫理委員会を設置し，定期的に開催（2020年度実績12回）しています.
•治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2020年度実績12回）しています.
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2018年度実績7演題, 2019年度実績2演題）を予定しています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　倉田　仁

都立大塚病院は，東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり，区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．
主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	17	5	3	2	0	3	3	2	2	4	1	7	0	0	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医准教育施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、など

３４.東京都健康長寿医療センター病院

責任者名　　原田　和昌

責任者診療科名　健康長寿医療研修センター



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	13	（2026.4現在）
病床数（床）	550	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	331	（2026.4現在）
外来患者数（人）	207,124	（2026.4現在）
内科系外来患者数（人）	4,515	（2026.4現在）
入院患者数（人）	162,435	（2026.4現在）
内科系入院患者数（人）	4,000	（2026.4現在）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む		（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ		（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）		（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	13	（2026.4現在）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	11
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

東京都健康長寿医療センターの整備状況：臨床研修指定病院である。
· 研修に必要な図書室とインターネット環境がある.
· 非常勤医師として労務環境が保障されている.
· メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある.
· ハラスメント委員会が整備されている. （H28年度より）
· 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が27名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理･医療安全･感染対策・保険診療に関する講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える（基幹施設2024年度実績8回）
・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える（2024年度実績9回）。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える（2024年度実績3回）。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（地域連携カンファレンス，板橋区の循環器研究会，呼吸器研究会，神経内科研究会、消化器病症例検討会；2024年度実績5回）
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える
・定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会への参加の時間的余裕を与える。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
・2024年度の年間の剖検数は42件で専攻研修に必要な剖検数が確保できる。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・内科系学術集会の参加および発表を促し、指導する体制があり、そのための時間的余裕を与える。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　健康長寿医療研修センター長　原田　和昌

健康長寿医療研修センター長　荒木　厚
東京都健康長寿医療センターは高齢者専門の急性期病院(550床）として日本の高齢者医療の診療と研究をリードするとともに、内科は毎年初期研修医（約20名）と専攻医（約20名）を受け入れてきました。内科はほぼすべての分野の専門医を有する指導医がいて、かつ救急医療にも力を入れており、
①地域の中核病院として高度の専門的医療を行う医師、
②併設する研究所と協力して臨床研究を行うことができる医師、
③地域との連携により退院支援や在宅医療との連携を行うことができる総合的な視点を持った医師、
④我が国の将来の高齢者医療における診療や研究をリードする医師など幅広い医師を育成しています。
新病院となってから若い人を診療することも増えてきています。内科医としてのプロフェッショナリズムとGeneralなマインドを持ち、超高齢社会を迎えた日本において、患者中心の内科診療と高齢者診療ができる医師を育成するために、新制度のもとではさらに質の高い内科研修ができる指導体制とプログラムを作成しました。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	41	6	0	16	0	6	0	9	5	0	0	6	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる．
その他，
① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
③ クルズス（週1回）
④CC（週1回）とCPC（2週に1回）
⑤地域参加型のカンファレンス（地域連携カンファレンス，板橋区の循環器研究会，呼吸器研究会，神経内科研究会，消化器病症例検討会）
⑥内科救急外来（週１コマ），救急外来当直，JMECC受講などを通じて，疾患を鑑別する基本的能力だけでなく，分析能力，プレゼンテーション能力，病院での安全管理能力，チーム医療を行う技能，救急診療の技量を幅広く見につけることができる．

9） 経験できる地域医療・診療連携

主担当医として，患者の全身状態，心身の機能状態，栄養，薬物，家族や社会サポート状況を考慮し，多職種によるチーム医療により療養環境を調整する包括的かつ全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている．また，地域包括ケアを経験することを含め，高齢者を急性期病院から回復期，慢性期，在宅の医療の流れで，地域全体中で見る視野を養い，それぞれの病院・施設の中で果たすべき内科医の役割を実践し，身につける．主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病院連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験する．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定教育特殊施設，
日本老年医学会認定施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設
日本神経学会認定教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会認定医制度認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本高血圧学会専門医認定研修施設
日本認知症学会専門医教育施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設
日本臨床検査医学会認定研修施設　など多数

35. 東京都立豊島病院

責任者名　　藤ヶ﨑　浩人

責任者診療科名　神経内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2025.4現在）
病床数（床）	411	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	128	（2025.4現在）
外来患者数（人）	1ヶ月平均12,856名	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	1ヶ月平均3,247名	（2024年度実績）
入院患者数（人）	1ヶ月平均759名	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	1ヶ月平均168名	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	13	（2025.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	13	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	10	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	7	（2023年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(職員相談室)がある。病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている.

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が13名在籍している(下記)
・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2024年度実績：医療倫理1回, 医療安全２回, 感染対策２回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンス(2024年度実績１回)を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える。
・ＣＰＣを定期的に開催(2024年度実績６回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している.

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計6演題以上の学会発表(2024年度実績2演題)を予定している.

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　藤ヶ﨑　浩人

【内科専攻医へのメッセージ】
地方独立行政法人東京都立病院機構都立豊島病院は東京都区西北部の中心的な急性期病院の一つです。近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と共同して内科専門研修を行い、地域医療に貢献できる内科専門医を育成します。当院の研修の特徴は、他施設に比べ技術習得の機会が多いため今後のサブスペシャルティを目指す上で有利です。また看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署との連携が取りやすく医療が円滑に行われています。主担当医として入院から退院まで自主性が求められますが、 必要に応じて上級医が細かく指導し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長することが可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	13	1	2	3	1	1	1	4	1	2	2		2	1	

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本感染症学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本輸血細胞治療学会Ｉ＆Ａ認証施設、東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本超音波医学会専門医研修施設

36. 練馬光が丘病院

責任者名　　新井　雅裕

責任者診療科名　消化器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（2026.4現在）
病床数（床）	457	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	200	（2026.4現在）
外来患者数（人）	811	（2025実績）
内科系外来患者数（人）	292	（2025実績）
入院患者数（人）	395	（2025実績）
内科系入院患者数（人）	189	（2025実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	-	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	17	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	12	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・ 臨床研修指定病院である。
・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・ 専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与、手当、福利厚生（健康保険、年金、健康診断など）、労働災害補償などについては、就業規則等に従う。
・ メンタルストレスに適切に対処する部署が設置されている。
・ ハラスメント委員会が地域医療振興協会本部に設置されている。
・ 女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・ 病院付属の保育所が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・ 内科指導医が17名在籍している。
・ 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ 施設実地調査については臨床研修センターが対応する。
・ 特別連携施設は地域医療振興協会内の施設であり、密接な連携が可能である。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・ カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・ 70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
・ 専攻研修に必要な剖検数を実施している。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・ 臨床研究に必要な図書室を整備している。
・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
・ 治験管理室を設置し、必要時に審査会を開催している。
・ 日本内科学会地方会に年間1-5演題の発表をしている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　新井　雅裕

練馬光が丘病院は、東京都西北部医療圏における中心的な役割をはたしている急性期病院です。内科には、救急疾患や多数の問題点を有する患者を全人的に診療する総合診療科と臓器別診療を行う専門診療科があります。専攻医の希望を踏まえて、所属科およびローテーションを決定します。地域の連携施設では、本格的な地域医療研修を行うことができます。また、高次機能を有する市中病院、大学病院とも連携していますので、専門医取得後の進路も考慮して、研修内容を組み立てていくことも可能です。我々は、社会的背景、療養環境調整を含む全人的医療を実践できる総合内科専門医、総合内科的視点をもったsubspecialistを育成するための研修を提供します。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	12	6	2	7	2	2	3	5	3	1	0	1	0	1	4

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連病院、日本救急医学会救急専門医指定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、
日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本老年病医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本透析医学会教育関連施設

３７.多摩北部医療センター

責任者名　　村﨑　理史

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	337	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	161	（2026.4現在）
外来患者数（人）	127,183	（2025実績）
内科系外来患者数（人）	54,175	（2025実績）
入院患者数（人）	84,292	（2025実績）
内科系入院患者数（人）	48,071	（2025実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	12	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	10	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	24	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	4	（2025実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	△	△

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院である.
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある.
・多摩北部医療センター病院職員として労務環境が保障されている.
・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある.
・東京都立病院機構では、法人本部、病院において、それぞれセクシュアル・ハラスメント相談窓口を設置している。都立病院機構を管轄している法人本部では、セクシュアル・ハラスメント相談室を設置しており、都立病院におけるセクハラ・パワハラに関する相談・苦情に対応している.
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている.
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は12名在籍している(下記).
・多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る.
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置する.
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2025年度実績2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・CPCを定期的に開催(2025年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・地域参加型のカンファレンス（2025年度実績　血液内科症例検討会1回、小児科症例検討会2回、泌尿器科症例検討会1回、循環器内科症例検討会1回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える.
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える．昨年度は体制が整わず開催に至らなかったが、今後は体制を強化する.
・日本専門医機構による施設実地調査に多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム管理委員会が対応する.
・特別連携施設(島しょ当施設)の専門研修では、電話や週1回の面談･カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記).
・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても35以上の疾患群)について研修できる(上記).
・専門研修に必要な剖検(2025年4体、2024年5体)を行っている.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室を整備している.
・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025 年度実績20 回（内訳：集合4回、書面開催16回）)している.
・治験事務局を設置し、対象がある場合は治験審査委員会を開催している（2025年度は対象無し）。
　SMOを導入し、外部の治験審査委員会で承認された治験を、現在当院で実施中。
・受託研究審査委員会を定期的に開催している。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2025年度実績1演題)をしている.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　村﨑理史

多摩北部医療センターは、東京都北多摩北部医療圏の中心的な急性期病院であり、同・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設との間で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指すことができます.
主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できます.

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	24	6	0	5	5	3	3	4	7	4	2	5	0	3	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます.

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携なども経験できます.

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育特殊施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会教育関連施設など

38. 市立青梅総合医療センター

責任者名　　長坂　憲治

責任者診療科名　リウマチ膠原病科

1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.4現在）
病床数（床）	501	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	200	（2026.4現在）
外来患者数（人）	279,950	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	114,812	（2024年度実績）
入院患者数（人）	134,841	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	74,924	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	30	（2025.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	30	（2025.3現在）
総合内科専門医数（人）	20	（2025.3現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	11	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•青梅市非常勤医師として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります.
•ハラスメント委員会が青梅市役所に整備されています.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•隣接する敷地に病院保育所(うめっこはうす)があり、利用可能です.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は20名在籍しています.
•内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•基幹施設で行われる研修施設群合同カンファレンスを専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また、研修施設群で行われる講習会を周知し、受講を進めます.
•CPC を定期的に開催（年6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス（西多摩地域救急医療合同カンファレンス，西多摩医師会共催内科症例勉強会，循環器研究会，呼吸器研究会，消化器病研究会、糖尿病内分泌研究会、脳卒中連携研究会など）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）.
•専門研修に必要な剖検を行っています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています.
•倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.
•治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で6演題の学会発表をしています.
•詳しくは年報（https://mghp.ome.tokyo.jp/pdf/aboutus/management/nenpouR04）.pdfを参照ください.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　栗原　顕

青梅市立総合病院は，東京都西多摩医療圏の中心的な急性期、３次救急病院です。山岳部を抱え、核家族化による高齢者一人身世帯、都区内の後方病院、介護施設が多く、超高齢化する地方と同様の問題を抱え、急性期医療を行うと同時に地域医療を行っています。東京科学大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	20	6	4	8	2	3	2	3	2	2	0	2	0	0	3

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本救急医学会指導医指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修施設、日本不整脈心電学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設　など

39. 武蔵野赤十字病院

責任者名　　杉山　徹

責任者診療科名　内分泌代謝科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	12	（2023.4現在）
病床数（床）	611	（2023.4現在）
内科系病床数（床）	205	（2023.4現在）
外来患者数（人）	284,305	（2022年度実績）
内科系外来患者数（人）	122,884	（2022年度実績）
入院患者数（人）	196,110	（2022年度実績）
内科系入院患者数（人）	96,026	（2022年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	31	（2023.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	31	（2023.4現在）
総合内科専門医数（人）	35	（2023.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	15	（2022年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修病院基幹型研修指定病院
・専攻医の研修に必要な、図書室、机、机上のインターネット環境がある
・専攻医として従来の後期研修医同様、常勤嘱託の身分になる
・メンタルストレスに対応する部門があり、定期検査があり、相談も可能
・ハラスメント委員会があり、種々のハラスメントに対応している
・女性医師、薬剤師、技師なども多く、女性が働き易い環境がある
・敷地内に託児所があり夜迄預ける事は可能

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は31名在籍（2023年4月時点）
•内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•CPCを定期的に開催（2022度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野の全てにで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
• 専門研修に必要な剖検（2022年度実績15体）を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

• 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3 演題以上の学会発表をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　長田　薫

武蔵野赤十字病院は東京都の西側多摩南部地域にある、基幹病院です。
31診療科があり、内科系診療科も11あり、充実した臨床環境にあります。
本プログラムは二次医療圏の２病院、および専門領域としてがん研有明病院とも連携したプログラムで、内科系の救急医療、専門医療はもとより、地域に根ざした慢性期医療等を研修する機会もあり、幅広い内科研修が可能です。
さらに、当院は全国でも有数の研修教育病院でもあり、毎年全国からやる気のある有望な初期研修が集って来ますが、彼らを教え彼らに教えられながらさらに学びを深くする事ができます。
また、医療安全に関しては20年以上前から航空業界などを手本としたインシデントシステムを早くから取り入れる等先駆的な試みをしております。
内科系診療科は医師数が70名を超え、指導医若手医師とも多数いて、和気あいあいとした雰囲気で楽しく臨床ができます。そのような環境で是非ご自身のスキルアップを目指して我々と一緒に臨床をやってみませんか？

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	21	4	4	1	2	1	2	2	3	2	1	1	1	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳に記載してある13疾患群70症例すべて経験が可能

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、地域の連携病院、診療所、在宅診療医と連携した、高齢化社会に対応して医療も経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会（認定医制度教育病院）、日本腎臓学会（研修施設）、日本透析医学会（認定医制度認定施設）、日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設、日本血液学会（血液研修施設）、日本内分泌学会（内分泌代謝科認定教育施設）、日本循環器学会（循環器専門医研修施設）、日本心血管インターベンション治療学会（研修施設）、日本超音波医学会（超音波専門医制度研修施設）、日本消化器病学会（認定施設）、日本肝臓学会（認定施設）、日本消化器内視鏡学会(指導施設)、日本呼吸器学会（認定施設）、日本呼吸器内視鏡学会（認定施設）、日本神経学会（教育施設）、日本脳卒中学会（認定研修教育病院）、日本糖尿病学会（認定教育施設）、日本救急医学会（専門医指定施設・指導医指定施設）、日本集中治療医学会（専門医研修施設）、日本精神神経科学会（研修施設）、日本静脈経腸栄養学会（ＮＳＴ稼働施設）（実地修練認定教育施設）、日本臨床腫瘍学会（研修施設）、日本栄養療法推進協議会（NST稼働施設）、日本リウマチ学会（教育施設）、日本がん治療認定医機構（認定研修施設）、日本不整脈・日本心電学会（不整脈専門医研修施設）、日本認知症学会（教育施設）、日本緩和医療学会（認定研修施設）、日本高血圧学会（専門医認定施設）

４０.多摩総合医療センター

責任者名　　佐藤　文紀

責任者診療科名　内分泌代謝内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報　R7（2025）年度

内科系診療科数（科）	12	
病床数（床）	789	
内科系病床数（床）	283	
外来患者数（人）	417,296	延数
内科系外来患者数（人）	194,414	延数 2025年度
入院患者数（人）	215,591	延数
内科系入院患者数（人）	96,296	延数 2025年度

2) 指導医・専門医数情報　R6（2024）年

内科指導医数（人）※非常勤含む	41	2026.4月現在
内科指導医数（人）※常勤医のみ	41	2026.4月現在
総合内科専門医数（人）	53	2026.4月現在

3) 剖検数 R7（2025）年度

内科剖検数（件）	17	2026.4月現在

4) 講習会等の開催　2025年度

JMECC	開催	
医療倫理講習会	開催	
医療安全講習会	開催	
感染対策講習会	開催	
CPC	開催	
CPCの開催回数	開催	10 回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし	
地域参加型カンファレンス	開催	
倫理委員会	開催	
臨床研究センター	開催	
治験センター	予定なし	
内科学会活動	開催	

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価　2026/4現在

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課、医事課、職員担当、医局役員)がある。
・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、 当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は41名在籍している(2025年3月)。
・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、 プログラム統括責任者（内科系診療科部長1名）
・ 副プログラム統括責任者（に内科系診療科部医長各 2 名）、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部医長1 名）（ともに総合内科専門医かつ指導医））
・内科専門研修プログラム委員会は、基幹施設、連携施設に設置されている研修 委員会との連携を図る。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を 臨床研修管理委員会に設置する。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2025年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催(2025年度実績10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的 に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中のJMECC 受講(2025年度開催実 績 1回:受講者 12名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。
・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議シ ステムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を 診療している(上記)。
・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。
・専門研修に必要な剖検(2020年度29体、2021年度28件、2022年度25件、2023年度31件、2024年度30件、2025年度17件)を行っている。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室などを整備している。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023年度実績11回)している。
・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)している。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　佐藤　文紀

佐藤文紀【内科専攻医へのメッセージ】
東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER（一次～三次救急）での救急医療研修（必修）と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や東京都島嶼等の特別連携施設での研修を通じて、僻地を含めた地域医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしています！

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	53	23	6	10	9	2	8	11	5	1	3	13	3	0	21

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患 群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病 連携、島嶼医療なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院 、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 、日本呼吸器学会認定施設 、日本血液学会認定血液研修施設 、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設 、日本内分泌代謝科学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、日本肝臓学会認定施設など

41. 榊原記念病院

責任者名　　七里　守

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	1	（2026.4現在）
病床数（床）	303	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	228	（2026.4現在）
外来患者数（人）	68,089	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	41,918	（2024年度実績）
入院患者数（人）	9,872	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	6,802	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	18	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	18	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	20	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	2	（2025年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	△	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
・敷地内に院内保育所病児保育があります。
・病院6階に専攻医宿舎を完備しており、独身者であれば利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

指導医が18名在籍しています。
・循環器内科の研修ではCCU、心臓カテーテル検査・治療(PCI、末梢血管インターベンション）、心臓電気生理検査・治療（カテーテルアブレーション、植込みデバイス）、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス（内科カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス）、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
• CPCを定期的に開催(2025年実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的に開催し専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を行っています。
卒後3～6年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2023年度は5件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　七里　守

榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、東京科学大学の内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い内科専門医の育成を行います。当院は開心術数が年間1000件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。 指導医は心血管イン ターベンション、 心不全、 不整脈（カテーテルアブレーション）、 I CDやペースメーカ植え込み、心エコー、 画像診断(CT/ MR I/ 核医学）、 心臓リハビリ、成人先天性心疾患など各領域の専門家がそろっており、 循環器診療においてほぼすべての領域をカバーできます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	20			40											1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会認定
経カテーテル的大動脈弁置換術 指導施設 日本内科学会認定医制度 教育関連－特殊施設
日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医 研修施設
日本核医学会専門医 教育病院
日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会専門医 研修施設
日本成人先天性心疾患学会認定 成人先天性心疾患専門医 総合修練施設
日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度 研修関連施設
日本心臓リハビリテーション学会認定 心臓リハビリテーション研修施設
日本心血管インターベンション治療学会認定 研修施設
日本医学放射線学会が定める規定に基づく 放射線科専門医 特殊修練機関
日本超音波医学会認定 超音波専門医 基幹施設
日本動脈硬化学会専門医制度 教育病院
日本脈管学会認定 研修指定施設
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線科専門医特殊修練機関 など

42. 公立昭和病院

責任者名　　藤田　彰

責任者診療科名　血液内科

1.連携施設の概要

1)　診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	10	（2026.3現在）
病床数（床）	485	（2026.3現在）
内科系病床数（床）	170	（2026.3現在）
外来患者数（人）	243,039	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	89,883	（2025年度実績）
入院患者数（人）	135,793	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	55,111	（2025年度実績）

2)　指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	24	（2026.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	22	（2026.3現在）
総合内科専門医数（人）	29	（2026.3現在）

3)　剖検数

内科剖検数（件）	14	（2025年度実績）

4)　講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2.連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3.連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•公立昭和病院非常勤医師として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医）があります.
•ハラスメント委員会が院内に整備されています.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•敷地近隣に院内保育所があり，利用可能です.

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は22名在籍しています（下記）.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長，内視鏡センター長），プログラム管理者（副院長，血液内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）
•内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2025年度実績6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群合同カンファレンス（2025年度：年2回開催）
•地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度開催実績1回：受講者4名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）.
•専門研修に必要な剖検（2024年度14体, 2025年度14体）を行っています.

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています.
•倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績6回）しています.
•治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績10回）しています.
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2022年度実績5演題）をしています.
内科系各診療科で専門領域学会での活動を行っています.

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 川口 淳

川口 淳
【内科専攻医へのメッセージ】
公立昭和病院は，臨床研修指定病院・外国医師臨床修練指定病院であり，かつ東京都北多摩北部医療圏の三次救急を担う，当二次医療圏の中心的な急性期病院です．連携施設とも合わせて内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．
コロナ禍においては，第二種感染症指定医療機関として，感染症科，救急科，呼吸器内科を中心に全診療科が協力して対応しました．
主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．
連携施設の選択は．希望に応じ柔軟に対応したいと考えています．
本プログラムでは三次救急，地域がん診療連携拠点病院など地域医療の中核を担う当院で充実した研修を目指すだけでなく，ワーク・ライフバランスや子育てなども視野に入れて，働きやすい病院，働きやすい二次医療圏内での内科専門医研修を目指し，各種学会の認定施設としてサブスペシャリティー研修も視野に入れ，将来の当地域の医療の担い手を育てていきたいと考えています．

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	29	15	9	10	5		3	4	4	6		3	3		11

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域。
70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院，日本アレルギー学会認定教育施設
日本感染症学会認定研修施設，日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設，日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化器がん検診学会指導施設，日本消化管学会胃腸科指導施設
日本カプセル内視鏡学会指導施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本血液学会認定血液研修施設，日本甲状腺学会認定専門医施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会
日本呼吸器学会認定施設，日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設，日本内分泌学会認定教育施設
日本神経学会准教育関連施設，日本救急医学会救急科専門医指定施設
など

43. 国立病院機構　災害医療センター

責任者名　　大林　正人

責任者診療科名　脳神経内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.3.現在）
病床数（床）	455	（2026.3.現在）
内科系病床数（床）	208	（2026.3.現在）
外来患者数（人）	173,795	（2026.3.現在）
内科系外来患者数（人）	81,793	（2026.3.現在）
入院患者数（人）	11,828	（2026.3.現在）
内科系入院患者数（人）	4,868	（2026.3.現在）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	13	（2026.4.実績）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	13	（2026.4.実績）
総合内科専門医数（人）	15	（2026.4.実績）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	8	（2026.3実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	12回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従う。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・院内の保育園が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が13名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える予定である。
・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で内分泌分野以外では定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
・糖尿病内分泌の専門医は週３回非常勤で勤務しており、内分泌領域については非常勤医師に適宜相談しながら研修することを想定している。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究が可能である。
・倫理委員会が設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間3題以上の学会発表を毎年行っている。
・内科系学会の後援会等で多数の学会発表を行っている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　大林　正人

災害医療センター内科は、3次救急病院である強みを生かした豊富な急性期症例から稀少疾患まで研修が可能です。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。
新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成するプログラムを構築しました。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	15	3	3	4	0	3	0	2	2	4	0	1	1	0	6

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定教育施設など

44. 東京逓信病院

責任者名　　椎尾　康

責任者診療科名　神経内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2026.4現在）
病床数（床）	421	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	175	（2026.4現在）
外来患者数（人）	231,692	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	98,657	（2025年度実績）
入院患者数（人）	117,540	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	71,575	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	27	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	27	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	28	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
•東京逓信病院非常勤医師として労務環境が保障されています。
•メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
•ハラスメント担当者がいます。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は27名在籍しています.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），副統括責任者（診療科部長））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（研究教育委員会）と臨床研修センター（管理課研修担当）を設置します.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（動画視聴等Webで実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2025年度実績10回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス（四病院消化器研究会、東京チェストカンファレンス、臨床内分泌代謝研究会等）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます。
•専門研修に必要な剖検（2025年度実績5体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室を整備しています.
•倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績6回）しています.
•治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025年度実績11回）しています.
•日本内科学会や同地方会及び内科系学会での発表数は41件（2024年度実績）しています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　椎尾　康

当院は都区中央部医療圏の中心的な急性期病院で，医療圏の紹介患者，救急患者，さらには都外など遠方からの紹介患者も積極的に受け入れています．近隣の大学病院や基幹病院と連携しており，人材の交流も盛んです。将来的なサブスペシャリティだけでなく内科的疾患全般に対処できる臨床能力を身につけることを重視したプログラムとなっており，また主担当医として，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します．症例発表等の学会活動にも力を入れていますので，リサーチマインドをもって情報発信することを心がけましょう．

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	27	6	2	6	3	2	3	4	3	5	1	0	1	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本動脈硬化学会専門医制度教育病院、日本臨床神経生理学会教育施設（脳波・筋電図）、日本肝臓学会認定施設、日本消化器病学会専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本高血圧学会高血圧認定研修施設、日本血液学会専門研修教育施設

45. 横浜南共済病院

責任者名　　藤井　洋之

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.5現在）
病床数（床）	565	（2026.5現在）
内科系病床数（床）	237	（2026.5現在）
外来患者数（人）	266,173	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	128,332	（2025年度実績）
入院患者数（人）	16,409	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	7,305	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	32	（2026.5現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	32	（2026.5現在）
総合内科専門医数（人）	18	（2026.5現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	6	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。
・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所が整備されている。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が32名在籍している。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンス（金沢区CPC、消化器疾患内科・外科・病理カンファレンス、神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会、呼吸器疾患医療連携セミナーなど　各科および複数科合同で計20回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2023年度実績　5演題）をしている。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　藤井　洋之

横浜南共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、東京科学大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	8	1	8	1	1	1	5	3	3	6	5	1	1	6

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、など

46. 横須賀共済病院

責任者名　　豊田　茂雄

責任者診療科名　血液内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.4現在）
病床数（床）	740	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	334	（2026.4現在）
外来患者数（人）	435,039	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	143,040	（2025年度実績）
入院患者数（人）	20,209	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	9,201	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	20	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	20	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	22	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	9	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	7回
研修施設群合同カンファレンス	
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・横須賀共済病院の専攻医として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
・ハラスメント委員会が整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・近傍に院内保育所があり、利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が20名在籍している。
・本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し，基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催（2025年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医に、JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績1回）
・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病,感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも65以上の疾患群）について研修できる。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。
・治験センターが設置している。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。（2025年度実績10演題）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　渡邉　秀樹

横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として、急性期医療を担っています。特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。
さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	22	7	5	7	1	3	2	5	3	3	3	1	0	0	0

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本腎臓病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定医制度教育関連施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設、日本心血管インターベンション学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

４７.平塚共済病院

責任者名　　小林　一士

責任者診療科名　循環器内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2026.3現在）
病床数（床）	400	（2026.3現在）
内科系病床数（床）	229	（2026.3現在）
外来患者数（人）	208,842	（2026.3現在）
内科系外来患者数（人）	109,402	（2026.3現在）
入院患者数（人）	117,352	（2026.3現在）
内科系入院患者数（人）	73,070	（2026.3現在）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	13	（2026.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	13	（2026.3現在）
総合内科専門医数（人）	17	（2026.3現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	1	（2025年実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	1回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・身分について：平塚共済常勤、労働環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。
・ハラスメント委員会が整備されている。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が17名、総合内科専門医が18名在籍している。
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績医療安全4回、感染対策2回、医療倫理2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPCを定期的に開催（2024年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者が多く、週2日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。
・専門研修に必要な剖検（2024年度実績3体）を行っている。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。
・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　小林　一士

当院の内科病床は200床を超え、地域連携支援病院として近隣の医療機関から紹介患者を広く受入れています。当院は二次救急医療機関ですが、救急センター、心臓センター、脳卒中センターを有し、三次相当の救急患者にも対応する実質 2.5次の救急医療を実践しています。このため、内科医として経験すべき急性及び慢性疾患を一通り経験可能です。当院は神奈川県がん診療連携指定病院であり、がん診療の専門的研修も可能です。
専攻医の皆さんには、指導医の下で主担当医として入院患者を受持ち、検査～診断～治療に至る一連の診療を実践してもらいます。また、内科スタッフとして、内科救急当番・内科当直の救急業務も担ってもらいます。疾患だけを診るのではなく、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する力を養ってもらいます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	7	0	8	2	4	2	7	1	3	1	2	0	0	1

7） 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することが出来ます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

内科専門研修基幹施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設呼吸器内科、ＮＳＴ稼働認定施設、日本肺癌学会教育認定施設　など

48. AOI国際病院

責任者名　　平尾　見三

責任者診療科名　循環器内科

1. 連携施設の概要

1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	10	（2021.3現在）
病床数（床）	328	（2021.3現在）
内科系病床数（床）	53	（2021.3現在）
外来患者数（人）	117,606	（2019年実績）
内科系外来患者数（人）	36,653	（2019年実績）
入院患者数（人）	112,999	（2019年実績）
内科系入院患者数（人）	64,217	（2019年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	5	（2021.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	5	（2021.3現在）
総合内科専門医数（人）	10	（2021.3現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2019年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	△	○	○	○	○	○

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要なインターネット環境がある。図書室については受入までにより充実した環境を整備予定。・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当法人の就業規則等に従う。・メンタルストレスに適切に対処する部門として健康管理センターが置かれている。・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、仮眠室、シャワー室が整備されている。・当院勤務者専用の保育園（コスモス保育園）が利用可能である。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が5名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・ＣＰＣを随時開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す主要な内科領域で専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、まれな症例については基幹病院と連携して研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については当院での実施の他、連携施設において補完もする。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・ＡＯＩ国際病院では内科系診療科に関連する口座が開設され、臨床研究が可能である。
・日本内科学会及び関連学会において計10題の学会発表を行っている。（2016年度以降）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　川島　朋之

・AOI国際病院は、開院して8年程度の新しい病院で、国内有数の医療法人グループである葵会の基幹病院として、救急医療及び先進的医療を行っております。院内では、東京科学大学、東京慈恵会医科大学、東邦大学、昭和大学等で研鑽を積まれた医師が活躍しており、専攻医の先生方が不安なく相談でき、積極的に発言が出来る風通しの良い職場作りを心掛けています。また、専攻医の先生が手技者となる機会をなるべく設けるようにするとともに、一般病院で疎かになりがちなアカデミックな研究・発表・論文作成の機会も大切にしております。都内アクセスも良く、ロケーションに恵まれながら、比較的労働条件も良いですので、是非とも当院での研修を御一行頂ければ幸いです。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	2	1	7	1	0	5	2	0	0	1	1	0	0	1

7） 経験できる疾患群

疾患群項目表にある主要領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

疾患群項目表にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら基幹病院と連携し幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、学会認定不整脈専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院

49. 虎の門病院分院

責任者名　　鈴木　文孝

責任者診療科名　肝臓内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	
病床数（床）	300	
内科系病床数（床）	193	
外来患者数（人）	548	（令和6年度1日平均）
内科系外来患者数（人）		
入院患者数（人）	255	（令和6年度1日平均）
内科系入院患者数（人）		

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	10
総合内科専門医数（人）	18

3) 剖検数

内科剖検数（件）	7

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回/年
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・虎の門病院分院で6カ月以上の勤務の場合に常勤医師として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスに適切に対処する部署に産業医がおります。
・ハラスメント相談員・相談窓口が整備されています。
・院内に保育所があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科専門研修プログラムの連携施設としてこれまでも多数の専攻医の受入をしています。 ・施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理 委員会と連携を図ります。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与えます。
・CPCを定期的に開催します。 開催が困難な場合には、基幹施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　髙谷　久史

呼吸器内科では、肺癌や縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患、細菌性肺炎や肺膿瘍、抗酸菌感染症や肺真菌症などの呼吸器感染症、びまん性汎細気管支炎や慢性閉塞性肺疾患などの気道閉塞性疾患、気管支喘息や好酸球性肺炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症などのアレルギー性疾患、間質性肺炎やサルコイドーシスなどの間質性肺疾患、胸膜炎や膿胸、気胸、胸膜腫瘍などの胸膜疾患、急性および慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群等、全ての呼吸器領域疾患を対象として診療を行っています。幅広い呼吸器疾患の診断と治療について習熟することができ、J-OSLERの症例集めにも苦労しません。
気管支鏡検査では、専攻医の先生が観察を行い、慣れた後には生検などの処置もできるようになります。CTガイド下針生検も当科で行っています。胸腔穿刺や胸腔ドレナージ件数も多く、呼吸器内科医が必要とする様々な手技を学ぶことができます。
また、学会発表や論文投稿を積極的に支援しています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	7	6	1	2	4	1	1	6	3		6		1	

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち特に呼吸器分野での症例を幅広く経験する事ができます。また、希望があれば、消化器、循環器、糖尿病、腎臓、血液、神経、分野の症例を幅広く経験することも可能です。

8） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

虎の門病院本院や近隣の医療機関との病院間連携や病診連携を実践できます。また、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟がそろっており患者さんの病態、回復ステップに合った柔軟な診療提供を経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本血液学会研修認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本呼吸器学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本肝臓学会専門医制度認定施設
日本循環器学会専門医制度研修関連施設
日本腎臓学会認定教育施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本リウマチ学会認定教育施設
日本感染症学会認定研修施設
日本腫瘍学会認定特別連携施設、ほか

50.新百合ヶ丘総合病院

責任者名　　髙橋　良英

責任者診療科名 循環器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	15	（2025.4現在）
病床数（床）	563	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	110	（2025.4現在）
外来患者数（人）	342,204	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	132,445	（2025年度実績）
入院患者数（人）	174,366	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	68,950	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	34	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	34	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	29	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度 基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•新百合ヶ丘総合病院内科研修医として労務環境が保障されています.
•メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が男女別に整備されています.
•病院に関連する保育施設があり，利用可能です.

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•内科指導医は30名在籍しています.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長），プログラム管理者（消化器内科部長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年計5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群の一部で合同カンファレンスを定期的に主催して，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2025年度実績4回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年2回, 川崎北部 心臓血管病フォーラム；年1回, 新百合ヶ丘循環器フォーラム；年1回, 新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年1回, 新百合ヶ丘がんセミナー；年1回など）を定期的に開催していますが，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（年1回開催を予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
•70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても56以上の疾患群）について研修できます.
•専門研修に必要な剖検（2024年度実績3体，2025年度5体）を行っています.

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています.
•倫理委員会を設置し，年1-2回開催しています.
•治験管理室を設置しています.
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に2023年度に計1演題の学会発表をしています．内科専攻医の内科系学会での発表数は6演題です。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　髙橋　良英

新百合ヶ丘総合病院は神奈川県川崎北部医療圏において中心的な役割を担う急性期病院です．当院は、先進医療や予防医学の実践，脳卒中・循環器病の救急医療体制の実現、および充実したがん治療の提供を目標に総合病院としての機能を拡充しながら地域の方々の健康を支えたいと考えています．このような当院の特性を活かしつつ、近隣の医療機関とも連携した独自の内科専門医の育成プログラムを準備しています．研修する診療科の決定においては、個々の専攻医の希望を尊重して柔軟に対応し、内科研修終了後にサブスペシャリティの研修へスムーズに移行できるよう配慮しています．
専攻医には入院患者の主担当医として，初療から入院・退院・外来通院までの一連の診療を分担することにより幅広く研鑽を積んでいただきます．また，個々の患者を診療する中で，患者の社会的背景を理解し療養環境の調整業務においてもリーダーシップの発揮できる包括的かつ全人的な対応力の備わった内科専門医の育成を目指し指導しています．

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	29	12	8	7	2	6	2	7	3	4	2	1	0	0	0

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本脈管学会認定研修関連施設
日本呼吸器学会関連施設
日本神経学会教育施設
日本脳卒中学会研修教育病院
日本腎臓学会研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設
日本認知症学会教育施設　　など

51. 横浜みなと赤十字病院

責任者名　　萩山　裕之

責任者診療科名　リウマチ科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	11	（2025.4現在）
病床数（床）	624	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	222	（2024.4現在）
外来患者数（人）	277,149	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	107,179	（2025年度実績）
入院患者数（人）	185,125	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	95,019	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	30	（2025.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	30	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	21	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	14	（2025年度）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催	
医療倫理講習会	開催	
医療安全講習会	開催	
感染対策講習会	開催	
CPC	開催	
CPCの開催回数	８回	（2025年度実績）
研修施設群合同カンファレンス	開催予定	
地域参加型カンファレンス	開催	
倫理委員会	開催	
臨床研究センター	あり	
治験センター	あり	
内科学会活動	年間3題以上	

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。
・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が３０名在籍しています。
・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。
・医療倫理（２０２５年度実績１回）・医療安全（２０２５年度実績２回）・感染対策講習会（２０２５年度実績２回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・研修施設群合同カンファレンス（２０２５年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・ＣＰＣ を定期的に開催（２０２５年度実績８回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（２０２５年度１回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・日本専門医機構による施設実地調査に医師教育研修センターが対応します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
・７０疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも５６以上の疾患群）について研修できます。
・専門研修に必要な剖検（２０２5年度実績１４体）を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２４年度実績１６回）しています。
・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催（２０２４年度実績６回）しています。
・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（２０２４年度実績１２回）、自主臨床研究審査委員会（２０２４年度実績１３回）を定期的に開催しています。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表（２０２５年度実績７演題）をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　萩山　裕之

当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、山下公園、横浜中華街といった繁華街から徒歩15分という距離にあります。地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年10,000台を超え全国でも際立つ存在となっています。またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。救急医療、悪性疾患に対する集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	21	7	6	9	3	3	3	5	4	2	2	3	1	0	2

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本神経学会教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本透析医学会教育関連施設

52. 川崎市立井田病院

責任者名　　西尾　和三

責任者診療科名　内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	15	（2026.4現在）
病床数（床）	383	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	140	（2026.4現在）
外来患者数（人）	126,300	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	63,590	（2025年度実績）
入院患者数（人）	7,104	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	5,001	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	16	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	16	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	18	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	9	（2025年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・川崎市会計年度任用職員として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署（総務企画局担当）があります。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・JMECC を毎年開催しています。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けています。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、参加するための時間を与えます。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、参加するための時間を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2025年度実績　5演題）をしています。
・各専門科においても、内科系各学会において数多くの学会発表を行っています。
・臨床研究に必要な図書室、臨床研究支援室などを整備しています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　西尾　和三

川崎市立井田病院は、東急東横線・目黒線の日吉駅から徒歩圏内にありながら緑豊かな高台という恵まれた環境にあります。がん拠点病院として健診から緩和医療・在宅医療までシームレスな医療を提供する一方、急性期病院として二次救急を行っており、内科の年間入院患者数は延べ72,239名（2025年度実績）です。研修については専攻医一人一人の希望を実現できるようローテーションを組んでいます。専攻医2年目以降は希望のサブスペシャリティー中心のローテーションを組むことが可能です。その一方、サブスペシャリティー専門医である前に総合内科医であるとの理念から、サブスペシャリティー分野を研修中も総合内科症例も受け持ちます。さらに受け持った患者さんを自分の外来で継続的に診療できます。総合内科の一環として緩和医療を学ぶ場合、緩和ケア病棟だけではなく在宅医療も学べます。24 時間体制で入院・在宅の患者さんに対応する体制を整えており、ケアマネージャー・訪問看護との連携など地域包括医療を体験できます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	3	1	4	3	4	4	4	0	0	1	3	1	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療や緩和ケア医療なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会日本専門医機構内科専門研修プログラム基幹施設、日本消化器病学会認定施設
日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設、日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会認定教育施設、日本リウマチ学会教育施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本感染症学会研修施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設 、日本大腸肛門病学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会基幹施設、
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院　など

53. 労働者健康安全機構 関東労災病院

責任者名　　藤井 知紀

責任者診療科名　腫瘍内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	10	（2026.4現在）
病床数（床）	610	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	250	（2026.4現在）
外来患者数（人）	403,146	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	96,407	（2025年度実績）
入院患者数（人）	188,769	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	87,129	（2025年度実績）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	28	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	28	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	25	（2026.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	7	（2025年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
・関東労災病院嘱託医師として労務環境が保障されています（衛生管理者による院内巡視・月1回）.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課・安全衛生委員会）があります.
・ハラスメント委員会が院内に整備されています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり利用可能です.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は28名在籍しています.
・内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設，連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図りながら専攻医の研修状況等を管理します.
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床研修管理室を設置します.
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・CPC を定期的に開催（2025年度実績6回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・地域参加型のカンファレンスを開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（年1回院内定期開催）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
・日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床研修管理室が対応します.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても10分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.
・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記）.
・専門研修に必要な剖検（2024年度実績9体，2025年度7体）を行っています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています.
・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています.
・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています.
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名

藤井 知紀（院長補佐/腫瘍内科部長）
【内科専攻医へのメッセージ】
関東労災病院は，川崎市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核である．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数		7	4	6	1	3	1	6	5	4	1	1	2	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定教育病院,
日本血液学会研修認定施設,
日本呼吸器学会認定施設,
日本循環器学会循環器専門医研修施設,
日本消化器病学会認定施設,
日本神経学会認定教育施設,
日本腎臓学会研修施設,
日本糖尿病学会認定教育施設,
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本がん治療医認定機構認定研修施設,
日本救急医学会救急科専門医指定施設,
日本呼吸器内視鏡学会認定施設,
日本消化管学会胃腸科指導施設,
日本消化器内視鏡学会指導施設,
日本心血管インターベンション治療学会研修施設,
日本精神神経学会研修施設,
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム（NST）専門療法士認定教育施設,
日本透析医学会認定施設,
日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医研修施設
ステントグラフト実施施設
日本感染症学会認定研修施設

５４.山梨県立中央病院

責任者名　　柿﨑　有美子

責任者診療科名　呼吸器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9 （2026.4現在）
病床数（床）	644 （2026.4現在）
内科系病床数（床）	180（概数）（2026.4現在）
外来患者数（人）	26,910 （2025年度月平均実績）
内科系外来患者数（人）	- -
入院患者数（人）	1,285 （2025年度月平均実績）
内科系入院患者数（人）	- -

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	21 （2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	21 （2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	42 （2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	8 （2025実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•地方独立行政法人山梨県立病院機構の非常勤医師として労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります.
•ハラスメント防止委員会が院内に整備されています.
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は21名在籍しています（下記）.
•内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（梅谷健内科医療局長），プログラム管理者（柿﨑統括部長）（ともに指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.
•基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修センターを設置します.
•医療倫理・医療安全・感染管理講習会を定期的に開催（2025年度実績：医療倫理1回、医療安全・感染管理40回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催（2025年度実績8回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンス（基幹施設：MSGR：Medical Surgical Grand Round、キャンサーボード、バスキュラーボード、地域連携研修会；2025年度実績39回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•日本専門医機構による施設実地調査に職員研修センターが対応します.
•特別連携施設の専門研修では，電話や週1回の山梨県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）.
•70疾患群のうち神経内科領域を除く全疾患群について研修できます.
•専門研修に必要な剖検（2025年度実績8体）を行っています.

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室を整備しています.
•倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025年度実績7回）しています.
•治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025年度実績10回）しています.
•内科関連の学会総会・地方会、2025年度で初期研修医・内科専攻医が筆頭発表者であった演題は34演題ありました。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　柿﨑　有美子

2025年度は募集7名に対し7名、2026年度も同様に7名の専攻医が当院内科プログラムに参加しています。
当院は二次・三次救急を担う施設であり、幅広い救急疾患に対応できる手技および臨床判断力を実践的に習得することができます。
院内診療科間の連携も良好であり、専門領域の研修をすすめながらも他領域の疾患についてもバランスよく経験することが可能です。
2025年度には初期研修医52名を受け入れており、活気ある教育環境が整っています。将来の医療を担う皆さんが臨床力と研究力に自信と誇りを持てるような研修環境を提供します。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	2	8	4	5	2	2	2	6	1	1	0	3	2	0	13
											内科以外		内科以外		内科以外

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会関連施設、日本消化器学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修指定施設、日本透析医学会研修認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本リウマチ学会研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本核医学会専門医教育施設、日本アフェレシス学会認定施設、急性血液浄化認定指定施設、日本病理学会認定病院Ｂ　など

５５.北信総合病院

責任者名　　千秋　智重

責任者診療科名　呼吸器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2026.4現在）
病床数（床）	419	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	127	（2026.4現在）
外来患者数（人）	209,807	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	95,026	（2025年実績）
入院患者数（人）	131,907	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	64,238	（2025年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	10	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	8	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	9	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	9 （2025年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、長野県厚生連の就業規則等に従う。

	専門研修1年次	専門研修2年次	専門研修3年次
基本給	約475,000円	約500,000円	約523,000円
夜間当直手当	13,000円＋超過勤務手当4時間		
総支給額（月）	約580,000円	約610,000円	約650,000円

※ 夜間当直手当の超過勤務手当は個人により異なる。
※ 同月内で2回以上宿日直を行った場合2回目以降は次の金額が加算される。
2回目：＋10,000円　3回目：＋20,000円　4回目：＋30,000円
※ 総支給額は宿日直の回数等により変動する。
※ 総支給額に超過勤務手当分は含まれない。
※ 他、年2回の賞与あり。

・メンタルストレスに適切に対処する部門として衛生委員会が設置されている。
・ハラスメント防止対策の職員が配置され、人事課および長野県厚生連に苦情相談員が置かれている。
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・院内保育園（たんぽぽ保育園）が利用可能である。病児・病後児保育も可能である。
・医師専用の住宅を用意してあり、無償で貸与している。
・赴任にかかる費用の補助がある（上限金額あり）。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が8名在籍している。
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2025年度開催実績2回）
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
・施設実地調査については研修管理委員会が対応する。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
・70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
・専攻研修に必要な剖検数については本院で実施できる。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・倫理委員会が設置されている。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1題の学会発表を行っている。（2024年度実績）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　千秋　智重

北信総合病院は、長野県の北信医療圏における中核病院として優れた診療を行う内科医師を育成しています。
当院は経験豊かな指導医が在籍しており各科の協力が良好であるので、経験していない疾患も気軽に声をかけてもらえるため、効率的に研修することができます。また地域で唯一の総合病院でもあるので、豊富で多様な疾患を経験することができます。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	3	1	3	0	2	1	2	0	3	0	0	1	0	1

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域すべて、70疾患群のうち66疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携および行政との連携を含む地域包括ケアの構築等も経験できる。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設

５６.組合立諏訪中央病院

責任者名　　林　大吾

責任者診療科名　脳神経内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	14	（2026.3現在）
病床数（床）	360	（2026.3現在）
内科系病床数（床）	230	（2026.3現在）
外来患者数（人）	200,457	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	106,809	（2025年実績）
入院患者数（人）	7,122	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	4,836	（2025年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	0	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	12	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	10	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2025年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	あり
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
•組合立諏訪中央病院における会計年度任用職員として労務環境が保障されています。
•メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課庶務係）があります。
•ハラスメント委員会が院内に整備されています。
•女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
•敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医は14名在籍しています。（2024年度末時点）
•内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績：各 1回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•CPCを定期的に開催（2025年度実績：5回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•研修施設群合同カンファレンス（内科ケースカンファレンス）を定期的に開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

•カリキュラムに示す内科領域13分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
•専門研修に必要な剖検（2024年度5体、2025年度5体）を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

•臨床研究に必要な図書室等を整備しています。
•倫理委員会を設置/開催しています。
•臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。
•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　若林　禎正

【内科専攻医へのメッセージ】
患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	10	2	1	2	0	0	0	3	0	2	0	3	2	0	2

7） 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定病院総合医養成プログラム施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療後期研修プログラム施設、日本東洋医学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本静脈経腸栄養学会・ＮＳＴ稼動施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会関連施設、日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本臨床神経生理学会準教育施設、他

57. 佐久総合病院

責任者名　　三石　俊美

責任者診療科名　内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	12	（2025.4現在）
病床数（床）	309	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	170	（2025.4現在）
外来患者数（人）	210,209	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	92,020	（2024年度実績）
入院患者数（人）	3,455	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	2,034	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	―	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	9	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	11	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2024年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	未定
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	○	○

※実際の研修受け入れ可否につきましては、その都度の相談となります。

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・長野県厚生連勤務医師として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
・ハラスメント対策委員会が整備されています。
・女性専攻医向けの安全な更衣室、当直室が整備されています。
・院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は9名在籍しています。
・専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示された内科領域13 分野のうち、総合内科、神経の分野で定常的に専門研修が可能なほか、その他の分野の症例も経験できます。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・臨床研究･治験センターを設置し、定期的に研究審査委員会を開催しています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　副院長 兼 統括内科部長　三石　俊美

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	0	0	3	0	0	0	1	1	4	1	2	1	0	0

7） 経験できる疾患群

13領域、70疾患群のうち、総合内科、脳神経、内分泌、代謝、腎臓の各分野の診療を経験することができます。歴史ある地域に根ざした病院であり、全人的医療を実践する場です。

8） 経験できる技術・技能

技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

慢性期疾患や在宅医療、健康管理などの地域に根ざした医療や病病･病診連携のみならず、介護福祉連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本神経学会専門医制度准教育施設、日本透析医学会教育関連施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本プライマリ･ケア連合学会病院総合医養成プログラム認定、日本リウマチ学会教育施設　ほか

５８.佐久総合病院佐久医療センター

責任者名　　田中　順子

責任者診療科名　血液内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	16	（2025.4現在）
病床数（床）	450	（2025.4現在）
内科系病床数（床）	184	（2025.4現在）
外来患者数（人）	215,289	（2024年度実績）
内科系外来患者数（人）	86,968	（2024年度実績）
入院患者数（人）	13,959	（2024年度実績）
内科系入院患者数（人）	5,355	（2024年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	ー	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	26	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	25	（2025.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2024年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	未定
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	△	○	◎

※実際の研修受け入れ可否につきましては、その都度の相談となります。

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・長野県厚生連勤務医師として労務環境が保障されています。
・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
・ハラスメント対策委員会が整備されています。
・女性専攻医向けの安全な休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医は26名在籍しています。
・専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会(研修委員会を兼ねる)を設置し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修管理委員会が対応します。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
・専門研修に必要な剖検を行っています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
・臨床研究･治験センターを設置し、定期的に研究審査委員会を開催しています。
・日本内科学会講演会、あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　血液内科 副部長　田中 順子

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	25	13	5	9	1	5	3	2	2	0	1	0	1	0	9

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

専門医療と救急･急性期医療に特化した地域医療支援病院として地域に根ざした医療や、病病･病診連携などが経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本透析医学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ　ほか

５９.静岡県立総合病院

責任者名　　金　剛

責任者診療科名　脳神経内科



1. 連携施設の概要

1） 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9	（2025.3現在）
病床数（床）	718	（2025.3現在）
内科系病床数（床）	379	（2025.3現在）
外来患者数（人）	1,914	（2024年度１日平均）
内科系外来患者数（人）	757	（2024年度１日平均）
入院患者数（人）	550	（2024年度１日平均）
内科系入院患者数（人）	246	（2024年度１日平均）

2） 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	40	（2025.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	35	（2025.4現在）
総合内科専門医数（人）	38	（2025.4現在）

3） 剖検数

内科剖検数（件）	10	（2024年度実績）

4） 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
•地方独立行政法人静岡県立病院機構職員の常勤医師（有期職員）として、労務環境が保障されています。
•メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。
•ハラスメントに対処する部署、委員会が、病院内に整備されています。
•女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
•敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、地元幼稚園との連携保育も行っています。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が40名在籍しています。
•内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
•医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的に開催（2024年度実績：医療安全12回、感染対策２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•CPC を定期的に開催（2024年度実績８回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
•地域参加型の内科の領域別カンファレンスを、地域の病院と合同で月に2,3回開催し、専攻医の受講を促進、そのために時間的余裕を与えます。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても11分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても65以上の疾患群）について研修できます。
・専門研修に必要な剖検（参考　2024年度実績10体，2023年度12体，2022年度実績12体）を行っています.

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計15演題の学会発表を予定しています。
・臨床研究に必要な図書室などを整備しています.
・インターネットにおける文献検索の充実化を医師、専攻医の要望により図っています。
・倫理委員会を設置し，不定期に開催（2024年度実績22回）しています.
・研究支援室を設置し，臨床試験管理運営委員会（2024年度実績１回）および、治験審査委員会（2024年度実績12回）を開催しています。
・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2024年度実績９演題）をしています.

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名

【内科専攻医へのメッセージ】
　静岡県立総合病院は，高度救命救急センターを擁した、静岡県の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの連携施設として、内科専門研修を行い、内科専門医育成を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	38	8	2	10	5	9	6	7	2	4	2	2	2	1	6

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本血液学会血液研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本神経学会専門医教育施設
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本透析医学会専門医認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本胆道学会認定指導医制度指導施設
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設

60. 静岡市立清水病院

責任者名　　吉富　淳

責任者診療科名　呼吸器内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	6	（2025年度実績）
病床数（床）	463	（2025年度実績）
内科系病床数（床）	99	（2025年度実績）
外来患者数（人）	136,195	（2025年度実績）
内科系外来患者数（人）	45,216	（2025年度実績）
入院患者数（人）	94,172	（2025年度実績）
内科系入院患者数（人）	33,489	（2025年度実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	9	（2025年4月現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	9	（2025年4月現在）
総合内科専門医数（人）	9	（2025年4月現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0	（2024年度実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし	
医療倫理講習会	開催	
医療安全講習会	開催	
感染対策講習会	開催	
CPC	開催	
CPCの開催回数	1	
研修施設群合同カンファレンス	予定なし	
地域参加型カンファレンス	開催	
倫理委員会	開催	
臨床研究センター	あり	※治験・臨床研究管理室
治験センター	あり	※治験・臨床研究管理室
内科学会活動	年間1-2題	

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	△	◎	○	△	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です.
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
•静岡市の正規職員としての労務環境が保障されています.
•メンタルストレスに適切に対処する部署（病院経営企画課）があります.
•ハラスメント調査・検討部会及び委員会が静岡市立清水病院内に設置されています。
•女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
•敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

※当院は、2027年４月から指定管理者による清水厚生病院との一体的運用への移行を予定しております．医療体制につきましては、現在の当院の体制を維持する方向で調整しております．そのため、2027年度採用専攻医につきましては、指定管理者の職員として採用予定となりますので．ご留意いただきますようお願いいたします.

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が９名在籍しています.
•内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります.
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理１回,医療安全２回，感染対策２回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
•地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，呼吸器、神経、循環器、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　吉富　淳

【内科専攻医へのメッセージ】
　静岡市立清水病院は静岡市清水区の中心的な急性期病院であり，内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	3	0	1	0	1	0	5	0	1	2	0	2	0	1

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

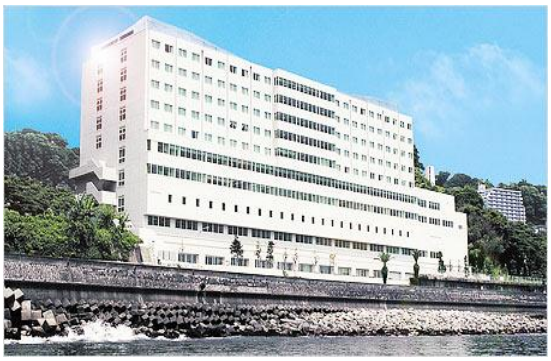
日本内科学会基幹施設
日本医学放射線学会放射線専門医修練機関
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本循環器学会研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本頭痛学会認定教育施設
日本認知症学会教育施設
日本麻酔科学会連携施設

6 1. 国際医療福祉大学熱海病院

責任者名　　山田　佳彦

責任者診療科名　糖尿病・代謝・内分泌内科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	7	（2026.4現在）
病床数（床）	269	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	86	（2026.4現在）
外来患者数（人）※延数	166,452	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	66,637	（2025年実績）
入院患者数（人）※延数	68,248	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	29,853	（2025年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	8	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	8	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	11	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	10　（2025年実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	△	×	△	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
・学校法人国際医療福大学の職員として労務環境が保障されています。
・メンタルヘルスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。
・ハラスメント委員会が病院内に設置されています。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
・病院敷地内に院内託児室があります。

2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、血液内科、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会学術講演会あるいは同地方会で学会発表を行っています。
・内科系学会の講演会等で学会発表を行っています。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　山田　佳彦

国際医療福祉大学は7つの附属病院を有し、それぞれの地域で人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。専門医制度の内容に則して初期臨床研修終7了後に院内内科系診療科が協力・連携するだけでなく、都市部や病院隣接の異なる医療圏での研修を通じて質の高い内科医を育成するプログラムを行っています。また、単に内科医を養成するだけでなく、全人的な医療を目指し、チーム医療・チームケアの体制のもと医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、これからの医療を担える医師を育成することを目的としています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	4	3	1	2	1	2	2	0	2	1	0	0	0	1

7） 経験できる疾患群

研修手帳(疾患群項目表)にある13領域､70疾患群のうち血液（3疾患郡）と膠原病（2疾患郡）を除く65疾患群の症例を経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を､実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく､超高齢社会に対応した地域に根ざした医療､病診･病病連携などが経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本循環器学会認定循環器専門医関連施設　日本内分泌学会認定教育施設　日本糖尿病学会認定教育施設　日本呼吸器学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設　日本消化器内視鏡学会専門制度指導施設　日本胆道学会認定指導医制度指導医施設
日本膵臓学会認定指導施設　日本神経学会専門医制度准教育施設　日本透析医学会専門医制度認定施設　日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設　日本肝臓病学会専門医制度施設認定関連施設　など

６２.公立邑智病院

責任者名　　上田　智広

責任者診療科名　総合診療科

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	1	（2026.4現在）
病床数（床）	98	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	98	（2026.4現在）
外来患者数（人）	49,338	（2025年実績）
内科系外来患者数（人）	15,661	（2025年実績）
入院患者数（人）	30,300	（2025年実績）
内科系入院患者数（人）	22,201	（2025年実績）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	1	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	1	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	1	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	0　（2026.4現在）

4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

診療科目は内科（総合診療科）・外科・小児科・産婦人科・麻酔科・歯科・整形外科・泌尿器科・精神科・皮膚科の合計10科で病床数は98床（急性期一般病床57床・地域包括ケア病床41床）です。
・常勤医師としての労務環境が保証されています。
・研修に必要な図書室やインターネット環境（ＷｉＦｉ）があります。
・研修内容や生活面など総合調整室が相談窓口となり丁寧に対応します。基幹施設と常に連携を取りながら適切に対処していきます。
・病院の近隣に家電付き医師住宅を完備しております。
・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、当直室等が整備されています。
・託児事業（公立邑智病院ファミリーサポート事業）があり、安心して当直や研修が継続できるよう支援しています。
・病院に隣接した病児保育室「コスモス」があります。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・常勤医師12名で、その内、内科・総合診療科医師が5名います。
・倫理委員会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医が受講できるよう配慮します。
・ 研修施設群合同カンファレンスに定期的な参画を行い、専攻医が参加できるよう調整と計画を行います。
・地域の医療・介護・福祉関係者で構成する「情報交換会」を定期的に開催し、患者の社会的背景や地域の医療・介護資源が見えるよう、専攻医が参加できる環境を整えています。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー及び膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　酒井　和久

公立邑智病院は人口約18,000人の邑智郡内唯一の救急告示病院です。年間700から800台の救急車の受け入れがあります。ほぼすべての救急患者を受け入れ、診断し、緊急手術や心臓カテーテル治療といった侵襲的かつ専門的治療は第三次救急医療機関へ搬送し、可能な限りの救急疾患患者の入院治療を行います。
平成26年から地域包括ケア病床を立ち上げ、要介護状態になっても、住み慣れた地で自立した自分らしい生活を人生の最後まで続けられるよう支援を行っています。患者さんに寄り添った包括的な医療が行えるよう、研修体制を整えています。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7） 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
具体的には、すべての疾患の診断と初期治療、感染症・心不全・脳血管疾患・緩和ケアなどの入院外来治療や上部消化管内視鏡検査、胸部・腹部超音波検査を経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病病連携、病診連携、退院支援、退院調整会議や個別ケース検討会への出席、主治医意見書の作成など経験することができます。

10）学会認定施設（内科系）

地域包括医療・ケア認定施設

63. 飯塚病院

責任者名　　小田　浩之

責任者診療科名　総合診療部

1. 連携施設の概要



1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	18	（2025.4現在）
病床数（床）	1,006	（2026.4現在）
内科系病床数（床）	561	（2025.4現在）
外来患者数（人）	397,201	（2025実績）年間新外来患者数（臨床研修年次報告と連動）
内科系外来患者数（人）	205,642	（2025実績）年間新外来患者数（臨床研修年次報告と連動）
入院患者数（人）	300,284	（2025実績）年間入院患者数（新入患数）（臨床研修年次報告と連動）
内科系入院患者数（人）	191,806	（2025実績）年間入院患者数（新入患数）（臨床研修年次報告と連動）

2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	41	（2026.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	41	（2026.4現在）
総合内科専門医数（人）	44	（2026.4現在）

3) 剖検数

内科剖検数（件）	8	（2025実績）

4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎

評価（4段階評価）
◎研修できる
○時に経験できる
△ほとんど経験できない
×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1） 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
・ 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線LAN，Wi-Fi）があります．
・ 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。
・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります．医務室には産業医および看護師が常駐しています。
・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
・ 敷地内に病児保育室，隣接する施設に24時間対応院内託児所があり，利用可能です。

2） 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・ 指導医は41名在籍しています（下記）。
・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。
・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年実績　医療倫理5回，医療安全9回，感染対策7回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
・ CPC を定期的に開催（2025年実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
・ 特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。
・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。

3） 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても45以上の疾患群）について研修できます。
・ 専門研修に必要な剖検を行っています。

4） 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。
・ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。
・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。

5） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　　増本　陽秀

飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます．米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た，教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います．
専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です．将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います。

6） 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	44	15	3	9	1	3	3	9	3	4	2	5	1	2	10

7） 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8） 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9） 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。

10）学会認定施設（内科系）

日本内科学会 教育病院、日本救急医学会 救急科指定施設、日本消化器病学会 認定施設、日本循環器学会 研修施設、日本呼吸器学会 認定施設、
日本血液学会 研修施設、日本糖尿病学会 認定教育施設、日本腎臓学会 研修施設、日本肝臓学会 認定施設、日本神経学会 教育施設、
日本リウマチ学会 教育施設、日本臨床腫瘍学会 研修施設、日本消化器内視鏡学会 指導施設、日本消化管学会 胃腸科指導施設、
日本呼吸器内視鏡学会 認定施設、日本呼吸療法医学会 研修施設、日本緩和医療学会 認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会 研修施設、
日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設、日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設A、日本胆道学会指導施設、
日本がん治療医認定医機構 認定研修施設　など

別添２

東京科学大学病院内科専門研修プログラム特別連携施設情報

目次

1. 田中医院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 新松戸診療所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
3. あおぞら診療所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
4. メモリークリニックお茶の水・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
5. 文京根津クリニック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
6. ゆしまクリニック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
7. 賛育会病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
8. セツルメント診療所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
9. リバーサイド読売ビル診療所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
10. 管工業健康保険組合健康管理センター・・・・・・・・・・・・・・・ 20
11. 本多病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
12. 信愛クリニック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
13. 間中記念御幸の浜リハビリテーション病院 26

1．医療法人 慶仁会 田中医院

責任者名　　田中　次郎

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	入院病床無しの診療所です
外来患者数	20～50 名／日

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	1
備考	日本内科学会指導医 1 名(非常勤)、日本内科学会認定内科医 2 名(非常勤)、日本老年医学会指導医 1 名(非常勤)、日本老年医学会専門医 1名(非常勤)、放射線科専門医 1 名(常勤)

3） 施設の特徴

・専攻医が、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
・本診療所は、玉埼県和光市にあり、消化器内視鏡などの検査を主とした健診業務を主に行っています。
・専攻医は、本診療所にて、週 1 日午前または午後に検査業務や診察業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　田中　次郎

田中医院は埼玉県和光市にある、大学からアクセスの良い診療所です。健診業務の胃部検査では、バリウムを扱っており、高齢者健診や小児の予防接種などを通して、地域に根付いた総合診療のあり方を学ぶことが出来ます。
健診結果で精査・加療が必要と認められたり、治療中の受診者には、かかりつけ医や適切な医療機関との連携をはかったり、入院加療が必要な状況と判断した場合には、入院加療を行うための医療連携の経験もすることができます。
予防医学（二次予防）について内科医師に求められる専門的知識を総合的に学ぶことができます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギーの分野で健診施設として可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の医療機関への受診勧奨など総合的な判断や指導を経験していただけます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

田中医院は埼玉県和光市にある診療所です。大学からアクセスの良い診療所であり、主に健診診断や地域のかかり付け患者の診療や相談を受けています。急性期疾患や精密検査が必要な受診者もおり地域中核医療機関への入院診療へつなぐ流れやかかりつけ医との医療連携を経験することができます。本診療所は、東京科学大学病院老年病内科と医療連携があります。

5） 学会認定施設（内科系）

なし

2．新松戸診療所

責任者名　　栄原　智文

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床なしの診療所です
外来患者数	10,378　（2025 年度） ※診療日平均 35.5 人

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	1
備考	日本内科学会認定内科医（1 名）、日本プライマリーケア連合学会認定家庭医療専門医（1 名）、日本内科学会認定総合内科専門医（ 1 名）

3） 施設の特徴

・専攻医が一般内科外来診療を行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します。
・本診療所は、千葉県松戸市にあり、一般内科診療、24 時間・３６５日対応の在宅支援診療所としての訪問診療、健診業務を主に行っています。
・専攻医は、本診療所にて、週半日外来診療を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　栄原　智文

・急性・慢性のcommon diseasesや、各種の癌、肺炎や心筋梗塞、脳卒中の救急患者などを幅広く経験することが可能です。また、健康診断業務を行っており、健診後の指導や必要な内科的加療を経験します。複雑な検査や癌の精査、重症救急で入院加療が必要なときなどは、東葛病院や国立がんセンター東病院、松戸市立総合医療センター、新松戸中央病院などに紹介します。
・他方、これらの病院から紹介された癌末期患者の緩和ケアや看取り往診、グループホームへの訪問診療などにも積極的に取り組んでいます。
また、同じビルの中に、新松戸歯科、新松戸メンタルクリニック、たんぽぽ訪問看護ステーションがあり、密接な連携協力を進めて、〈かかりつけ医〉としての機能を発揮しています。
・松戸市や医師会の、夜間・休日診療、障害者介護給付審査会、学校医、防災会議、地域ケア会議などにも積極的に参加しています。こうして、地域の民主的包括的な医療・福祉・介護のネットワーク形成をめざしているのです。
・隣に日本語学校があり、中国、ベトナム、バングラデシュなど、アジア諸国出身で日本語が不自由な、貧しい留学生患者さんや生活保護受給者、生活困難者も数多く受診します。当診療所は〈無料低額診療制度〉も導入しており、必要な患者さんに適用しています。疾病の社会的要因に注目し、格差がひどくなる社会で、最も困難な状況におかれた患者さんにも寄り添っていきたい、というのが当診療所の基本的な姿勢です。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、代謝、腎臓、膠原病で外来診療が可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専攻医に必要な技術・技能を、地域の診療所という枠組みのなかで経験して頂きます。健診、健診後の精査、地域の内科外来としての日常診療も経験して頂きます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

地域に深く根ざし、患者・家族はもちろんのこと地域を丸ごと診る地域医療を経験できます。かかりつけ医としての外来診療、看取りも含めた24時間対応の訪問診療、保健予防活動、病診連携や介護・福祉分野との連携の経験を通じて、地域包括ケアの最前線の取り組みを研修します。

5） 学会認定施設（内科系）

なし

3．医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所

責任者名　　川越　正平

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	なし
外来患者数	2,769　（2026年度延べ） ※在宅医療提供患者含

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	5
備考	

3） 施設の特徴

【臨床】在宅医療と外来診療が診療の柱となる。患者さんの生活や人生、とりまく家族や地域を把握して対応することを重視する。
【連携】開設以来、門前薬局、訪問看護ステーション、入院病床、居宅介護支援事業所などの機能を自らの組織として構えるのではなく、
あえて、地域の機関や専門職種の方々と連携協働する形で実践する。
【教育】当院開設の理念として、「地域で医師を育てる」ことを大きな柱にすえて活動している。
月に一度開催する医師カンファレンスでは、生物・心理・社会・倫理的側面、
そして医療・介護・福祉の側面から一人一人の患者について深く検討する機会を確保する。
研修医の地域医療研修をはじめとして、医学生や看護学生、さらには開業医や病院看護師など、
さまざまな医師、看護師、その他専門職種の研修を受け入れており、お互いにとっての研鑽機会、交流機会となる。
【研究】医師カンファレンスにおいて抽出された臨床命題について臨床研究に取り組むための時間と指導体制を確保している。
【地域活動】地域包括支援センター等が遭遇した医療関連困難事例に対するアウトリーチ活動や、
小中学校においてがん教育や認知症啓発を行う健康啓発授業である「まちっこプロジェクト」、
地域ケア会議等に積極的に関わる機会を確保する。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　川越　正平

高次医療機関では、医療依存度が高い急性の病態や、診断が困難なケースの原因精査・治療を主に経験することが可能である。一方で、地域の現場においてこそ、医療・介護・福祉を統合し、包括的に把握・考察・対応する経験を積むことが可能となる。

当院は診療において地域の基幹的な役割を担っていることから、特に慢性疾患や進行性疾患の進行期の診療を経験できることに加えて、社会的背景も含めた困難な事例についても効率よく経験することができる。また、上述の「臨床」「連携」「教育」「研究」「地域活動」などの広い範囲にわたる研鑽の機会を設けている。そして、臨床を通じて直面する様々な地域課題について、解決に向けた取り組みにコミットする経験機会を提供する。いずれも、高次機能病院で経験することが難しいものである。

6 か月～2 年間にわたり継続して経験することによって、プライマリケアの継続性を含む高い研修効果を期待できる。そして、高次医療機関が担うべき役割を相対化して見る視点が身に着き、改めて専攻医自身が自分のキャリアパスを考える大切な経験機会を提供する。

2） 経験できる疾患群

悪性腫瘍、神経難病、認知症、慢性呼吸不全、慢性心不全、糖尿病を始めとした生活習慣病など多疾病並存状態の診療を経験できる。また、主病が同一であっても、多様な状態像の患者の診療を経験できる。例えば、がん患者の場合、化学療法のため病院への通院を継続しながら、外来または在宅で併診し、伴走支援する経験や、BSCとなった患者の在宅緩和ケアを経験することもできる。神経難病患者の例として、パーキンソン病患者の薬剤調整に限らず、生活の場でフレイル・サルコペニア予防のためにリハビリテーション栄養を含めた療養上の指導経験を重ね、看取りに至るまでの診療経験を積むことも可能である。また、難易度の高い例として高次脳機能障害や精神疾患、認知症を合併する患者や、大病院では出会う機会が得られにくい例として糖尿病治療中断歴があるなど、適切な医療につながっていなかった患者の診療も経験することができる。

3) 経験できる技術・技能

医療の提供のみならず、患者さんを包括的・総合的に把握し対応する視点・ノウハウを身に着ける（例：糖尿病や慢性心不全、慢性呼吸不全などの疾病管理における食事や日常生活の具体的な把握・助言）。地域ケアのさまざまなネットワークや、医療介護連携、多職種協働、多機関協働についての理解を深めるため、さまざまな連携医療機関や介護保険事業所での院外研修（調剤薬局、訪問看護ステーション、訪問歯科診療、訪問歯科衛生指導、居宅介護支援事業所など）、介護認定審査会傍聴、医師会として市から一部委託を受けた事業である在宅医療・介護連携推進事業、"糖尿病性腎症重症化予防"や"骨折二次予防"、重層的支援体制整備事業に取り組む経験機会も得られる。また、常勤医が取り組む産業医や学校医、医療的ケア児の通う放課後デイサービスの嘱託医といった臨床外活動を知る機会を通じて、ライフコースを踏まえた健康づくりや包括的支援に関する理解を深めることができる。これらのノウハウは、プライマリケアの現場のみならず、病院や臨床教育の現場、行政で勤務する際にも役に立つ内容である。

4) 経験できる地域医療・診療連携

訪問診療や外来診療を通じて、主治医機能を継続的に経験する。「疾病の軌道」を踏まえ、医療・介護・福祉等専門職と協働して、継続的な意思決定支援に取り組む。経験や達成度に応じ多様な経験機会を提供する。例えば、主治医として退院時共同指導やケアマネジャーが主催する会議に参加して助言するなどの他、多職種で構成する外来を経験することも可能である。

5) 学会認定施設（内科系）

なし

4．医療法人社団 創知会 メモリークリニックお茶の水

責任者名　　朝田　隆

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床なしの診療所です
外来患者数	15～30 名／日

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	2
備考	日本老年医学会指導医2 名(常勤1 名、非常勤1 名)、日本内科学会認定内科医3 名(非常勤)、日本老年精神医学会専門医2 名(常勤1 名、非常勤1 名)

3） 施設の特徴

・専攻医が、認知症及び地域包括診療を行いながら、内科専門医として内科的総合医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
・専攻医は、本診療所にて、週1 日午前または午後に診察業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　朝田　隆

メモリークリニックは東京都文京区湯島にある診療所です。認知症診療及び地域包括診療を行っております。
年齢に関わらず軽度認知機能障害や認知症の心理学的検査、薬物療法、治験、リハビリテーションを扱っているのが特徴です。
クリニックという規模でありながら、総合的な内科・精神科診療を実践しています。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域13 領域のうち、総合内科、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、呼吸器、アレルギーの分野で健診施設として可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。大学医療機関への受診勧奨など総合的な判断や指導を経験していただけます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

メモリークリニックは東京都文京区にある診療所です。区中央部にある診療所であり、主に認知症と生活習慣病の診療を行っています。
本クリニックは、東京科学大学病院などと医療連携があり、専攻医の研修状況は、内科専門研修プログラム研修委員会に随時報告できる体制です。

5） 学会認定施設（内科系）

なし

5．医療法人社団 杏生会 文京根津クリニック

責任者名　　任　博

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床なしの診療所です
外来患者数	訪問診療患者数 170 名／月

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	1
備考	

3） 施設の特徴

・本診療所は、機能強化型在宅療養支援診療所として在宅医療に特化した診療所です。主に高齢者を中心に年間 3,000 回以上の訪問診療、往診等を行っています。
・専攻医が、様々な疾患の訪問診療を行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能とを習得します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　任　博

文京根津クリニックは東京都文京区根津に位置し、大学からもアクセスのよい診療所です。高齢者の在宅医療に特化しており、慢性疾患から認知症、悪性腫瘍ターミナルやお看取りを含めた幅広い疾患、また社会的背景も含めた困難症例の訪問診療を経験することができます。地域の医療機関、薬局、訪問看護ステーションや介護職との連携を密に行うことを通じて地域包括ケアシステムを俯瞰し地域包括ケアシステムおける在宅診療所の在り方、在宅主治医の在り方を研修することができます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギーの分野で健診施設として可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専攻医に必要な技術・技能を、地域の診療所という枠組みのなかで経験して頂きます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

訪問診療、訪問栄養指導、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所、訪問歯科診療

5） 学会認定施設（内科系）

なし

6．医療法人社団湖歩会 ゆしまクリニック

責任者名　　大野　喜久郎

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床なしの診療所です
外来患者数	2,500　（2015年）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	1
備考	日本内科学会指導医 0 名、日本脳神経外科学会認定専門医 1 名

3） 施設の特徴

・専攻医が、一般内科外来診療や胸腹部・頸動脈エコーなどの検査業務を行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
・本診療所は、東京都文京区にあり、一般内科診療や胸腹部・頸動脈エコーなどの検査業務や健診業務を行っています。
・専攻医は、本診療所にて、週 1 日午前に外来診療や検査業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　大野　喜久郎

ゆしまクリニックは東京都文京区にある、湯島地域の診療所です。感冒、胃腸炎などの一般内科疾患や生活習慣病といった慢性期疾患の加療を幅広く経験することができます。また、新規患者での心筋梗塞や脳卒中などの急性期内科的疾患の診断も経験できます。検査では、心電図、胸腹部および頸部頸動脈エコーといった技術も学ぶことができ、総合内科的な分野と循環器および消化器分野、脳血管障害分野等の技術と知識を研修で得ることができます。健康診断業務も行っており、健診後の指導や内科的加療を研修できます。新規患者、またはかかりつけ患者に入院加療が必要な場合には、入院加療を行うための医療連携を経験することができます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、脳神経内科の分野で外来診療が可能な疾患を経験することができます。

3) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を、地域の診療所という枠組みのなかで経験して頂きます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療も経験して頂けます。

4) 経験できる地域医療・診療連携

当診療所は東京都文京区にある診療所です。文京区にある地域の診療所であり、一般内科診療、健診などを行っており、なかには急性期疾患で来院の患者もいるため、地域中核医療機関や大学病院への入院診療へとつなぐ流れや医療連携を経験することができます。本診療所は、東京科学大学病院　循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、老年病内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、そしてその他の診療科などと医療連携があり、専攻医の研修状況は、内科専門研修プログラム研修委員会に随時報告できる体制です。

5) 学会認定施設（内科系）

なし

7．賛育会病院

責任者名　　本多　三男

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	199 床
外来患者数	129,252　（2015年度）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	なし
備考	

3） 施設の特徴

・ 東京都周産期母子医療センター認定病院
・ 周産期母子医療、成人・高齢者医療、終末期医療を三本柱に掲げ、地域に根差した診療を行っている。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　本多　三男

・ 初診患者から通院患者まで
・ 地域のかかりつけ病院として風邪や頭痛等の一般的な病気や、慢性的な生活習慣病等幅広く経験を積んでいただけます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域13領域のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、神経、アレルギー、救急の分野で外来診療が可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術や技能を地域の病院という枠組みの中で積んでいただけます。
また周産期母子医療センターのため妊婦患者への投薬等の経験も積んでいただけます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

地域医療の視点より専門領域ではなく生活圏内での疾病及び高齢者との関わりを、地域包括ケアシステムの一部として経験を積んでいただけます。

5） 学会認定施設（内科系）

なし

8．セツルメント診療所

責任者名　　下山　省二

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	19床
外来患者数	30,080 （2014 年度）
	※診療日平均　人

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	2
備考	日本消化器病学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名

3） 施設の特徴

・ 専攻医が、初診を含む一般内科外来診療、訪問診療、診療所病棟医からのコンサルテーションによる病棟患者の診療をおこないながら、内科専門医して内科的医療の実践に必要な知識と技能とを習得します。
・ 当院は 19 床の有床診療所で、地域のかかりつけ医療機関として常時救急対応をおこなっています。内科救急での身体診察・検査結果解釈・治療方針決定を経験し、内科領域の救急対応を習得します。
・ 急性疾患・慢性疾患ともに、入院加療が必要な場合には、重症度判断ののち、当院入院・高次病院搬送などの判断をおこなうことで、基幹病院との病診連携の役割を経験します。
・ 各種専門外来を有し、必要に応じて専門外来の診療を研修できます。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　下山　省二

・ セツルメント診療所は東京都足立区東和地区の診療所です。地域に根ざした第一線の診療所として、感冒、腹痛、頭痛などコモンディジーズを中心とした急性期疾患診療と、生活習慣病を中心とした慢性期疾患診療とを幅広く経験し、各種画像診断を 2 次読影医とともに研修することができます。
・ 訪問診療医として悪性腫瘍ターミナルケアを含めた幅広い疾患を在宅診療の場で経験することができます。
・ 特定健康診査を含めた、足立区が展開する各種健康診断を行っており、指導・治療の必要性に応じて、必要な診察・結果解釈・診療方針決定を研修することができます。
・ 初診を含む外来担当医として経験を積むとともに、地域のかかりつけ医療機関として、内科救急を含む急性疾患や慢性疾患いずれに対してもトリアージを経験できます。
・ 認知症外来を設けており、その外来担当医として身体診察・画像診断・検査所見解釈・治療方針決定を研修できます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で外来診療が可能な疾患を経験することができます。

3） 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を、地域の診療所という枠組みのなかで経験していただきます。救急、急性疾患、慢性疾患、健診・健診後の精査を通じて、トリアージおよび内科外来としての日常診療も経験していただけます。また訪問診療医として在宅診療を経験していただけます。

4） 経験できる地域医療・診療連携

セツルメント診療所は東京都足立区東和地区にある１９床の有床診療所で、地域のかかりつけ診療所として一般内科診療、健診、訪問診療、病棟診療を行っています。病状により高次病院搬送の適応患者もいるため、急性疾患・慢性疾患ともに、地域中核医療機関への入院診療へつなぐ流れや医療連携を経験することができます。当院は、東京科学大学病院　神経内科などと医療連携があり、専攻医の研修状況は、内科専門研修プログラム研修委員会に報告できます。

5） 学会認定施設（内科系）

なし

9．リバーサイド読売ビル診療所

責任者名　　市岡　正彦

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床なしの診療所です
外来患者数	健診受診者14,407 名　（2014 年度）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	2
備考	日本内科学会指導医0 名、日本内科学会認定内科医1 名、日本消化器病学会専門医 0 名、日本呼吸器学会認定医1 名

3） 施設の特徴

・専攻医が、消化器内視鏡の検査業務・診察業務を行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
・本診療所は、東京都中央区にあり、消化器内視鏡などの検査を主とした健診業務を主に行っています。
・専攻医は、本診療所にて、週1 日午前または午後に検査業務や診察業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　市岡　正彦

リバーサイド読売ビル診療所は東京都中央区にある、区中央部地域の診療所です。健診業務の胃部検査では、消化器内視鏡を扱っており消化器内視鏡の技術を学ぶことができます。また診察や予防接種など総合内科的な分野を研修することもできます。また健診後の指導や内科的診察を研修することもできます。健診結果で精査・加療が必要と認められたり、治療中の受診者には、かかりつけ医や適切な医療機関との連携をはかったり、入院加療が必要な状況と判断した場合には、入院加療を行うための医療連携の経験もすることができます。予防医学（二次予防）について内科医師に求められる専門的知識を総合的に学ぶことができます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギーの分野で健診施設として可能な疾患を経験することができます。

3) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の医療機関への受診勧奨など総合的な判断や指導を経験していただけます。

4) 経験できる地域医療・診療連携

リバーサイド読売ビル診療所は東京都中央区にある診療所です。区中央部にある診療所であり、主に健診診断を行っています。中には急性期疾患や精密検査が必要な受診者もおり地域中核医療機関への入院診療へつなぐ流れやかかりつけ医との医療連携を経験することができます。本診療所は、東京科学大学病院　消化器内科などと医療連携があり、専攻医の研修状況は、内科専門研修プログラム研修委員会に随時報告できる体制です。

5) 学会認定施設（内科系）

なし

１０.管工業健康保険組合健康管理センター

責任者名　　小山　良治

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	病床無しの検診センター・診療所です
外来患者数	3475名（2025年度 二次健診外来 延べ）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	2
備考	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会認定内科医 2 名、日本消化器病学会専門医 1 名

3） 施設の特徴

専攻医が、一般内科外来診療、消化器内視鏡または腹部エコーなどの検査業務行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
・本診療所は、東京都千代田区にあり、健診と上部消化管内視鏡・腹部エコーなどの検査、二次健診外来などの健診診療業務を主に行っています。
・専攻医は、本診療所にて、週 1 日午前または午後に外来診療や検査業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　平田　りえ

管工業健康保険組合健康管理センターは東京都千代田区にある、職域の健康管理センター・診療所です。健診業務と生活習慣病を主体とした生活習慣指導、健診の二次健診としての精査や診療を行い、医療機関やかかりつけ医との連携を図るなど、一次予防・二次予防について幅広く経験することができます。消化器内科領域では、肝臓の精密健診外来と、検査においては上部消化管内視鏡や腹部エコーを扱っており、消化器分野の技術と知識を研修することができます。また、検査結果の説明や指導を行うとともに、必要時には適切な医療機関との連携を図ったり、入院加療が必要な場合は入院を行うための医療連携を経験することもできます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、アレルギーの分野で健診施設で診療が可能な疾患を経験することができます。

3) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を，職域の健康管理センター・診療所という枠組みのなかで，経験していただきます．健診と健診後の精査としての診療も経験していただけます。

4) 経験できる地域医療・診療連携

管工業健康保険組合健康管理センターは東京都千代田区にある診療所です。職域の診療所であり、健診と一次健診から発生する精密健診など中心に診療を行っており、中には急性期疾患での来院患者もいるため、地域中核医療機関への入院診療へつなぐ流れや医療連携を経験することができます。本診療所は、東京科学大学病院などと医療連携があります。

5) 学会認定施設（内科系）

なし

11. 本多病院

責任者名　　石川　輝

1. 特別連携施設の概要・特徴

1) 病床数・患者数情報

病床数　47

外来患者数　40名／日　（2024年度）

2) 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ　2

備考

3) 施設の特徴

【1. 院内体制】
東京都大田区に位置する47床のコンパクトな病院（地域包括ケア病棟中心）
急性期から在宅医療までを一貫して提供し、患者の「暮らし」を重視した医療を実践
外来・入院・訪問診療のいずれにも家庭医療・総合診療の視点が組み込まれている
【2. 地域とのつながり】
訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携が密接
同法人内に老健施設（コージーハウスはすぬま）を併設し、施設医療との橋渡し経験が豊富に積める
地域住民、行政、学校、企業などとの顔の見える関係性づくりを重視
【3. 教育・育成】
医学生・初期研修医・専攻医を積極的に受け入れ、成長段階に応じた実践教育を展開
若手医師が活躍する「学びながら病院を育てる現場」で、教育と病院運営が融合
振り返り・フィードバックなど、参加型教育文化を大切にしている
研修テーマを自分で提案・実践できる柔軟性と自由度の高さが特徴
【4. 組織文化・ビジョン】
若手の声が通る、風通しの良い職場文化
「すべての人に、温かい安心を」を理念に掲げ、医療と人間性を両立した実践を志向
心理的安全性と自律的成長が共存する職場を目指している

2. 連携施設における研修環境について

1) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　石川　輝

本多病院は東京都大田区にある47床の小規模病院です。羽田空港にほど近い地域で、高齢化の進む都市部の“今”を肌で感じながら、地域に根ざした総合診療を実践できます。

急性期から慢性期、在宅医療、さらに介護施設までをシームレスにつなぐ「地域包括ケア」の中核として、医療・介護・福祉との連携を重視した実地研修を行っています。病院併設の在宅診療部門や、地域の訪問看護・ケアマネジャー・地域包括支援センターとの連携を通じて、机上では得られない“顔の見える連携”の実践を学ぶことができます。

また、家庭医療・総合診療の視点を活かし、複数の慢性疾患を抱える高齢患者への対応、社会的課題を含む支援困難事例への介入、そして多職種チームとの協働など、都市型コミュニティホスピタルとしての醍醐味を体感してもらえるはずです。

若手医師主体で再建を進めている当院では、「学ぶ・変える・育てる」ことを恐れず、日々進化を続けています。専攻医の皆さんには、病院の一員としてこの現場の熱量を体験し、ともに地域の未来を育む仲間となってくれることを期待しています。

2） 経験できる疾患群

生活習慣病・慢性疾患
・高血圧、糖尿病、心不全、COPD、脂質異常症 など
高齢者特有の疾患・症候群
・認知症、フレイル、褥瘡、せん妄、誤嚥性肺炎、転倒・骨折 など
よくある急性疾患
・発熱、下痢・便秘、膀胱炎、皮膚感染、軽症外傷 など
心の不調・心身の症状
・うつ、不眠、不安、心身症 など
在宅医療・看取りに関わる疾患
・がん末期、非がんの終末期（心不全・認知症）、難病、栄養管理 など

3） 経験できる技術・技能

診療の初期対応力（主訴からの仮説構築・鑑別診断・トリアージなど）を実践的に学べます
慢性疾患（高血圧、糖尿病、心不全など）の継続的なマネジメントと生活指導が経験できます
高齢者医療における多疾患併存やポリファーマシーの評価・対応に取り組むことができます
病棟での医療処置（採血、静脈確保、褥瘡処置、尿道カテーテル挿入、皮膚縫合など）に習熟できます
在宅医療の現場では、訪問診療、看取り対応、在宅酸素管理、点滴やバルーン管理を実践的に学べます
地域包括ケアの中心として、訪問看護、ケアマネジャー、地域包括支援センターとの連携経験が豊富に得られます
多職種カンファレンスや退院前カンファレンスの運営・調整を通じて、連携力・調整力を養うことができます
精神的・社会的課題を含む患者に対する心身医学的アプローチや医療福祉連携のスキルを身につけられます
医学生・後輩への教育やフィードバックを行い、指導者としての第一歩を踏み出すことができます
若手医師主導の病院再建プロジェクトに参画し、組織運営や医療マネジメントの視点を体験できます

4） 経験できる地域医療・診療連携

訪問診療・訪問看護との連携
・在宅療養中の患者に対する訪問看護ステーションとの連携、緊急対応指示、看取り支援
ケアマネジャー・地域包括支援センターとの連携
・生活支援・介護サービス調整、独居や高齢者虐待リスクへの介入、サービス担当者会議参加
施設（老健・グループホーム・特養など）との診療連携
・施設往診、健康管理、急変時の対応、入院・退院支援
急性期病院・専門医療機関との連携
・必要な専門診療への紹介・逆紹介、退院支援・地域カンファレンス参加
多職種連携カンファレンスの運営と調整
・退院前カンファレンス、医療・介護関係者を巻き込んだ情報共有
地域活動への参画
・町内会・自治体主催の健康講座、地域住民との交流イベント

5） 学会認定施設（内科系）

なし

12. 医療法人社団 奏愛会 信愛クリニック

責任者名　　井出　広幸

1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	入院病床無しの診療所です
外来患者数	36,000　（2025 年度）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ

備考

（常勤）・日本内科学会認定医 2 名・日本内科学会総合内科専門医 2 名・プライマリケア連合学会認定医/指導医 1 名・日本消化器病学会専門医 1名・日本消化器内視鏡学会専門医 1 名
（非常勤）
・日本内科学会認定医 2名・日本内科学会総合内科専門医 5 名・日本消化器内視鏡学会専門医 3 名循環器専門医 3 名

3） 施設の特徴

・専攻医が一般内科外来診療・心療内科診療・訪問診療・消化器内視鏡または腹部エコー検査を行いながら、内科専門医として内科的医療の実践に必要な知識と技能を習得します。
・本診療所は神奈川県鎌倉市にあり、消化器内視鏡やエコーなどの検査と一般内科、心療内科の診察、訪問診療を主におこなっています。
・専攻医は、本診療所にて週 1 日午前または午後に診察業務を行いながら研修します。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　井出　広幸

信愛クリニックは神奈川県鎌倉市にあり、大船駅から徒歩 8 分のアクセスが良い診療所です。
・プライマリケア領域の一般的な内科外来診察を、標準化された診療態勢の元で体系的に学び、指導医からのフィードバックを受けることができます。
・心療内科領域については問診や鑑別診断のポイント、認知行動療法など内科医として習得すべき点に焦点を当てた診療を学ぶことができます。患者の理解や背景を考慮し、投薬のみに頼らない診療を行います。
・訪問診療医として悪性腫瘍ターミナルケアを含めた幅広い疾患を在宅医療の場で経験することができます。
・希望者は上部消化管内視鏡のトレーニングが可能です。
・指導経験豊富な超音波技師による心臓・腹部などの超音波検査導を受けることが出来ます。

2） 経験できる疾患群

カリキュラムで示す内科領域 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で外来診療が可能な疾患を経験することができます。

3) 経験できる技術・技能

内科専攻医に必要な技術・技能を地域の診療所という枠組みのなかで経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療も経験していただきます。

4) 経験できる地域医療・診療連携

信愛クリニックは神奈川県鎌倉市にある診療所です。主に一般内科診療・心療内科診療、内視鏡検査・エコー検査を行なっており、中には急性期疾患での来院患者があり、地域中核医療機関への入院診療へつなぐ流れや、かかりつけ医との医療提携を経験することができます。また、訪問診療も行なっており、悪性腫瘍ターミナルケアを含めた幅広い疾患を在宅医療の場で経験することができます。本診療所は東京科学大学病院総合診療科指定研修クリニックに認定されています。また、広島大学総合診療から後期研修クリニックとして 6 ヶ月間の研修を 2 回受け入れました。専攻医の研修状況は、内科専門研修プログラム研修委員会に報告できます。

5) 学会認定施設（内科系）

なし

13. 間中記念御幸の浜リハビリテーション病院

責任者名　　露木寛之



1. 特別連携施設の概要・特徴

1） 病床数・患者数情報

病床数	地域包括医療病床　26床 回復期リハビリテーション病床　56床
外来患者数	20,342　（2025年度）

2） 指導医数情報

指導医数（人）※常勤医のみ	1
備考	

3） 施設の特徴

当院の最大の特徴は、一人の主治医が「外来・救急・病棟・訪問診療」のすべてをシームレスに担う体制にあります。大規模病院のようにフェーズごとに担当が変わるのではなく、救急車で運ばれてきた患者をそのまま病棟で診て、退院後の在宅生活まで責任を持って支える。このサイクルを経験することで、疾患の自然経過と社会的背景を深く理解する「真の臨床能力」が磨かれます。総合診療科が病院の核となっており、各専門科からのバックアップも手厚いため、安心してチャレンジできる環境です。

2. 連携施設における研修環境について

1） 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名　露木寛之

内科専攻医の皆さんには、特定の臓器だけでなく、患者さんの人生そのものを診る面白さを知っていただきたいと考えています。当院では「外来ー救急ー病棟ー訪問」を分断させないスタイルを貫いています。場面ごとに異なる臨床推論を実践することは、皆さんが将来どのサブスペシャリティに進むにせよ、一生の財産になるはずです。現在、4名の総合診療医が在籍しており、皆さんの症例経験を全力でサポートします。近く、初期研修医の地域医療枠での受け入れも予定しており、屋根瓦式の指導体制の中でリーダーシップを発揮する機会も提供します。

2） 経験できる疾患群

救急・急性期の場面では高齢者救急（誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全、脱水・電解質異常など）を中心に、原因不明の発熱やADL低下などの診断困難症例。外来の場面では慢性期・多疾患併存高齢者に対しての生活習慣病管理、慢性心不全・COPDの再燃管理、骨粗鬆症や整形外科疾患のマネージメント、若年層の一次救急としての側面、箱根・小田原地域の旅行者外来・外国人観光客のインバウンド外来。訪問診療の場面では認知症を背景としたBPSD、 癌・非癌を問わない終末期ケア、在宅での看取りケア。また総じて社会的困難事例として独居高齢者、老老・認認介護、セルフネグレクトなど、多職種連携を要する症例のマネージメント等。

3) 経験できる技術・技能

各種一般手技（超音波検査（腹部・心・血管）、PICC・CV挿入、胸腹水穿刺、腰椎穿刺、関節穿刺、胃瘻交換、尿道カテーテル交換など。他にノンテクとしての訪問診療における診療計画の策定、ケアマネジャー等との多職種カンファレンスや困難症例や臨床倫理が問われる症例のマネージメント等。また初期研修医や医療・介護従事者向け勉強会、教育的介入の機会も多くあります。

4) 経験できる地域医療・診療連携

当院は、高齢者救急のゲートキーパーとして、地域の高度医療機関のリソースを守る役割を担っています。同時に、独居や介護限界などの困難事例を「断らずに引き受ける」社会的セーフティネットであり、地域の診療所からの急変リスクの高い症例の引き継ぎや、ご家族を支えるためのレスパイト入院の受け入れなど、地域の無床診療所を支えるインフラでもあります。先述した医療・介護従事者向け勉強会だけでなく、認知症カフェや施設と高齢者のマッチングイベントの企画、褥瘡合同展示会など、さまざまなアイデアをイベントの形に変えて、医療や組織の枠を超えて「地域をデザイン」しています。

5) 学会認定施設（内科系）

・日本専門医機構 総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱ
・日本リハビリテーション医学会認定研修施設

指導医マニュアル

目次

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割……2
2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法と時期……2
3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準……2
4. J-OSLER の利用方法……3
5. 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握……3
6. 指導に難渋する専攻医の扱い……3
7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇……3
8. FD 講習の出席義務……4
9. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先の明示……4
10. その他……4

（資料１）内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について……5

文中に記載されている『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会から示されている基準に準拠しました.

東京科学大学病院内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医に専攻医 1 人が東京科学大学病院内科専門研修プログラム研修委員会により決定されます.
- 担当指導医は，専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので，その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
- 担当指導医は，専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群，症例の内容について，都度，評価・承認します.
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していない疾患群内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年次修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います.

2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は，東京科学大学病院内科専門研修プログラムで求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」に示すとおりです（p.5 資料 1 参照）.
- 担当指導医は，6 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は，6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
- 担当指導医は，6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します.
- 担当指導医は，毎年 7～9 月と 1～3 月に自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行います．評価終了後，1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い，形成的に指導します．2 回目以降は，以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて，担当指導医はフィードバックを形成的に行って，改善を促します.

3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います.

- J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて，当該患者の電子カルテの記載，退院サマリ作成の内容などを吟味し，主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし，担当指導医が承認を行います.
- 主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として，担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除，修正などを指導します.

4. J-OSLER の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します.
- 担当指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います.
- 専攻医が作成し，担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します.
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します.
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録，出席を求められる講習会等の記録について，各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します．担当指導医はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します.
- 担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，修了要件を満たしているかを判断します.

5. 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を，担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します．集計結果に基づき，東京科学大学病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

6. 指導に難渋する専攻医の扱い

年 2 回行われる J-OSLER による専攻医自身の自己評価，担当指導医による内科専攻医評価および多職種による 360 度評価を参考にしながら，専攻医による自己評価と担当指導医や上級医からの内科専攻医評価および 360 度評価を臨時で行い，担当指導医は内科専攻医へのフィードバックを行います．フィードバックにあたっては具体的な指導内容を専攻医に明確に示します．しかし，専攻医に改善が認められない場合には再度評価を行い，その結果を基に東京科学大学病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い，専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます．一向に改善が見られない場合は，担当指導医の変更，プログラム内研修施設の変更や在籍する専門研修プログラムの移動または中断勧告などを行います.

なお，詳細については研修プログラム冊子項目 18.「研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件」を参考にして下さい.

7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

東京科学大学病院，連携施設の就業規則および給与規定によります.

8. FD（ファカルティ・ディベロップメント）講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録

として，J-OSLER を用います.

9. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先の明示（日本専門医機構内科領域研修委員会とする）

10. その他

特になし

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件

   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。